

●赵佩苕 著

石芙蓉馆集

●程根法 编审 吴小谦 黄晓慧 校点

梅隱公像

清乾隆御筆
吳小謙
黃曉慧
校點



温岭市档案局(馆) 编

赵佩茳著

程根法 编审

吴小谦 黄晓慧校点

石芙蓉馆集

温岭市档案局(馆)印

二〇〇九年一月

重刊《石芙蓉馆集》序

《石芙蓉馆集》是乡贤赵兰臣重要著作。

赵兰臣(1866-1929)，名佩荏，字兰臣，以字行，号梅隐，清温岭县城小南门村人。清光绪二十九年癸卯(1902)正科举人，是县内晚清最后一个举人。兰臣出生于书家，曾受业于叶彬、陈子活、张璿卿、梁岑朋等，家教甚严，“不忘先德而自励”、“老而不废学”，于书无不读，“并悉融冶于一炉，而邮通其说”，除经学艺文外，还旁及医学。性恬淡，“不慕荣利，不习与官府近”。自其壮时，文名大著。光绪三十三年(1907)，应浙藩保荐入都对策，以盐课大使赴闽就职，越月余，因母病而返。遂弃仕余，执教于太平中学堂，民国2年(1913)任职鹤鸣校长，主祭孔庙，建鹤鸣教室十楹。后又还馆花山，从事教育和医学。他重视中华传统文化，积极参预或主持地方文献整理工作。曾重修宗谱，编纂《玉环县志》，修复花山九老祠；创建吟社、主编《花山志》九卷。还有遗稿《内经点勘医案》、《尊生随笔》、《六经管见》、《易经刍议》、《石芙蓉馆集》等。

《石芙蓉馆集》全书十卷。卷一，论说经义；卷二，记叙赠与；卷三，箴铭碑状；卷四，传略行述；卷五，寿言輓词；卷六，韵文骈文；卷七至卷十，古近体诗。一至六卷，计文九十八篇；前三卷皆有关人道之作，特别三卷《质斋十箴》，对修

身很有启发。后三卷为应酬之作；七至十卷，录诗三百九十八首。书首有胡大猷序，序作于民国 34 年，冬月。又有林玮黻撰《赵孝廉兰臣先生家传》，又有其长子赵乾(立民)《先严梅隐公自定年谱》。书后有赵乾作《后跋》，分别作于民国 18 年 12 月和民国 36 年。胡大猷序称：“吾邑名孝廉赵佩芷兰臣先生，歿后十六年，其门人徐人骥等集先生诗文，将付剞劂而问序于余，余谓：儒者之学在修之于身，施之于事，见之于言，是三者皆能，不朽而存也。先生生于清末，世衰文弊之际，乃能不拘牵于时，文不驰鹜于新说，好古敏求，始终自守。一举于乡，遭逢鼎革，隐居花山，授徒明志，及门下之士莫不有成。晚更出其绪余，以医术活人，身受者至今乐道。今先生往矣，亲炙之者，尚不乏人读斯遗著，当益信先生为言行相顾之君子也。”

赵乾(立民)《后跋》言：“先严梅隐公，毕致力于义理考据之学，其于诗、易、论、孟诸经，皆能融汇，汉宋别具手眼而有所撰述，足以示后。更以余力治诗古文，务尚谨严博雅。有当于经者，而无唐宋门户之见，故人咸称其诗文之工。而其所以二者，或未尽知也？当其二次还馆花山也，尝以诗稿授郑君丙生，而告之曰：‘以吾游者能诗莫子，若知吾诗者亦惟子。其为我编年而厘订之’。郑君辄为依次臚录，时阅岁余。每有疑必处决于公，公又尝手编其文而病，旋于己巳溘然逝世。乾于郑君适同寓城，遂共同整理遗稿，钞录一过，邮寄金山高吹万先生请序，乃出至之日，其地忽遭兵燹，高先生移寓海上，藏书丧失殆甚，公之诗文亦与斯劫，隔岁寄还仅残文二卷。余与

郑君惟付之浩叹耳。适丁丑岁徐翁子琪自首都官归，以尝受业于公也，思有以继其志事，既为募修九老祠，刊行《花山志》，更欲斥资梓其诗文。乾与郑君乃重加搜集编次，若阅一寒暑，始得就绪。”

《石芙蓉馆集》于民国 36 年刊出，距今已有六十一年了，由于各种原因，至今遗书稀见。2007 年我在编写《温岭乡贤传略》一书稿时，很想看此书，都找不到。今年因温岭档案局(馆)备出版《温岭乡贤传略》。我拜访立民之子赵飞白，请审阅《杏林名儒赵兰丞、赵立民传略》稿时，得悉立民诗友林亚风存有该书，并交飞白保存。经飞白推荐，我阅后，和市档案局(馆)领导商议，他们愿出资重刊。经我数月校点，能与重印。因校点不精，印数不多，仅供档案图书单位贮存备用。

温岭地方遗献整理工作，已取得了一定成就，已出版有志办蔡宝定校点《太平县古志三种》，林家骊点校《谢铎集》(2002 年)、吴茂云校注《戴复古全集校注》(2008 年)及戴福年主编《戴复古全集》等，我希望乘此大好时光，陆续出版更多乡贤遗献，给后代留下宝贵地方文献，尤其是一批已够条件，可出版而未出版的遗献，这是历史职责，希望引起有关领导重视，并希望有志此事业同志共同努力。

吴 小 谦

二 00 八年十二月写于鸣远陋室

《石芙蓉馆集》原序

吾邑名孝廉，赵佩茝兰丞先生，歿后十六年，其门人徐君人骥等集先生诗文，将付剞劂，而问序于余。余谓：儒者之学，在修之於身，施之于事，见之於言是三者皆能，不朽而存也。施於事矣，不见於言可也，修於身矣，不施於事，不见於言，亦可也。孔子曰：文莫吾犹人也。躬行君子，则吾未之有得，亦足见修於身者之可贵矣。先生生清末，世衰文弊之际。乃能不拘牵於时，文不驰鹜於新说。好古敏求，始终自守。一举於乡遭逢鼎革。隐居花山，授徒明志，及门之士莫不有成。晚更出其绪余，以医术活人，身受者至今乐道。尝作“花隐传”以自况，作原生篇以发明人道，佐以三解惑论，其为学本末略具於此。今先生往矣，亲炙之者，尚不乏人。读斯遗著，当益信先生为方行相顾之君子也。然则其可传，固不待於诗文，况诗文尤有可传者乎：其不配而存也奚疑。

中华民国三十四年冬月后学胡大猷序

赵孝廉兰成先生家传

自余粗解文字，城中诸友，可与谈文论艺者，实无几人，而莫契於赵孝廉兰成先生。先生与余生同岁，仅先十有二日，而学识过余远甚。余遇有疑义必就正先生，而先生有所撰述，亦辄过余商榷，以是两人成莫逆交。先生以今岁夏历七月八日归道山。余痛失良友，时常往复於怀。其门弟子杨君挺洲乃诣余，出其今子立民所为行状，请为之传。其文不繁，称不溢美，雅健俊传，酷其父。有子如是，吾友为不死矣。为文以传，固后死者责也其奚辞。

先生赵氏，讳佩荏，子兰成。以清光绪癸卯举於乡闈，艺经聚奎堂刊行，传诵一时。而先生则语余：“吾文何足取，先世自吾父石牧公以上，列黉序者，累十余世不绝。某祖造诣尤精邃，乃亦困於一衿，吾幸获隽，殆先人郁极使然乎”。其归善祖先而自谦也如是。又尝述石牧公处境之艰，与其诂谋之善。谓当咸丰间以避粤难，自城东徙石牛山。辟蒿莱刈榛莽，踞崖小筑，挈眷栖止。身外出授徒，藉馆谷以自给。恒夜归而晨返，于教课一无旷废。劳瘁特甚，吾有三兄，皆以贫辍学。迨吾之生，家始稍稍裕。以吾质性颇不钝，督教之严，而期望之亦殷。此吾游庠吾父已不及见，惟当益勉于学，冀得慰地下耳。其不

忘先德而自励也，又如是。所居故在山巔，逼近南郭，然须攀陟而上，远绝尘嚣，颇极幽胜。先生寂处其问，朝挹晴岚，暮餐翠霭，万家烟火俯拾即是。左图右史，恣自浏览，间或邀约知己，联袂登临。坐宅后岩石上，从谈今古事，逸与遄飞。至日将西下未已，辄留宿以为常，余亦与焉。彼时俱在壮年，豪兴雅怀，亦复相似。既而多人物化，余则日就衰颓，独先生高捷秋闱，健步如昔，芒鞋布服，儒素依然。时来城枉顾剧谈，出所撰著，相质证盖虽老而不废学也。其说经也，举汉宋之各标一帜，及朱陆之互相聚讼，悉融洽於一炉，而邮通其说。於是《论孟序义》、《易象管窥》、《尚书管见》、《诗古义后案》诸书。文则宗尚韩欧，及清之惜抱湘乡。诗则取法李杜，参与近代名家，於是《石芙蓉馆》存稿。盖先生天分故高，益以学力，故於书无不读。凡有所作，无不工。且旁及於医卜之学，而亦致其精。往往运用己意，治人怪病，为所救活者，不知凡几。至遇人之疑问，则今举一字就画数之爻象，而立判其吉凶，然则先生固合儒林文苑，而一之而兼，以技术名也。性恬淡，不慕荣利，不习与官府近。自其壮时，文名已大著。远近从游者，日益多。及领乡荐，司教邑中学长鹤鸣高小校数年，并经浙藩保荐赴京谒选，以盐课大使分发到闽。复膺聘主纂玉环县志，各年余，究以设帐花山为最久。花山者，明九老吟社所在，今已就淹，先生景企遗徽，尝征集文献之有有關於花山者为，《花

山志》九卷。继思恢复旧规，於前岁，偕余及同志出外劝募，诸巨室素重先生，踊跃乐输，巨资以集，经营缔造。迨落成，而先生心力交瘁矣。先生居心忠厚，接物谦和。所为诗古文词，久经脍炙人口，凡遇有喜事，急欲得其一言以为荣。其歿也闻者，莫不感喟太息，而深致其痛悼。况及门诸子之亲承教泽者，宜益追慕之不已，亟思有以永其传也。

元配林氏，生子乾，即立民，女三均适士族。继配蒋氏，生三子，一女，均幼。友人林玮黻曰：吾邑僻在台南，科名不振，士习亦极萎靡。胜清之季，幸得名列乙榜，否或资望稍隆。即无不奔竞趋承结欢令宰，藉渔厚利，以快己私。先生素性端谨，畏事如虎，不轻涉足公庭。虽至亲密友，有冤累事，求为代白其诬，亦必转倩他人，而不屑径自晋谒。此其志行纯洁为何如者。余传先生余且进语杨君暨其诸友，如先生之学问文章，由其姿稟之优，不尽关乎人事。造诣固不易，几若其制行之正，立品之高，则尽人可勉也。诸君恪承师训，其亦於此加之意哉。

中华民国十八年十二月同里知弟林玮黻拜撰

后跋

先严梅隐公，毕生致力义理考据之学。其於诗、易、论，孟诸经，皆能融汇，汉宋别具手眼有所撰述，足以示后。更以余力，治诗古文，亦务尚谨严博雅有当於经旨，而无唐宋门户之见，故人咸称其诗文之工。而其所以工者，或未尽知也？当其二次还馆花山也，尝以其诗稿授郑君丙生，而告之曰：“从吾游者能诗莫子，若知吾诗者亦惟子，其为我编年而厘订之。”郑君辄为依次誊录，时阅岁余。每有疑必处决於公。公又尝手编其文而病。晚岁应酬之文过多，欲别为内外集，既又以取舍不易，分类繁多，梗而中辍。旋於己巳岁溘然逝世。乾与郑君适同寓城，遂共同整理遗稿，钞录一过，邮寄金山高吹万先生请序，乃书至之日，其地忽遭兵燹，高先生移寓海上，藏书丧失殆甚，公之诗文亦与斯劫。隔岁寄还仅残文二卷。余与郑君惟付之浩叹耳。迨丁丑岁，徐翁子骥自首都宦归，以尝受业於公也，思有以继其志事。既为募修九老祠，刊行《花山志》，更欲斥资梓其诗文。郑君旋复得高先生书，有允序意。乾与郑君乃重加搜集编次，郑君尤力任校佳谁之。苦阅一寒暑，始得就绪，而付手民，计文凡九十八篇，厘为六卷。前三卷为论辨、记叙、铭状，大率皆有关世道人心之作；后三卷为传述，寿輓骈俪应酬之文。时有麇入以是为先后，其亦无悖於公内外编之初意乎。

诗凡三百九十八首，则仍为编年，虽略有补葺，大抵皆公所手定。至署签曰《石芙蓉馆》，署地曰旧太平，亦悉沿公之旧，未容稍易者。呜呼！自公之歿垂二十年，乾日困於酒厄於穷累，於室家儿女，碌碌市廛，无以绍承家学，清夜自思，将何以为人。今幸得徐翁、郑君之力，成斯快举，俾公之流风余韵，长此得以震曝人寰，而乾不肖之罪，亦可因而稍遁、其可慰忭者，为何如耶。

中华民国三十六年闰花朝后一日，长男乾谨跋。

石芙蓉馆集目录

卷一 论说经义

原生上.....	1
原生中.....	2
原生下.....	3
经文私说.....	4
芝菊说.....	9
说雷.....	11
曲礼篇义.....	13
群而不党义.....	15
张子房圯上受书论.....	17
汉馭匈奴唐馭突厥宋馭契丹其策孰优论.....	18
食足货通然后国实民富而教化成论.....	20

卷二 记叙赠与

石渠记.....	22
倡建琛山金氏义仓记.....	24
论语序义自叙.....	26
张子正蒙浅注自序.....	27

周易二读自序.....	28
玉环县志序言.....	29
江槛集拾遗序.....	30
花山九老诗存序.....	31
夺绿吟馆诗序.....	33
太平集序.....	34
王韵卿先生梅花百咏序.....	36
盘山九日登高图序.....	37
李秩山先生六十寿诗序.....	38
橘绿天诗跋.....	39
读明清八家文钞书后.....	40
跋先茂才树畜书.....	42
编纂宗谱后跋.....	43
纪梦.....	45
琅岙张氏重修宗谱序.....	46
新场颜氏三房重修宗谱序.....	48
泽国钟氏重修宗谱序.....	50
三至王氏重修宗谱序.....	51
虞山邵氏重修宗谱序.....	52
仙源陈氏重修宗谱序.....	54
练溪金氏重修宗谱序.....	56

书东岸李氏宗谱附录宋将李显忠传后.....	57
覆同人修复乡约书.....	59
与徐生子骐论谱法书.....	62
覆某君责不吊灾书.....	63
赠金翁满足序.....	64
送诸生闻谣暂假归里序.....	65

卷三 箴铭碑状

质斋十箴.....	65
思危楼铭.....	71
二女井碑阴记.....	72
募建花山九老祠记.....	73
玉环县志事江恢阅江南纪念碑.....	75
玉环县知事江恢阅江北纪念碑.....	76
先严石牧赠君行状.....	77
家慈金氏孺人行状.....	80

卷四 传略行述

业师叶彬士先生传.....	82
布衣林啸山先生传.....	83
梁岑朋先生传.....	85

友人林仲严传.....	87
故副魁兰舟柯先生传述.....	89
布衣陈菊人先生传.....	92
陈藻青先生家传.....	93
陈则山先生传.....	95
汪太翁晓麓先生传.....	97
孔桂生先生行述.....	100
紫封林君家传.....	101
旭标张老寿翁行述.....	103
履庭陈先生家传.....	105
陈君苏舫事略.....	107
金君锡麟家传.....	108
王湘帆先生家传.....	109
寿翁成规朱先生传.....	111
王烈女传.....	112
节孝金母阮宜人家传.....	113
苦节吴潘氏传.....	115
金母蔡淑人传.....	116
少逸老本传.....	118
花隐传.....	119

卷五 寿言輓词

狄桂舟先生寿言.....	122
寿月洲林先生七十开一序.....	124
寿庭林先生七秩华诞纪念.....	127
瑞庭赵先生八秩大庆纪念.....	129
锦堂耿先生八秩大庆纪念	
锦堂耿先生暨德配叶淑人七旬双庆序.....	131
寿林君灼亭五十.....	133
襄臣陈先生暨配李夫人六十寿征文启.....	135
石斋王翁七秩晋四大庆序.....	140
中兴悦岭庵珍道禅师五十初度暨正殿落成纪念.....	142
柯兰舟先生哀诔.....	143
金君雨梧免序.....	145
林君子英哀辞.....	147
叶子佩先生哀辞.....	150
张君心韶哀辞.....	152
谢母陈太宜人哀诔.....	154

卷六 韵文骈文

梅花洞赋.....	157
补登高启.....	160

修复花山九老祠小引.....	160
代颂玉环县知事江晖午(恢阅)德政序.....	161
寿镜吾金先生八秩晋一.....	163
夏臣陈先生偕配耿孺人六旬双寿序.....	166
金君季逸家传.....	168
林君嘯秋哀辞.....	170
陈母李太孺人哀诔.....	171

卷七 诗古近体六十四首

秋夜散步口号(以下庚寅年作).....	173
涂硯吟	
九日次父执裴明经诗藏韵.....	173
秋夜步月闻松涛.....	173
秋晚山行口占.....	174
访梅花洞故址.....	174
苦雨行.....	174
题林爵铭上舍 丙恭 凌沧阁读画图(以下辛卯年作).....	175
西湖观荷.....	175
林典史墓.....	175
逋仙墓.....	176
放鹤亭	

断桥.....	176
秋夜醉吟.....	176
病中书闷.....	176
游花山.....	177
过林氏废园.....	177
小园.....	177
天马山登高 以下壬辰年作.....	178
白菊.....	179
伯岳啸山林先生(景舒)以半船楼诗嘱题，久未就，夏间又以留 别同人诗寄示因成四律(以下癸巳年作)	
夜宿灵岩遇雨.....	180
题僧拜石.....	180
题卓笔峰.....	181
题剪刀峰.....	181
能仁寺四眺.....	181
游湖 以下甲午年作.....	181
和吴增川韵.....	181
石夫人.....	182
题林画师渭舫(璜)小绿天.....	182
述怀(以下丁酉年作).....	183
酒熟.....	185

长至日偶成.....	186
后元夕一日同内弟林秀川尝梅月下 戊戌年作.....	186
对菊 以下己亥年作.....	187
六出梅.....	187
踏雪口占.....	187

卷八 诗古近体五十七首

题天山立马图 以下庚子年作.....	188
为人题王某天山立马图.....	188
送画师解芳心臣归黔中 辛丑年作.....	189
次王少尹夔友题所临岳忠武书两出师表拓本七十八韵 以下甲辰年作.....	190
洪君谋九陈君迂波避暑常乐窝余偕画师林君渭舫往访遂宿焉	191
消夏词.....	192
次训导童柘臣花山访林仲严韵.....	192
童师柘臣以小泉村近花山易名为消寒因叠前韵.....	192
即景.....	193
题云阳云院.....	193
咏雪用苏子聚奎堂韵.....	193
余馆禁门之玉海学堂，春暮馆徒观剧未归，凡籁俱寂，有小络	

丝娘穿窗登榻，清响逼人明日还集阶下丛蕉上，如是者数日(以下丙午年作)	
和戴梅枝女士辞馆韵.....	194
除夜.....	194
寿临海秦明经某即送梗友左丞相之四川任(以下丁未年作)	
.....	195
冬至述怀.....	195
和陈韵圃见赠韵即以留别.....	196
元夕大雪(以下戊申年作).....	196
龙山谣.....	197
和王簠山见赠韵(以下辛亥年作).....	199
新晴叠前韵二首.....	199
悼亡.....	199
陈母李太孺人哀诔	

卷九 诗古近体二百二十二首

和王知事儒舫 前赠韵(以下壬子年作).....	201
和王簠山制归被盗韵.....	201
和王知事儒舫 见赠韵.....	202
重九怀王簠山东游(以下癸丑年作).....	202
补九日怀王簠山柬祗修.....	202

即事用蒲作英题新庵壁间韵(以下乙卯年作).....	203
和吴绣卿题壁韵.....	203
倒叠前韵.....	203
和徐赞尧橘绿天原韵.....	204
陈蕙圃就龙王宫结夜课，从者数十人过此口占.....	204
叶简庵墓.....	205
送梁君估咸之官云南.....	205
补梅.....	205
种梅(以下丙辰年作).....	206
后补梅二首.....	206
五月六日大雨寒甚.....	207
寺前瀦水为池，戏成数绝.....	207
秋夜.....	208
补重九.....	208
九月十九日客至小饮即柬吴绣卿.....	208
技穷.....	208
对菊.....	209
移花.....	209
灯下赏菊.....	209
和王心垣后凋草堂韵.....	209
辟地(以下丁巳年作).....	210

开馆.....	211
次韩蕊园题壁句.....	211
再次韩蕊园韵.....	211
题金氏鸿远楼书目.....	211
中秋同人醺饮合乐即席.....	212
即景.....	212
对菊.....	213
祝菊.....	213
护菊.....	213
矮鸡冠.....	213
红凤仙.....	213
五十有二初度自述.....	214
和金谔仙冬青书屋韵.....	214
自题忍冬书屋.....	214
看雪.....	215
戊午元旦(以下戊午年作).....	215
新春书怀.....	216
元月五日郑颂国叶作民见过谈诗.....	216
寻梅.....	216
松花.....	217
呼春示中儿.....	217

早春题新庵壁.....	218
山行口占.....	218
赏菊题壁.....	218
雪里桃花.....	219
带叶梅.....	219
元日大雪(以下己未年作).....	220
山行口占.....	221
雨足.....	221
卧雨.....	221
孤雁.....	222
和临海赵竹友六十自述.....	222
柬叶生作民即用岁暮书怀见寄韵.....	222
林君子毅以瑞香见赠赋此.....	223
补次章一山太史己未冬日回海游故里韵(以下庚申年作)...	224
春阴.....	224
春晴.....	225
假馆棣花书院，院为林氏祠，学时竹坡林君修葺方成， 故书此贺之.....	225
春寒.....	225
品字莲.....	225
前题.....	226

和陈襄臣五十四岁自述韵.....	227
题叶孝子骊山庐墓图.....	227
辛酉新岁感事(以下辛酉年作).....	228
对花.....	228
古意.....	228
即景.....	229
题陈夏臣桐阴试剑图.....	230
不寐.....	230
秋水芙蓉图题卷.....	230
再题秋水芙蓉图.....	231
病起闲步.....	231
岁朝(以下壬戌年作).....	231
春日书怀.....	232
杏花.....	232
山行.....	233
闲眺.....	233
过林少秋果园.....	233
馆归.....	234
风雨中观诸生赏右军帖口号.....	234
水月叹.....	235
赏秋.....	235

盗警.....	236
老少年.....	236
诞日自述.....	236
感事.....	237
不寐.....	237
枕上怀林啸山伯岳.....	237
寒假别诸生.....	237
即景(以下癸亥年作).....	238
癸亥重馆花山.....	238
前题.....	239
春日偶成.....	239
枕上.....	239
首夏新晴.....	240
温岭东南被灾竹枝词.....	240
语蕉.....	241
秋日馆中书怀.....	241
秋日花山怀古.....	242
学禅月远公咏用山谷韵.....	243
后中秋五夕即景.....	243
山行.....	243
祝菊.....	243

络纬.....	244
次王笱山过访不过韵.....	244
怀林仲严.....	244
和王笱山泉溪四咏.....	245
梅雪吟.....	246
梅雪判事.....	246
梅雪又判.....	246

卷十 诗古近体五十五首

甲子开馆(以下甲子年作).....	247
花山春霁读许 盥孚重阳两律即和原韵柬沧社同人	
闵雨.....	247
新晴.....	248
自题见猎集.....	248
闻雷.....	248
喜雨.....	249
萤光.....	249
大雨早起.....	250
雨过行秋.....	250
闻变.....	250
护花.....	251

飞来钟.....	251
二色凤仙重开.....	251
前题.....	252
补题金柏铭留楼.....	252
种柳（以下乙丑年作）.....	252
意中.....	253
题凝翠楼诗.....	254
和裴牧斋六十自寿韵.....	254
和郑生辉南过新庵见寄韵.....	255
叠和前韵.....	255
三叠前韵（以下丙寅年作）.....	256
除夜.....	256
和陈德升听山楼隐居韵（以下丁卯年作）.....	257
和湖北陈汉丞 继平 见赠韵.....	257
次郑生辉南秋与韵.....	257
次郑生辉南天马写望韵.....	258
和毛震伯冬日游花山展谒九老祠韵（戊辰年作）.....	259

卷一 论说经义

原生上

孔子曰：“人之生也，直罔之生也。”幸而免斯言也，非惟关一身之寿夭，而已。种族之盛衰，国家之理乱，胥於此焉。分之不知者，乃委之於气数，否则舍形上而言，形下求之於筋骸血气之粗，养之以药石金玉之术，而受生之理寢，以不明於世，为可惜也。夫人之生，谁生之？人皆曰父母精血之所为也。是知以父母为父母矣，而不知有大父大母焉。未有其形，先储其精。未有其器，先存其道，胚胎於造化之间，升降於冥漠之内，为父母者乃起而迎之。父母而善也，则应之以善，父母而未甚善也，至善者弗能应也。所以召之者非也，故欲其应之也，无不善必於召之者，先求其至善。夫此至善者非他，即天人之公理。孔子之所谓直也，直者生之理，直至生者人道之常，不直而不得生者，亦天道之正。三代而上，国祚久长，君民亦寿考繁祉，故曰斯民也，三代之所以直道而行也。降而后世，国尚功利，人习矮诬，人之死於战争者，往往什之三四。而居平无故而夭折者，更不知凡几。虽以男女之早婚，官司府之憎饰，女间私鬻之孳乳，生齿不加，多而流种，反日趋薄弱，此其故

可思矣。然则三代者，上下之界也，自三代而上以道治故其生也，直偶有不直者，无所容。自三代而下，以欲治故，其生亦直，幸而不直者，虽亦僥然并生，所以戕其生者，即伏乎其中，无谓生也。循斯以往，世变将未有已，生人之理，几乎息矣。可不深惧也哉。

原生中

凡物繁然以生者，皆具是理也。其得生之初，秉气於天也。亦与人同，人得其精，物得其粗；人得其聚，物得其散，此人所以为万物灵也。然人之出生也，每自斫之於既生之后，为父母者又每斫之於未生之前，所以迎其天地者，甚非天地乐生之意，而又不能祕也。姑随其物以予之，於是一家之内，而有微箕商纣之殊。一父之子，而有舜象之异。三代以上已然矣。此岂天之降才尔殊也，所禀者异也，为父母者初终表里之不一致也。其自丧其天者，且不如繁然之物何也，物既繁然而生矣，人不戕之，彼未尝自戕。强者虽亦戕，其弱者而不数数遇，故戕而自苦，非惟不戕，且从而得所养焉。雨露之滋，日月之华，有翕而无泄。饮食之当，起居之适，有节而不逾。故物之寿者，或数百年，或千年，以视人生之寒暑，则倏然短矣。是人之生，不如物之生久也。故寿夭非所以论生也。而可为自戕其生者戒，

可为自斫其天者箴，不然生之修短，天所命也。秉直所生，理所赋也，天所命者不能以人胜之，理所赋者，不求胜而无不胜焉。此夭寿不贰，君子所以修身以俟也。

原生下

人之戕其生者，百端恤恤焉。思所以免之，可谓善其生乎！曰否。人之生也有涯，而所善其生者无涯。上寿百二十，下此或百焉，或七八十焉，或五六十焉，或三四十焉。果寿者皆贤，而夭者皆不肖乎？则无解颜渊与盗跖。有志之士知有生，而不知有死也。一息之存，必不忍自弃於非类。故事功以成德业，以大此修身，所以夭寿不贰也，否则恤恤焉。自爱其生以偷视息於人间，问其何为而生？恐茫然无以对，问其生何异於不生，更茫然无以对也。甚则世变日深，嗜欲日侈，趋避日熟，贪得日多，且为天地之大。孔子曰：“老而不死是谓贼”，其所以叩原壤之胫也。君子知其身於天地，必有与立，非为功於天地，不敢轻其生也。非有益於国家，不敢祈天永命也。故曰循循於人道於言也，慎其所有余於行也。勉其所不足能为益于人，不敢以劳谢也。可为功於世，不敢以自高也。至於年命既尽，而其责始谢，生始以全焉。古之圣人如禹周孔子，为其所当为，不敢自以为功，为其所不得不为，并不敢自以为罪，此即本其

所受生之心为心也。

经文私说

经学一道，难言之矣。三代而上，《典坟》、《邱索》以及《尚书》史氏记言而已。作者无著书传后之见，观者亦取达意而止，不以美恶为妍媸也。自风雅兴，而萌芽启，孔圣有作，绝其流，清其源，删订笔削，一归於道，文字之传始此，犹非有为文之见也。邱明传经，夸目尚奢，然大旨不谬於礼。庄骚继起，文字乃盛，降而战国，异说蜂起，积敷千年以至於今。递变递胜，不可纪极，大抵以轨於道者为正，淫於辞者为邪，有当於道者为经，有当於用者为纬，外此可不传也。顾其中各有异焉。谨以臆说分合，论之后之阅者，其以余言为然耶，其以为不然耶，则非所敢知耳。

《尚书》百篇，出自圣断，孟氏以为不足深信。盖铺张扬厉，史家文胜之弊，终古一辙，然观其书，大本归重性道，而以天道天命为纬。盖性者天所赋以天，治天即以天合天。尧舜之心，法三代之道，化古人之故训格言。於是乎在《典谟》、《诰誓》之文，大抵如此。乌可以孟氏一言，执一以漏万哉。以观后世封禅符命典引诸篇，文体一踵《尚书》。而华而鲜实，雍容揄扬谏矣，岂可同日语哉。

太史采风，以观民俗。书道政事，诗言性情。至情生文，骚雅权舆盖在此焉，然古诗三千，孔圣删之，存其什一，亦复贞淫并录，正变并存，则其所删，大抵不根之论，假饰之言，不可以为法戒也。文字之变，华而鲜实，圣人之防也，豫矣。

文王拘幽，演易系彖。周公作大象，孔子作十翼，大易一书，圣学萃焉。自遭秦火，诸经残缺，存者惟《易》。秦人既以卜筮而存之，汉儒亦以下筮而训之。爻辰象纬，巽议纷然，然非《易》之本也。《易》言天道，实皆人道。天地风雷，水火山泽，一定之气。阴阳刚柔，动静变化，一定之理。盈虚消长，剥复否泰，一定之数。数者气所运，理所涵也。孔子明《易》之四道，虽不废占大衍之数，蓍龟之用不惮委曲详明，以求合天地生成之道，盖谓此也。后世学者，举末而遗本，象数以求合，而易道寔以不明不已颠乎。故蒙之於易，特立心占之法，以己所处之时位，考衷於易，每有动作，用以自课得失。与《系传》所云，观象玩辞同为求理之用，揆以至圣之教，差为吻合以吉凶为得失，所以析理也。以悔吝为忧，虞所以精义也。知吉凶悔吝之生於动，所以存诚也。因易求诚，以诚合道，身心之际可以无疑矣。而犹有疑者，析理愈精，见义愈微。故於于非毫厘之界，或有不能自决，以一所从者，此古之所以有卜筮也。抑或事关军国，安危之大，幽明之故，上下异识，难以偏用者，乃假蓍龟以决之。此殆所谓神道设教者与然，观《洪范》

所言，谋及卜筮，必先谋之，乃心谋之，卿尹庶人知此为诚。至以后之事《易》之用，非学《易》者之所极也。故孔子之於《易》不过取以寡过，随事随时，反观内省而已。惜汉儒之未尽知者，亦言之不祥耳。有宋程氏传《易》专重人道。千所疑义，一旦洞明。虽为经筵进御之作，所言君国大事，为多日用起居之微义所不及，然由斯以求理《易》学其庶几乎。

《周官》为元公手定之书。千古民治之大於此，可见微密周至，次序井然。左氏所云：“经国家，定社稷，序人民利”。后嗣者此为近之顾考以周世，仪法多不合者。先儒谓综其大略，於公世未尽施行，理或然欤。然自夏商以来，治道相沿，其习於民间者，明有不能尽变之势。革其当革，而因其可因，或以今法参古意而行之，得其实而仍其名，使民帖然，而知所从周治，所以善也。周道既衰，诸侯恶其害己，私有删割，残缺之故，盖由於此重。以汉儒好奇，间有移易改窜，后世至有为本之说。宝则宏纲细目，与一切驱民於治，而民不知者，非管商辈所能窥其万一也。尝读《周官义疏》及案言，彼参合，折衷至当，不务於琐碎。且能於琐碎中，推见大本大原，辨疑烛隐，实能高出前古士，以而求焉。虽非复全经，而执偏可以见全。与元公制作之初心，可无失也。

《仪礼》详密迂曲，今世以为不亟。罕能读者自蒙以观，实为小学大学，必由之道夫。安上全下，修己治人，莫善於礼。

礼无文不行，仪礼者礼之文也。六经不外言礼，而度数节，文莫此为详，检束心身，亦莫此为亟。小学既废，人性愈漓，此之故蒙尝欲综其纪要，参以近今仪法，纂辑一书，踵朱子家礼之后，以为家庭乡里之用，有志未逮，良用。既然小子入学，必今先通此经。盖官骸束於威仪，少成若性，习惯自然。洎於长大，自无暴戾恣睢之习，岂得以习仪之诮，因噎而废食也哉。

《礼记》，乃汉儒摭拾群书而成，故其文理纯杂参半。然礼文之散见者，后生小子寻绎为难，得此编而读之，明嫌别微，可以佐周官仪礼之不逮。而《曲礼》一篇，犹为礼本。月令王制，玉藻明堂，位亦治世之大法，为官礼所未及。而“乐记”一篇，统括乐理，尤其精而正者，此三礼所以并存也夫。

《春秋》一书，读者得其意，而已复贬笔削，欲得圣人之道。但平心以观，以求合三代纯王之法及姬周盛时景象。彼此参验，方能得其端绪，不随深文三传之中。惟左氏为能窥其堂奥，而词尚瑰博，文字鼻祖莫此为过。若公谷则信经愈深求经愈凿。时世不明，非失之诞，即失之辨，皆无当也。近得白岩姜氏《补义》一书，专为发明左氏而於林注、杜注多所引伸，差为蒙学善本。究之传注之於经文，终有不能尽合者。去圣愈远，笺释愈难，惟能衷之以道。则上下古今，皆若同揆，有宋四子专以平迈立教，差为近道故。其说为可尊，然而圣言之富，时地之暌贤者，得十之五六而已，下则或四五焉，或一二焉。一

隙之明，一语之当，苟以为可采於公谷乎何病。否则，亲炙至圣，若左氏犹有未当者矣。

於六经观，其聚於《论语》观其散然，至散中，有至聚之归焉。曰中而已矣，其所以用中者曰权而已矣。夫圣人之教，贤人之学，之不胶於一辙，所以为难也。胶则偏，偏则滞，滞则无，以观道之通孔子万世。儒宗言为世法，行为世则。虽其教学论政，言人人殊大旨，皆不外於中，其所以不囿於中，时有出入而不失其启迪来学之意，以圣人之妙於权也。及门所纂记，皆至精至详。虽萃汉宋诸儒之笺释，考订丛残讲求义理大旨，已为不谬。然传注语录略卷千百，学者门径未得，未免望洋自蒙以论，不若於论孟大中，彼此融会，以求印合索解数四然后始观传注，方无舍本逐末之失。以收因流溯源之功，鄙意如此用质，当世君子未知然否。

《大学》、《中庸》，为性理正宗，古隶社经。宋儒表而出之，自为专书。可谓别具只眼，然必由小学入层级，方能自然。否则凌节以求，鲜能达矣。盖穷理尽性之功，知命达天之学，微乎微矣。孔子之所以阐尧舜，精一之传，而贻之及门者，莫若此篇。学者於大中得其纲，於易、诗、礼、春秋，观其汇，而必先以小学立其基，始能心得躬行，动静各得，洵乎学之。不可以轻语也，孟氏之生，后於左氏。而阐发圣言，独得其正大之传者，以其纯乎道也。若左氏则有不纯者矣。孟氏生当战国，

君尚战争，臣攻游说，重以杨墨交争，言咙事杂甚矣。吾儒之教，之所以精微广大者，其不目为迂阔也。几何孟氏抑之愈平，扬之愈明，争之愈力，以人之以学为繁苦。故引之以良知良能，以人之怙，过不悛习於恶，而不知故。明之以性善以当世诸侯王务为力征经营。故斥言利，而进之仁义，间尝综其所言，实与孔圣同一鼻息。浑者露之，微者显之，必使人人可信，人人可行，盖亦不外乎中而以中，行权之道，则又为圣门所未及，故其书足配孔子云。

孝者人纪之大《孝经》一书孔子与曾子言，又能扩充尽致。盖非孔子不能以此言孝，而非曾子之孝，又不足以言此。此书为经世之要，化人之本，尤不可不读。况六经四子教孝者，十居三四苟能体而行之。人为孝子者，也必为忠臣，而以己治人，自近及远，亲睦半章，之化睢麟，官礼之休自不由此者乎。知其徯此，而欲舍而他适，其与弃康庄，而徯径实者，相去几何。故详为之论，以挈诸书之纲。往者莫赎，老者易衰，欲以勉人而动辄自歉，此则余之罪也。来者其勉之，毋忽此瞻，依之日月，而趋名利也可。

艺菊说

比岁假馆萧寺，无以目乐。寺东厢，故有园一弓，芜且久

瓦砾丛焉。春日课暇，躬锄治之，蒔以菊，晴雨不时，则起土灌水，薙草汲汲无少休。客有见者曰：甚矣！子之劳惫而少功也。艺之经年，花时之乐，曾不一月，必曲为防护，乃稍久焉。间少怠懈，则苗萎蠹生。求为一月之尝，而不可得，将尽弃其力，於无何有之乡其劳，而少功也何如。余曰：嘻！天下事，有不劳而获者乎，无有也。劳之不至，其所获也，必微且逸获焉。而非殫志毕力於其间，患得患失，亦不自知其可贵。故欲取偿於一日，不劳可乎。农之於穡，事工之於技巧，商之於贸，迂靡不岁月，以鬪以求得一当，或竟不得，或久而得之。及其既得又皆忘其前劳，虽 肩輹足隳指裂肤，栉沐於风雨，簸汤於波涛，若反因而加慰焉。是则苦者乐之，因逸者败之媒。常人之情，欲有所营，於世劳之不敢讳也。已如是，况以天下不易得之物，求之者，其劳恒百倍於常人。而得与不得，犹在可知，不可知之数。周公之於三王之道，夜以继日，坐以待旦。颜子渊之学孔子也，曰：既竭吾才，如有所立。卓尔盖，庶几得之，而犹未得也。其劳而不悔也，又如是。故周公以善其世，颜子以善其身，吾之於菊如是焉。而已敢告劳乎；劳而有获，且不敢，必敢谓所获之，不足偿吾劳乎。吾人束发受书，垂老而不忍释者，比比而是，问其所得，恐茫然无以应也。与其无得何如舍而弗营，则更茫然无以应也。孜孜矻矻，从事其中，稍有会心，辄用自慰。若谓古人之所为者，庶几可及，且可贻

之后世，传之天下。则虽十百其前，功必踊跃自奋矣。盖为其事者，忘其劳。自古至今，莫不皆然。於余乎何尤父母之於子也。日提携而保抱之不能，必其孝师之於弟子也，指授而讲，贯之不能，必其习而传。吾知有菊而已，其花之足以为吾乐，与足尝，吾愿与否，吾不暇计也。客既首肯请书之，以为世之操切图功者戒。

说 雷

戊戌某月日夜，大雷电，雨下如注。越日有自南乡来者云：於海滨震一妇，未死获於吏。妇尝窃金毙人命，史捕之而不得。此夜归言自外归，捕之者不知也。泊舟海岸以雷迅雨疾，将避宿他处。登舟雷忽大震，而妇仆於前，得获以论罪死甚矣。雷之神明，人之欺天，与吏者，皆得而治之也。世传鬼神之说，都迂诞不足信。风霆日月其为神最显，而理反不彰。浮屠家或及之而言不雅驯，眩乱反覆转以滋人之疑。惟祸福自召一语，差为近之而不详，不尽能申佛家之意。而终无以服学士、大夫之心。窃尝平心推之，佛家言报应，事犹幻，儒家言感应，理最真也。书传载周公武乙事雷之神明，已大彰著矣。然以其事难凭，论理者鲜言之。是故闻殷隆之响睹闪电之光，儿女子知畏之。知识稍进者，则不畏矣。农氓村竖知畏之，而稍有材略

声势者，则不畏矣。其不畏也，盖亦谄为明理之流，以此为地气之适然，时今之当然，而昧乎天理之确然。为此说者，盖不明之，甚未足以言雷也。且夫生人者，天也。天既生人，则必不容有害人者，以夺其生人之权。天以气生人，即以其气还治害人之人，以大生斯人，此天之可信者，不如是，是无天也。且害人之人，人不能制，更不能诛，天又不能治，彼狡狴之伎俩，将何所不售，何所不至。而诚笃孱懦者，将何所容，於宙舍之内，则又理所必无者也。迩来西人推步测候，号精天文。始专以雷为地气。自谓格物知至，著雷神辨，以明雷之非神。嗟乎！此不知理也，抑亦不知气夫天地一气耳。升则为上，降则为下，阳升阴降，见阳不见阴，则谓之阳气。阴升阳降，见阴不见阳，则谓之阴气。实非有二气也，更以何者分为天气地气乎！自余以论雷者，气也，阴锢於上，阳动於下，则发声如灶火，下燃汤沸于釜，是也。阳气已泄，阴气渐盛，则收声如火烬汤寒不能作响也。激而旁射则为电，如击石生火，解而上蒸，则为雨，如医家取汗，此气因时而行者也。雷起东南者，南为阳方，气迎而动，如杵遇钟而鸣，挝遇鼓而响也。东方震木，生阳之本，子动母应也。此雷之因地而著者也。阳气所鼓，运行空中，无所。则不至木或根摇石或中裂，即泄而下惟。人亦然刚狠之子，暴泪之气炎炎逼人，则与阳气相争霹雳一声发焦肤灼，则以两阳相激，天胜而人败也。抑或自犯不韪，气馁

於中，神搖於外，如木石之中虛者，陽氣積乘虛，故或死，或不死，而痴獸，此氣之附理而行者也。不然若婦人者可謂巧矣。冒雨夜行，誰知之者，然非逃罪，胡為夜行，非逃罪夜行吏胡由捕，非大雷甚雨，舍舟登岸，捕者與逃者胡以相值。此理之可知，亦情所可信者也。願或者謂東南有雷，西北無雷，秋冬少雷，春夏多雷。果能治人，胡有治，有不治也。余曰：此又惑於浮屠之說者也。人之框法違天，為天所殛者，天欲死之，何必雷風沙，水火兵刑盜賊，皆足以死之。雷為陽氣，故治其時與地耳，外此亦冬有治之者矣。余悲浮屠知進人為善之意，而失其本旨。西人又以浮屠之意為謬，而自挾管見以炫耀于世。俾為惡者無所警戒。竟若天地之於人，听其所為，無如何之者。以余所見聞考之，殊大不然。子曰：鬼神者二氣之良能，惟其無所不能，所以為鬼神，惟其所能者為氣，所自然此感彼應，絲毫不爽，所以為良人如知之，其無疑於吾說矣。故詳言之以告世之無所畏忌者。

曲禮篇義

鄭氏目錄，以曲禮為記五禮之事。余謂此蓋賅括五禮而言，舉其綱要，故以為全書之冠。曲之云者，一偏一曲之謂中庸。其次致曲，曲能有誠蓋謂此也。自非生知之，聖則天秩人序，

必待学焉。而明此礼教之所由兴也。故必敬以立其体，(止直而勿有)让以达其用，(止知自别於禽兽)往来施报，以尽其情。(止则志不慑)由是有尚齿之典，(止不辞让而对句)事亲(止冠衣纯采)敬长之文，(止离立者不出中间)男女(止笄而字)饮食，(止庶人齧之)人之大欲仔焉。故必有礼焉，以割情而制欲，而后人道，不同於禽兽。人子之待亲疾，执亲丧事亲之变也。故不敢以常道处之，(止有丧者专席而坐)献遗之容，(止则必下堂而受命)齐丧之色，(止不失色於人)敬之所由将也。故动静不敢肆，歌哭必有常。至於贵贱异数，德武异文，亲疏异制。(止士之辱之)公私异宜，男妇异尊，卜筮异用，(止则必践之)则卿士大夫，不敢逾制，而废职，因私而害公，此君臣上下之辨也。古者出必以车，臣御其君及夫人同等者，亦相御，故有仆御之礼，然不以为贱役也。惟君则加肃耳，(止齿路马有诛)礼存於恭敬，故一执器也。而手容有必恭，足容有必重。(止无藉者则袭)礼行於退让，故一称名也。而上下敢慢，下贱不敢逾尊。(止不顾望而对句)丧纪祭祀不求变俗者，所以敦本也。故君子不轻去其国，(止土死制句)诸侯大夫不敢躐等者，所以明职也。故天子变受治於天，此礼之大纲也。以言其大，无不赅於五礼之中，而其举动之慎，肆应之周。莫不由於于偏一曲以求践其当然之则。中庸称礼义三百，威仪三千。说者以礼义为经礼，威仪为曲礼，其深有见於此乎。通篇以敬字为主脑，定亲疏四句，则

礼之范围，道德仁义一节，极言其功用。以下语以类及，不必分章裂句，而次序自见。但童子初学，不得不稍示以片段，以蘄便於会通，然其精微初不系此也。曰礼不妄说，人知此，则可与立，而足恭这耻可以免。曰毋不敬。知此，而可与适道。而外义之说，可以破。曰礼从宜，使从俗。知此，而可与权，而因革损益之道，可以观。刘向别录，以此篇属之，制度不岂无见哉。圣道久晦，制作日芜，得此篇而读之，而古先五德，六行之教、仿佛犹有存者。由是而之焉太上立德，庶几近之，或者不知。见其路马，必式蹴刍，必诛以其过，於尊君疑为秦氏之书。夫不忍，不敢之心，礼之所由生也。故祖父之歿也，不敢登其垄，为宫室者，不忍斩其丘木。孟氏谓：读诗者，不以文害辞，不以辞害意。若斯人者，岂足以知礼意乎。

群而不党义

人者天之人也，心者人之天也。得乎人之天，斯无秦越异视之心；得乎心之天，斯无玉石杂糅之见。否则，手裁之峻，阿比之私，门户角立之偏，皆足以生事召变，而其人之器识学问为不足取矣。将何以为君子？《鲁论·卫灵篇》群而不党，集注和以处众而不阿。比说本包氏，君子处众之道，诚如是矣。然和者，君子处众之道，和众而不阿。比於众者，君子存道之

心，此伊川程氏我以引之於心意，公私之间庆源，辅氏所以伸之，以天理存亡之正也。考之字书群党皆互训，或则并诂。为朋为众均与此义不合，请还证之。《论语》曰：诗可以群，曰鸟兽不可与同群。此群之义近公也。曰：人之过也，各於其党。曰：君子不党此党之义近私也，公则为和为周，在朝可以收同寅协恭之美，在野可以释矜世骇俗之嫌。私则为流为比，有其材则凭城据社，而堪虞。无其遇则逐末随波而不恤，公私之闲群党之义判然矣。君子之群而不党，之由於器识学问亦昭然矣。由是以推，王导纵恶於王敦，蔡邕铭恩於董卓党矣，而无所为群。贾生羞伍夫，绛侯屈原被谗於靳尚，不党而亦不能群，所谓群而不党者。必如诸葛孔明、陆敬輿、范仲淹诸君子，以集思广益，而渊然以黜邪崇正，而毅然以激浊扬清，而霭然盖无其量者，不能群群矣。而识不足以自固，则又不能不党此其大较也。自此义不明，朝廷无以收群策群力之效，而朋党之祸遂为世诟病。如汉之南北部，唐之牛李，宋之洛蜀，朔明之东林，虽不可以一概论。而元祐之碑一网打尽之计，小人之所以倾陷正士者，无所不至。而不能以群化党，使合乎人心之正，天理之公，诸君子亦与有责焉。以为群则君子与君子宜无不同，何以洛蜀朔之显分门户以为不党，则聚徒讲学，何必以诋讥朝政为能。非器识学问之兼至者，盖不足以语此矣。后之君子果以释党为心，而不以树党为事，则进而正色，立朝无非取善，同

人之雅退，而杜门养晦，不改读书稽古之常。其在礼曰：君子敬业乐群，此君子之群也。其在书曰：“无偏无党，王道荡荡”，此不党之君子所普为治也。否则意气未化，而声气助之，至欲合群力为君国抗此，则天下之乱言也夫。

张子房圯上受书论

古今怪异之事，其有无不足论，圣人概不之语者，以其易於遇人也。若於茫不可知之，人以其踪迹怪诞，迫而求之，褻而就之，则尤愚之愚者。汉有子房，固共推於智者也。史称其受书圯上，事亦近怪。苏长公以老人为秦隐君子理或然欤，顾以再三折辱，为挫其锐气，果若所云，子房之气已尽於博浪一击，昂藏丈夫，取履进履，乌能一一唯命哉。士君子读书，明理敬长，虽有明文，而足恭实所深戒，以卒然相遇之父老，下而取履宜也。跪而进履，已恐为宣圣左氏所耻。乃期之三赴之三，折辱之而不顾。其心有所徼求，如今之愚夫愚妇，告哀土偶木俑，以祈福田利益也，子房若是乌乎。智自芳子曰：子房固智，书其纂辑以导沛公者，即今所传《素书》是也，诧之圯上老人者，神其事以动沛公之听也。以不言兵者为兵书，故众人不能解也。尝考子房受礼淮阳，持身致君之道，谅所夙闻，一旦得事沛公，苟不辅以儒术，百世之下，人其谓子房何此书

所由来也。或疑《汉书》明言太公兵法《素书》词义平近，多孔老荀卿所常言，不足当兵法之目。不知此亦子房之诤词也。子房以沛公赤足谩骂失君人之度，又雅不喜儒，所以辅导者实难。故诤为兵法，欲公急世之用听之，而不疑也。取履之命，进履之辱，失期之谴责，皆沛公中病之药，所以作其尊贤敬士之心。所谓以柔道，致人者也。书不言兵，而以为兵书，故众人不能解也。不然以不读书之高帝能解，而人反不能解，此又事理所必无，岂天授者果有以异人乎哉。

汉驭匈奴唐驭突厥宋驭契丹其策孰优论

不观之驭马者乎，善驭者有人与马，调惟其所策，驯扰自如然，非骐驎之马。王良伯乐之御，不能下此羈勒不已，乃鞭笞之而马，始受其驱。使中国之与夷狄，持之以和，待之以诚，良乐之善道也。至不得已修文，不能偃武耀德，亦复观兵，或以战而和，或以和而战，亦羈勒笞之用，良乐所不废者。自汉唐宋之驭夷而论，和战两途而已。其时诸臣所建策於朝廷者，大抵亦不外是。惟是国之治乱，异敌之强弱，异时远之盛衰，又异故。同一和战之策，而彼此优劣之数分矣。汉文帝当秦项兵争之后，务於安息斯民，则娄敬之策为优。武帝际，文景富庶之余，务於兵力及远，则王恢之策为优，此因国势而异者。

唐贞观十六年，突厥已服，其附薛延陀者，尚屈强漠北，则敌衰，而我盛，故契苾何力主战之策优於房文昭。宋端拱二年契丹陷易州，当高粱河歧沟关屡败之后，则我弱而敌细。故李昉、王禹称主和之策忧於张洎，此以敌情参之国势而异者也。他若汉之宣帝不和不战，匈奴亦不复叛。唐太宗便桥之役，不战而示以战。宋寇淮澶渊之役，欲和而不遽，与之和此皆深悉乎敌情国势，而纵控自如。故虽同一和战之策，汉可馭匈奴者，唐即可以馭突厥，宋即可以馭契丹，苟胶於成法。则不当战，而议战，不必和而议和。策虽同而优劣遂以大异。综而论之馭马不难於康庄而难於峻阪，馭夷不难於强盛，而难於并我为强盛，汉武帝唐太宗，当中国强盛之日，而匈奴突厥又有罃可乘，羈勒之唯命鞭笞之，亦莫不唯命俯首帖耳，何施而不可。若汉文帝宋太宗之时，则匈奴契丹，皆足与中国敌。冒顿固一世之雄。耶律休格具治国之才，而又优於将略颉利有一浑邪而不能用，休格乃独能行其志。故契丹制度政事判然与毡裘之族不同。宋太宗拒女真高丽之助，盖实见契丹国势与颉利悬殊，使稍一鞭策将惊逸颠顿，而蹈不测之险，和战之局随事而异，彼房文昭张洎诸人岂得藉口於娄敬王恢哉。夫惟汉唐宋之君若臣，以坚忍之诚，运不测之用，羈勒而鞭笞之，马之桀骜不驯者服，即驯扰之而使之腾骧蹀躞於渥洼之池，不至啮人，而马亦服。甚且施鞅轡於断阨绝阪之中，而马亦未尝不服焉。或以馭为馭，

或以不馭为馭，而奴匈以衰矣，突厥以服矣，契丹亦以之而和矣。其馭之之策，欲不谓之并优得乎。语有之诚於御者，馭驾之马不能欺诚於治者，虎狼之国可以服讲馭夷者，亦务积诚以先，人相天时人事，以为张弛而已。

食足货通然后国实民富而教化成论

班氏之赋两都也，王东而霸西。后之论汉史者，亦谓西汉之经术，不知东汉之节义意，孟坚生光武朝，有所左袒，世遂承袭之，云云也。及观《汉书·食货志》所云，乃知系承平而阜康系早阜康而熙洽，非一日事。班氏为西汉惜未尝不为文帝幸也。三代以降君师道分，封建、并田、学校三大政，相继并坏。为治者，将欲先正德於厚生，并陈常於率育。当周之季，已苦其难。况又中更秦暴水火兵革之余，枵腹而谈，诗书徒手而行官礼势又有所不能。故国民者教化之所流行，而食货者尤为国民之命脉，足之通之而富实，见富之实之而教化，成由霸而王之道，舍此无适矣。汉兴以来，高惠之世，他务未遑。鲁两生积德百年之说，又足以沮天下之人心。故武宣以还，日趋於霸，而财赋之拮据，亦日以甚。食足货通非所云也。惟文帝祖尚黄老，洁清寡欲，以致粟红贯朽庶几国实民富矣。而礼乐之兴，谦让不居，盖其所操者，狭故其效止此耳。然以视武帝

之置均输设平准。宣帝之慎赏罚，课名实日，斤斤於食货，而民日以困，国日以贫，其不贫且困者，亦终不至於富实。知文帝之节俭自持，犹为近王之治乎。假令先后数十年间，贾生不亡，广川继用，申贵粟重农之义。而袁盎、晁错之刑法，不得参罢舟车缙钱之算，而桑宏羊孔仅之掊克无所用修正，谊明道之教张汤杜周之钩距无所容。仓廩实，然后知礼节；衣食足，然后知荣辱，教化之成虽三代何以远过。乃有其人，而不能用。用其言，而不能尽此。固儒术这不幸，抑亦修史者，所深叹也乎。虽然文帝之治不纯於王，而其治术之演为教化者，非不卓然可以，共见父子继述媲美。成康天下，刑措不用者，几二十余年，使反而为急功近利之为度不过，如武之管算宣之综核。而西汉一代之中武宣以前，治日进，武宣以后，治日衰。其故不从可思乎。嗟乎！蕝国之宝，君必恭俭，蕝民之实，君必仁慈，恭俭仁慈之君，可流於黄老，亦可引而至於尧舜。果得儒术以为之辅，大学恒足这道，周礼阜通之经，皆可以次第施，尚何患节义之不隆，王道之不茂哉。吾知班氏於此，方将书和亲，康乐安平之不暇，食货一志，胡为而作哉。吾故详为之论，以见为治之必以儒术为贵，可进於王者，慎无自止於霸也。

卷二 记叙赠与

石渠记

家山最瘠，而少水。花木不蕃，蕃惟石。磊磊砢砢，牵牵确确。自西趋东若颺之绵，若椒之衍，若徐熙水墨之画。偏四旁几无罅隙，其稍平衍者东南。余家之西北，祖若父先茔在焉。茔负石若蟹螯至圻擘而两，若二螯夹茔。而前前左右三面，有石田数十。小方若喷沫然轮廊皆石，限之茔旁两跪，伸出可十余丈，作夹护状亦皆石。茔之后累石而上至巅，戴钜石横卧若眠牛。邑志所称石牛是也。牛尾北首南头角，崭然有两鼻孔，蚀其一，一尚存，藤萝络之。相传其上有“览胜”篆文，顾漉漫不可辨。其下则先人之敝庐后高处一石，俯而伏石牛下，顾之作犊状，先君子曰此石犊也。由是上下前后，无非石者自庐而下，水从石罅出。余家所从汲也，泉颇甘，而其流不大，不可为潢污陂池以蕃菱芡，不可为风亭月沼以恣游观。虽有水若无水也。井以上作两道，一汲道，一则出入系之，亦皆有石界。道者削若壁当道者层若级，位置天然。东北为县治，出治历二溪，登鹤鸣山，凡二里抵於家。将近舍，有两石对峙，涂出其中，若关隘曰岩门。折而南有纱帽岩，石黑滑。迄而北曰石虾蟆，石磊聚彼以色名，此以形名也。由石虾蟆三折，达余家。

其一折有石当道，涂出其上。上一小石，累大石基狮子蹲下。一石圆瘦多皱，则若球焉。稍进又一折，上有数石。若群羊奔而下，一石颇高。可登望海，浊波弥漫，隐隐自山缺。现界道稍坦，一平石方广丈余，可作簟曝物。道下尤多石，卓岩在焉。约二十步又一折，有石若阶旁若几上有覆釜，登阶而至余门矣。此余家之门径也。卓岩者，圆而平径六尺，有咫可团坐十余人，九日作登高会，以当一卓之用。旁有石若席，若床席有茵床有枕皆石为之，可以坐，可以卧。侧一石作小涡可容斗余，雨过水聚，可沃可盥，惟不常得水，艺一花无以溉之，游息其间颇为憾。岁冬无事往来步石间，锄其榛莽，意想所至，异境顿开，石忽而花，花而菌，菖筒实。茄叶了了可辨六瓣，眉列中有心其作卓形者，花侧面也，其有涡者，花反折瓣也。其右有三石，平尖者莲房也。其仰若孟，俯若盖，可立可卧，可坐百十人者，花之叶也。一叶承花，筋络习皱仿佛毕肖。噫奇矣！夫石而蟹，而牛，而群羊，而狮子，而几席器物，惟形之肖，人能名之也。若石而花，非人能名之，天实划削之也。昔周濂溪先生於花中独爱莲，推为君子。余山居此，花少所观，植之或不蕃蕃矣。而开则可乐，谢则可哀，未见其可爱者。故惟爱石。君子之交，久而不变，其在斯乎。石为我花，我将为石渠。渠不宜松，我松之。渠不宜柏，我柏之。藤萝薜荔生於石，不生於渠，我亦不芟刈之，将以顺物之性也。渠有舟，舟石也。

渠有桥，桥亦石也。实皆花之枝叶，扶疏可以行，游其上也。每当月夜，空波满山，涛响出谷。俯视松柏影，皆作苕藻浮山，虽少水，而得水之趣者多矣。况复牛饮上流，蛙出浅渚，爬沙有蟹，饮谷皆羊。山惟多石而得，石之助者多矣，何必渠何必不渠，故作石渠记云

倡建琛山金氏义仓记

古者天子建国，诸侯立宗。宗子有田，禄以贍其支庶，是以老者得所养，幼孤得所长，鰥寡茕独，疲癯残疾之人，亦不至颠连而无告，所谓大宗收族者此也。自封建变，而宗法废，乃有义仓以济其穷，然贫者既绌于财，而强有力者，又或因循而不举，易於落成难於虑，始人情大抵然耳。邑西乡金氏，自旗峰而东，环七洋而居者，毋虑千数百家，自其著者言之，则曰东洋，曰琛山，财之饶始推东洋，今则莫不以琛山为首称，既庶且富，必思所以芘荫其子孙宗族，亦理之常也。顾考金氏之有义仓，实始於东洋，有田若干，岁以所入，推陈易新。灾荒之所廩，给贫乏之所收恤取之裕。如而族治之而不能举者，且饮其羨，余以成，以是为七洋所利，赖而琛山不与焉。前附贡生竹友先生引以为憾，慨然出贖，提倡集东西两房，而晓以大义，靡不欣然从，时光绪二十有七年也。先生以族论，金同

与伯叔昆季，斟酌财力，按亩筹捐。东房得田一百亩，西房得田二百亩。积其租息，以备建仓之用。越三年而货集。遂卜地於河头洋，鸠工庀材，数月之间计成仓屋，一进五楹门，东西耳房，亦如之缭以周垣，宏敞深固。而山水之回环秀丽，又足以巩形势而壮观，瞻宗人欢然，莫不归功於先生。而先生犹以积储之多，规划之大，不逮东洋退然若不足。然经始以来，众情之不易一，财产之不易集，纪理之不易，周皆足为其事梗。先生则罔不以身先，以至延师择地料量土木，严寒酷暑不敢言瘁。盖自壬寅春迄乙巳冬而落成。三四年中，先生心力交困，而始有今日。以视前此艳人之有而不获，稍霑其益者，得失何如？更视他宗之有其而无其事者，勇怯又何如？先生虽欲不居其功，岂可得乎。余读《钱公辅义田记》每叹范氏之子孙宗族，久而得所利，赖者恃有，文正公其人耳。天下仕宦富实，如范氏者岂少也哉。而能为公之所为，卒鲜何也。无所感以兴，有所待以隳，志不说，气不充，而欲事之成也难矣！诚得如先生者以为之劝则强有力者孰不欲置田以惠其子孙宗族，子孙宗族之获其脩而受其成者，孰不思守其法，以善其后。非第为金氏言，而金氏可以勛矣。今其嗣君，乃溥以宗谱将成，请书其事，故论其经始之功如此。若其守藏之司，给罢之法与其后之所以扩充而光大者，当自有记，兹不赘。

论语序义自叙

语书名也，论者成书之名也。古者，辞尚简要，无以数字名一物者，以称此可赅彼也。古不文字，其所记述口语而已。若以两字名一书，则语言也。论亦言也，烦复显然，故典则曰《典谟》，则曰谟下而训，《诰誓》命皆止单辞，官书且然矣。其他私家纪录统称曰语。降而秦汉，犹存斯义，《论语集解疏》曰：“语者书之专名也，论者伦也。”圣人之言，自有伦次。门人小子又从而论定之，故有是书也。余读而信之。古无章句而有篇第部居。故圣人考订群经，必有所断，定而排比之，及门士耳受目睹，虽及再传，当存斯义。矧简策繁，重厘为卷帖。苟无次序，何俟记为。余熟复是书首学次政乡党，自为专篇。卫灵、季氏、阳货，亦以次及，积思数稔，其义益明。载考旧籍，梁皇氏侃，宋邢氏昺，为集解作疏，曾操是说。翟氏四书，考异颇非之。文公朱子作集注，或从或不从，盖其慎也。窃思圣人言，殊理一动，而皆应记其言者，属辞比字顺而成章。学者既鲜，生知又非亲炙。数千年后，欲衷一是，事亦甚难。展卷读之，思之辨之，又从而心体神会之，贤者得什之五六焉，下此或三四而止，或一二而止，舍而不学，终为愚人。以愚者之无得，视彼一二不犹愈乎。故於圣言之富，性与天道之精且深。适填索涂，何敢妄冀。寻端竟绪，自为之说，以附记者之

后。后有观者或谅余愚，从而假借之。曰圣人既远门人，小子论定遗言，或有万一焉。余则幸甚，愧甚。

张子正蒙浅注序

《易》蒙之九二曰：“蒙以养正，圣功也。”盖得六五之应，以阳刚而处阴，位居中得正，故为蒙养之象。小学既废，群天下而趋於无本之学，自衰周至於宋，凡千余年，一二名公钜儒，尚知私淑孔孟，而教之不明，童而失所养者。如故斯道之不明於世者岂细故哉。横渠张子，独以是书发明天人合一之旨，以为立教之本，举阴阳造化少理，引而进之。於吾心之丙而一切寡过慎幽之功，即在其中，充类至义，俾赤子同具之心，浑然为一太极。会诗书易礼大中语孟之全，合炉而冶。体之可以为道，措之可以为教，此关学之所以盛。而横渠之体大，思精为儒先所共翫也。苙肤受未学，未足窥其涯涘。前二十年得西铭读之。始能究其端绪，继续熊敬修所为学统撰录“正蒙”数节，谬为之说，以为体验，未暇究其详也。比岁假馆花山，於吾友郑君案头，披阅性理大全一书，辄取而一再诵之，乃稍得其旨要。知此为横渠平日讲授之书，妙将天道人道说得混合。君子之所以体道，圣人之所以体天，天之所以为天，人之所以为人，似二而一。眼光之远大，为诸儒所未逮。其教学也，既以《东

铭》纠之，使正复以《西铭》，掖之使前而归结于仁孝合一。将一仁字分量直说，到如天而止圣者之所为岂外是哉。自宋儒撮《西铭》一篇，单行於世，性理大全遂以末尾一篇。为乾称，不知此书原分十五篇，首二字标之者，或错举首句中二字未有别为名目者，是十四篇宜属至诚乾称一篇当指《西铭》，无疑因为更正以复旧观，并略为诠释，以便初学夫以性与天道之渊微，天道易数之恍惚，不特释者为蒙皓首儒生有问以天人合一，道鲜能言者是毫亦犹之蒙。得是书以正之既以自砭其愚而订其顽而天下之后生小子庶有所是正，知天人之不尽相远也夫。

周易二读自序

《易》之为象，本无所谓象也。说其卦爻，以取譬於日用事物而已。自汉儒齿以求象，而易之道晦。魏晋学者，奥愆於言象之失，务舍象以言《易》，独取其所谓理者，而《易》之义益以不彰。夫理虚，而象实。虚者不可方，乃摭实而言之。是《易》之有象，固真而非幻也。幻以求象，而不得始，一遁於爻辰，再遁於识纬，而《易》遂为方术。小数所假借后，之为是书者，亦谓卜筮亡易之象，遂不可复知。呜呼必以卜筮言易，孰有过於六日七分之说。《易》之为用何以寡过，又何以通变，而宜民哉。故自蒙以观《易》之象，显易之理者。爻变象占，

圣人之并存其说。亦以明。《易》之理，未尝有卜筮之说存其中也。以卜筮言《易》，而《易》之用小矣。余恐后之惑於二者之中，理与象不一，而求《易》之道，往往歧之又歧。故於诵读之暇，信笔书之以自课得失，并以为家庭课本。若以问世当俟之，三读四读之后，未敢遽以自信也。

玉环县志序言

玉环与吾邑为接壤，旧皆永嘉地。江以北旧皆吾邑地，言语俗尚大致相同，江南则旧隶乐清。自府界破废，以道统县，会稽之与瓯海始划然为二，然皆为边海县，瓯越之名，并称於书传者，指不胜数。魏晋以来，骚雅之流连，仙灵之窟宅，往往而存戒於倭寇，既治复弃，典章文物遂以失传。自明以后，始稍复见其有志书，实始於有清雍正少保李公卫之疏请展复也。汉阳张公琅湖初以署理吾邑，而兼理垦务，彼此挹注治具以张遂补同知，高城深池，以利以安，百废既举，手辑志书四卷，虽规模草创，而意量远矣。清光绪间重修於沃州吕孝廉同知杜公征三实总其成，虽中道去官，以今观其序文，其未寓目者不什一焉。故能文质彬彬然，垂为定式。前数岁余忝司教靡，喜其风俗朴茂，闲一浏览志书，知其治术文化有日上之势。历年四十，政体骤变，前所谓厅者，今以民皆土著遂改为县。其他治

道亦变更。去秋其邑人方有绩修志书之议，而江公晖午适下车亦以此为要务，督促开局，而以郭绅文琴、徐绅梅卿、陈绅厦臣、陈绅愚亭厘其事，而以叶绅瑜卿综其成，苙以非才忝任编校。日夕孜孜，惟以不克负荷为虑。况自鼎革以来，前后四十年间，国体政体改变纷然。光复以来，档案荡然无存，文武官属旧设今废，典守无人，网罗匪易。即使纡以岁月，完璧为难。所赖诸君子多方搜讨，共勸厥成。孰损孰益，犁然可见。而於政教风俗之大端，苙亦未敢苟然，以徇使无以示后，率尔操觚，殊多余憾，匡予不逮，以俟后之君子。

江檻集拾遗序

南去治五十里曰淋头，聚族而居者，诸潘为独盛，皆元省元省中先生后也。先生尝谓：“文章不关世教，虽工无益。”故其生平忠烈之操，至老而不移，所著有《江檻集》诗，戚志称其与文俱已梓行。今以问其子若孙无知者，而邑之藏书家又无其本，盖已失其传矣。先生有祖墓在泉溪之花山，与程成趣先生墓相望，去余家仅里许耳。墓有庵，九老所因而社。吟者林君爵铭既葺《九老诗存》，因而推其屋鸟之爱於先生之诗，乃广搜《元诗选》、《赤城诗集》、《三台诗录》、潘氏谱牌及乡先正集，得其遗诗若干首，文若干篇都为一卷，曰《拾遗》者。林君之

心若憾其不传，矜而重之以为爱恒之至也。独慨先生，以德行道义，为世所推重，卒死国难，亦云穷矣。然使光光大集，流布人间，则於人心世道不为无裨，先生之心亦因而少慰。胡为至今不传耶，叶郎中海峰序先生文云：“步武昌黎馺馺乎，及之则不专工於诗，可知又谓其长短句，得谪仙骑鲸之气。则不专於诗，而其诗之足传。又可知乃未千年，诗则亡失莫稽，而其文之存者亦寥寥数篇。先生平日之所云云者，亦第得之人而不获寓之目先生之不幸亦后起者之不幸也”。甲辰岁，余方与林子仲严，陈子义补议建九老祠，以复梅社之旧。林君以诗来请以旧社为祠，祀先生。余谓先生业已附响乡贤祠可不必，而欲演花山之诗派，自当以先生为初祖，祠九老辄不得不传先生也。故以林君囑序而归之，且因而进之曰：“先生之文若诗，纪目於《浙江通志》及郡邑志者，炳炳如此”。海峰叶郎中之序之也，又啧啧如彼。以整吾子之悉心搜讨全璧，必将复见。傥得之速以归我，俾得朗诵数过，以发吾埋郁之志而快，吾愿见之情是则吾之厚幸也。夫里后学赵佩荏次方谨序。

花山九老诗存序

士不能职柱下亲掌故，网罗旧闻传之不朽，而於梓桑文献之可存者，不忍其或不存，固生斯土者之责，亦为斯世者之事

也。鹤泉戚先生之修嘉庆志书也，既以此为亟亟，间又荟萃群
国人文哀为别集，如《三台诗文录》及《台州外书》，为之锓板
行世，盖以重其文若诗者，存其人也。同时长山李氏亦尝采宋
元以来邑人诗，而有《方城遗献》之刻。其体制於人地尤详，
盖以重其人者，存其诗也。以古人之可存，而存之。存之者，
后人所以存者，仍在古人也。不然如林居恒诸君子，徒自其外
以观，与凡为老者，未尝大异也。僻处山陬海澨间，无名公钜
卿为之提挈，朝一吟夕一咏，姓字胡藉藉至今耶。或曰：以其
地则必如泰华之高，而可凭匡庐衡岳之幽阻，而不可测。而后
隐者以成名，巧者以引誉。以视花山巍然堕然，若儿孙，若部
娄，若螟蝗蛭，乌足以存九老者，然则以其诗，诗洵足存九老
矣。然而风霜兵燹传者无几，或且孤章剩句，如千钧之一发，
又乌足以存。噫！是岂其子若孙不善宝藏久而散佚欤，抑无留
心文献者，先后於其间从而褻集之剗剗之，而失其传与，此林
君爵铭《九老诗存》之刻，所以汲汲也。顾自余以谈林君能为
戚李两先生之所为其志，则可嘉矣。若九老之存不存，有其大
者，远者在诗不足云也。方靖难兵起时，吾太之募兵者，以不
济而死矣。吾台之仗节者，以不屈而族矣。九老人洁其志，韬
其光，以徜徉山水间。盖有郁郁於中，而不可告人者，诗其寄
耳。故为之不多，甚且恐罹苏子乌台之议。故与倡和者亦鲜，
此诗之存者所以寥寥也。以九衰白垂尽之士一卷，之山而社而

吟者，名以显於天下，传於后世，鼓钟於宫，闻声於外，夫岂无所树立而能然哉。已承林君意为之序。且论之曰：“存九老者九老也，九老之存者，九老之诗也。以诗可以存九老，即从而存之，戚李两先生也。以九老之诗存而犹恐其或不存者，林君也。林君方搜讨太平内外集，劬劬不已，积岁所得厚恒指许，桑梓文献之赖以存老将未有艾。余虽不文不容不以辞，劝俾得竟其绪而就其功，此区区者，特其先导云尔。光绪三十年岁次甲辰重阳后三日，里人赵佩荏书於横湖学堂之人镜芙蓉室。

夺绿吟馆诗序

丁巳之夏，积雨无聊，万感并集。叶君伯葵以邑人杨香先生诗见寄，读之如睹帆樯陈马，心目为之一开。既又得吾友郑君萼祥所为传以告曰：“今有议刻称生诗者请曷序之可乎？”余为首肯，因叹先生雄才隼藻一时无两，诗名继九老而起宜也。顾作诗难，论诗尤难。吾邑近百年来卓然称诗人者，壶舟大令以下数人而止，而先生与冯蕊渊尤负盛名。相与结社花山，至今犹称於世。刊而行之，诚不容已。独念汉唐以来，诗出汗牛马处充栋宇，几乎不能偏读。然三百之旨，赋此兴之义，寢久寢失。建安七子风骨，迨上夔乎不可尚矣。初唐之气体情韵，中晚已不可复追，流极既衰，宋之苏黄思有以振之，乃偏求之

力与韵之间。明诗力不逮宋而胜之以趣，元人句雕字琢以仿佛唐宋之形似风斯下矣。有清开国二三君子尝断断於气息声，采薪反本而复始，间或得之。然自以科举取士，试贴盛行，诗道已如弩末，此兴两义通儒耆宿亦不复讲，所为炳炳琅琅者，大抵一赋体而已。故五言八六韵诗皆沿从前场，屋陋习题首概标以赋得二字。呜呼！此诗道所以日鞠，风人三百之旨，所以为硕果也。先生诗亦多赋体，盖风会使然耳。然能以力使韵，虽若有意锤炼，自足矫元人靡曼之习，而上反之宋，以出入范陆间可谓一时能自振拔者矣，先生诗凡口卷题曰：《隐香楼稿》已载邑志，今本同而题《夺绿吟馆》者或从其始名，未可知也。余生也后恨不见先生得睹其诗，有以知先生之功力矣。故以己意疏其大略，如此行实，已备於传。郑君为先生女孙，当有以知其详，故不赘。

太平集序

古今大人物大文章，得於山川雄厚之所者多，其培养於古先哲人者，亦不少。若非天人交至，则文虽美而弗彰，品虽盛而弗传，盖於此道实有所未足也。吾台古称荒域，唐郑广文司户。吾台而文教始兴。迄宋文公朱子行部至此，其所告教皆圣贤正大之学，文章亦繇是而益盛。台之东南山以凝而气始训，

水以汇而气始聚。旧隶黄岩者明成化间始割乐清玉环地益之，而为县县曰太平，治泉溪。盖界山表海东南之一小区也。而数百年人文之盛，亦无逊於他邑。理学如二徐、二林，节操若王叔英，清逸若花山九老，文章若江槛桃溪，科名若首峰抑斋，宦业若定轩方崖，诗人若戴复古、林葱木，联镳接踵，几乎指不胜俦。居是邦者窃喜著作所留，取法不远，可邇以造古人之域；抑虑文献散轶，桑梓无征，后人不能守之，辄无以待后人。此是集之辑，所以不容已也。林君爵铭旧与余同笔砚，自游庠后辄抱此志。至今凡二十年，虽其间困顿名场，浮沉宦海，所至少如意事，而此心此业，终未尝一日衰暇，即旁搜远揽，自起元明，下迄国朝，计得文若干诗若干，及他贻赠之作，别内外定部居都三十余帙，缮写完好，将谋付梓，可谓勤矣。又能举要举详，各得其当，其有专集行世者，则只甄录一二以志崖略，而於志乘失传，名晦不显者，必搜求至备，务使吉金片羽长在人间，尤得古人阐幽显微之志，可谓难矣。夫文章之传，虽视其人之精神学问，而精神学问之兼至者，或又失传，古人之心，抱疚溪似后之人思慕，古人欲见其所为，文而不得者，抱疚又奚似也。编残简璐蠹，鬼神之呵护无灵，献尽文亡，后起之景行徒切，此固古今能为文者之同心也。汪亦尝志此而未能逮，而林君已先我为之。天生前此之人为非偶然者，先后之人以守先人而传之，后人者又岂偶然哉。用是不揣樗昧而为之

序。俾后之览者於此，发桑梓文献之思。是余之所厚幸也夫。

王韵卿先生梅花百咏序

呜呼斯文之传，岂易也哉。自非家承，其业世袭，其溃鲜有能者，能之亦必不精，纵观往籍，莫不皆然，三百篇其最著者也。方周盛时司徒保章之教，家传户习，故遇物能名，登高能赋非惟其时赋，非惟其时士大夫为然也。委巷士女莫不知而能之薰炙者，久观摩者多虽并古诗三千而存之当，亦无甚优绌。宣圣所删不过去意旨之繁，复示惩劝之异同而已。非若后世入存其一篇，篇存其一句，谓足见其能且精也。王子箕山以能文名，所为古诗骈文，出入汉魏六朝，唐以下盖不屑言，予见而异之，以为三古以降，斯文道丧，风雅流歇，何所得而能然也。迨观其尊人韵卿先生及母氏林孺人所为诗，而知王子之能文，盖淑渐於庭训，所谓家承而世袭者也。王为吾邑巨家，代以文显。林孺人家世亦相若，其弟素士先生以名孝廉能诗善画，至今犹籍籍人口，盖其讲之也素矣。韵卿先生好写梅，所为百咏皆题画句，他作尚多。己丑邑遭大水，积卷荡然，孺人遗墨亦漂失殆尽。存有《椒花集》一卷，然数帙之书已足观其生平，而贻其后人矣。先生与孺人各席其家之传，王子复从而衍之，观其先而王子之奉其传可知观王子而先之所未传而待以传者，

又可知矣。我观古今著作之林，大雅宏达之士，往往鳞集雾合萃於一氏，若西汉之伏氏，东汉之桓氏、班氏，晋之王谢，唐之温杜，宋之欧苏父子兄弟，下至妇女姻娅莫不能文其源，益深其流，益肆昔所谓风以诗书，散以礼乐浸淫而成天下之风尚者。后乃以一家之传，数世之济，而所得为深钜而莫测，拔茅汇征理势然也。矧先生世有隐德，高曾以来，俱诸生老蕴必发其起，而大乎是编殆嚆矢也。故原其本末而序之。

盘山九日登高图序

山势蜿蜒，度海而南，岿然峙，繚然曲者，曰石盘，乡先进林伯和兄弟所从隐也。自盘攀而三，西为旷望，东为天马，中干循牛岭下拆而东曰花山，为九老社吟地。稍北余家焉。每暇日陟足高岗，遐想遗风，世之相去未久也。地之相距，又若是。其近数百年间，山阿岑寂，不禁歛虚者久之。秋雨初雾，旧游忽至，显酒竹林，歌紫芝之曲，赋白马之篇，呼童煮酒，红叶自下，凉飙一声，余醒顿澆，俯仰古今相与称快。二林九老而及今存也。把臂入林，陶写风月，为乐更何如耶！悠悠天地，恨我之不见。古人与后人之不我见，其相与递嬗以终古也。噫！时同游者七人，林君朗夫图以记，不复赘。

李秩山先生六十寿诗序

秩山先生，余壬辰院试同年友也，与余为五年之长。余之游闽也，先生方将为尉永福，俟命少垣，相与同止金君伯壖馆。盘桓竟月，益有以得。其为人，盖君子也。既而思之，以今日之官场，安得如先生其人者厕身其中，又安得如余者以厕身其中。耶后余以省亲归，绝迹宦途。而先生方赴永福任，不相见者数岁。宦归始一再晤，则先生寒素如故。仍恃馆谷以为岁入，正与余同。余方喜先生之能廉为之称道，不置而入则未之知也。先生又尝登王子常太守之门，得其绪余，暇则任意吟咏。在闽时已成卷帙，间出相讨论，为更张一二字，辄首肯然。余固未知诗，亦不敢谓先生之能诗也。去岁为先生六十初度，以诗见示。余亦草草答之，乃和者日多，积岁得诗百十首，缮写方谋付梓，征余一言以序之。余固未知诗而强与言诗，正与向之不善吏，而问途作吏者，同一枘凿胡以云也。虽然文章之与吏治大抵肖乎，其人而止沉潜者之不能为高明，犹平恕者之不能为酷刻若所分定而然者，能不能又非所论也。先生之官永福也，人皆以佛称之，及读其自寿诗。则又窃比籛彭，而有志学仙矣。佛耶仙耶，其不容今之官界诗界也久矣。今之为吏者则曰菩萨低眉不如金刚怒目，先生之宦囊索然，皆此慕佛之名之一念累之也。今之为诗者，则务为激烈，务为柔媚。激烈则如羁人寡

妇，柔媚则如妖女变童，皆野狐禅也。以视所谓仙者，清逸高旷，彼反格格。欲吐先生为诗，而慕仙之名，则又将为仙累矣。虽然古来称仙佛者，皆得无量寿，而先生慕之吏治，文章将与之俱寿，则此百数十首之诗，以为佛子说法天雨曼陀罗花也。可即谓之霓裳一曲，众仙同咏也，亦无不可。故书此於简端，还质之先生，先生当为我发一噱也。呵呵。

橘绿天诗跋

周濂溪先生曰：“万物同一太极，物物又各具一太极。”言万物并生於天即一物，亦自具一天也。天地之产宜於南，或不宜於北。移橘踰淮而化为枳，其地异禀，於天者则未尝异也。松柏得天之厚，而岁寒不凋，橘亦得地之宜，而经冬常绿，是一物各具一太极也。张九龄诗云：“江南有丹橘，经冬犹绿林”。岂伊地气暖，自有岁寒心，故松柏同具一天，橘亦各具一天也。徐子惕安屏居山海，种橘自娱。每至隆冬，丹实离离绿叶沃，若得天之趣者永故其味橘之天者亦至，因以“橘绿天”征诗，多士酬唱哀然成集，嘱予序之。余曰：嘻得天之全者人也，得天之偏者物也，以一物见一天，非物之天，人之天也。统万物共见一天，非物之天，天之天也。以人心之天，见物之天，以为可乐则乐之。周茂叔这於莲，陶渊明之於菊，林逋之於梅，

子猷之於竹，其道一也。苏子瞻以橙黄橘绿，为一年好景。以物之天，感人之天。苏子世居眉山，於北於近，不得有橘迨谪光黄，再居于浙，始得领略江南风味，以物之天引人之天也。徐子居滨海斥卤，多腴地宜橘故。橘之橘性辛，能傲寒而常绿故绿之，以地之天得物之天，益有以鼓舞其人之天，则其所为之诗。与其征之人者，安知其非以天赋天，皆发於天籁之自然乎！苙比年少，作诗作亦不工，然亦歆动於同然之天，而不能已焉。谨步原作数章，徐子既自有序，故更以数语跋之。虽未涉园林一观，所谓橘绿天者，然於整形心之天，已默相印证矣。是为跋。

读明清八家文钞书后

丁巳春购书坊间，得所谓明清八家文。归而阅之，甄录未必精审，余喜其刺取不多，读之而有以得诸老之大，凡而桐城文派，流演半天下者，亦於此窥一斑焉。文章一道，秦汉以降群焉，推昌黎为巨擘。故自唐而后能以文传一时名后世者，莫不奉韩氏为圭臬，得其一二已足驰骋艺林。盖法与理兼胜者，老苏不纯於理，而廉悍刻挚实过，退之盖犹秦汉之遗风焉。皇甫、欧阳、曾柳、苏王，各得昌黎之一偏，后世已争相效慕。持正子固得其雄直，柳州得其闳肆大，苏半山得其沉挚，惟庐

陵雍容揖让若与韩子殊其科血，力所不逮。而以清胜之皆未诣其极也。故退之一二钜篇。自唐以至於今，鲜克举之者。国初三大家，亦皆取道退之。而侯氏失之疎，魏氏失之质，惟汪荅溪词旨深稳，工力稍多，而魄力不逮，侯魏亦在学韩与不学韩而已，外此大都气浮於情，辞绌於理，求如唐宋而不可得。有明季世归震川氏出，始欲推陷，廓清一宗，退之然，往往神味不足，而求胜於理法。近於晚年文字方氏望溪卓然后起，读书穷理之久，发而为文，魄力不逊昌黎，古直又如明允，一代之中叹观止焉。姬传姚氏，以韩曾之深。博文之以欧阳之声采，曾文正公谓其不纯於理，盖如太璞之不完深惜之也。海峰气势，几全得望溪。而粗浅之失则在过学退之。梅伯言造句炼句，出入归方，而体制狭小，其得力退之者，又不如海峰。吴挚甫工力较少，而词旨充沛，规制崇闳，然其疎懈正不可掩，则又在海峰伯言下矣。曾文正自谓，私淑桐城，而理至神完直掩望，溪而上之，譬之於人。曾太史袞袞然，如王公大人，坐堂皇朝，天下岿然，据万有於前，而不可方物。以视诸子雄健者，则如将师，温雅者则如儒生，婀娜而荏苒者，则如淑媛而已。张濂亭全学曾公，而气力不逮，乃变而为缜密，构局炼词，功力所至，惜抱亦无以复加，而概以文正。则渺乎小矣，方氏壁立千仞，其岩岩气象，虽曾氏无以尚之，然雍容揖逊不及欧阳。吾於斯篇叹，退之以下，曾氏一人而已。非积学之深，道德之美，

孰能兴於斯。

跋先茂才树畜书

今世乱世也，欲成事业，而致功勋甚难。读书涉世，以求学问知识，是则人人所不可少者。国内学校虽多，科学繁芜，日课奔走，究非造就人材之道。收以新学乱言，狂人幻想，以之破坏国粹则有余，以之改良社会则不足。人家子弟一落漩涡，虽有名师益友，亦将无如之何。盖自言论解放，矫枉过正者，务一反其从前，此一时思想潮流之变态。少年学识未定，往往奉为金科玉册，直不值一晒也。余课学二十余年，往来南北都会者垂十年，所见所闻初若以为可信，稍久则罅漏百出，为此而败者数矣。何也？其所持之说，类皆未免於私。其颇免於私者，则又倚轻倚重於其间宜其未久而败也。夫天下之事，无巨无细无远无近，必日趨於公且平而后定，此其必然之理也。私一二人智力，使人人皆失其平，而欲以牢笼一切，亦必不然之势。以余所闻见，考之惟汤蛰仙之於浙路，张季直之於通州，实业两先生之精神材力，既足以相副，又皆有学问辅之以行，其翹然有异于众，而却人之钦慕宜也。吾邑地边山海，家鲜厚货，欲成一事，良非易易。以余愚见，果欲扩张实业，莫如就各亲知，因地制宜，组织小小团体，坚之以信持之俭而公，久

久人将自相效仿，至此而发展易矣。故无论山之森林，海之渔盐，陸之畜牧园艺，力所能及，独为之可也。力不能及，含所亲信为之可也。但既为之后必期其成，而已不可偶尔失利遂却不复进，反以增当世之阻力，此其最要者也。乡里善堂尽废，亦为近来第一缺点。若以余力附丽而行，或能以所为职业安插贫民，使之以力得食，既可矫游惰之习惯，而地方生利亦当逐渐增多。先君子树畜书，久欲钞装成集，公之海内翻阅，一过数十年。前海禁尚未大开，而计划所及，皆为今日读实业者所必要。兹择其最近者，采次第钞录，书此以为家人勸焉。

编纂宗谱后跋

族之宜谱，夫人而知之矣。然不知所以谱故，或五六十年一修，或三四十年而一修。其族之稍大者则十数年二十年，而议修者訛然，否则又置其族于度外，而为谱遂不可问矣，此无他有所利而为之也。是以谱之体例若何？为谱都宜慎重。若何一不之讲，徒纷纷然开局厂召人。徒具库计庖福，靡其金钱於饮食醉饱之中，以冀取偿。於其族少则一二年，多则五七载。因此而不能成者有之。所求既足，他仓猝集事，一委之工匠人之手，驯至讳行差错，生卒不详，无过而问焉者，此虽数修无异於不修。吾宗自居週洋。后为谱者四，可谓勤矣。託始於五

河公之支谱，而续成於我太高祖宜圣公高，高祖宪易公曾经续辑。以今观其旧稿搜讨必备，序次必明，盖非知为谱者不能。道光同治间，族祖宫福、族叔蘅洲公亦先后增辑，剗削之美，哀然成帙，不可谓无意於谱也。惟实录皆改从序，宗蕲便鉴观。吾曾祖父虽有谱稿，皆填示用，常为歉然。前数岁，吾兄鹿坡已有此议，展转就商，时苙虽驰逐燕汴，而为谱之志，无日而忘。今岁以族众议，苙委综此事，盍不胜陨越之惧，赖族叔达三、吉三、建润诸公及希三，霭堂妙壘诸昆季，共赞剗成。而议以定，惟是族小费繁，不得已，乃力持以俭。尤赖堂史森珊在家编列齿行，至局则汲爨躬亲，胞兄鹿坡四远探访，皆不动用薪水，而事以举而不扰。乃得以余功，旁搜志乘厘定卷帙。叶群植庭代司排印，亦能反覆校勘，不惮烦苦。故凡我所能，为未尝少靳，而所藉手尤在旧稿。盖先人竭心力於此者为已久矣，其不谋而合者，如行传之宜，序齿支图之宜详迁徙。皆为先得我心，此谱之所以成也。可疑者，为一宗立谱，而支图竟阙。长房在宗明祀伯述公，而谱系不为纪。叙前修皆因仍不改，岂以此为分谱，虽大宗犹小宗乎。抑宗子绝续不一，惑於灾祥祸福而然乎。由前之说必仍东浦之旧。而后可由后之说，必无为大宗，后者而后，可今已进小宗，为大宗矣。诺嫡长者，又明明有人矣。实则改而名，则仍恐非所以承先启后。故逐一编订，期岁而始克。葺事是举也，虽藉诸宗告之力，而森珊鹿坡

两兄之苦心为不少也。若苙者不过迭述先志，蕲告无罪而已。前之所云，虽不敢自蹈其失，而今而后益知，所以为谱之难，程工匆迫，疏忽终多，增美释回，是所望於后起。

纪 梦

丁未十月之二十三日，余以谱事未蒧，买舟赴北闸，抵清江。汇日暮，舟人失道，咫尺之间，彷徨不进。余舍舟登岸，夜色昏黑中，见故塚累累，松楸阴翳，知此为族人葬地。余以忝司修葺，深恐有负先灵，对之恻然，是夕宿族叔家。族叔达三公卒。甫数日，偃息楼头，颇形岑寂。恍惚间至一处，见一木主长约一尺，边缘以金上书，李氏安人之位。人字下旁注及媳邯郸吴氏六字。一人携一木板来长尺有咫镌字十数行，似经刷印墨迹尚存。又一递一牒略似哀讣，计四五页字迹丛密，分六行写，每页皆有职衔，红字嵌印其中。醒而异之，然以吾族南徙无聘邯郸者。置之越月，述之堂兄森珊。因翻阅旧谱至正干公配及其子嗣而姑媳姓氏，始符公及配李氏皆寿。考媳吴氏系太学宪钟公嫡配，年二十余卒无育，而续娶者再无他异也。惟正干公旧有小传抄时偶遗之，以将再检初不自知也。披读传文传者为内亲，李氏以姑母於氏无所称述，氏之隐德或有未彰欤。宪钟公三娶而吴氏为嫡长，或未奉其祀欤。邯郸为仙人示

梦处，正于公号逸仙恐遗其传故隐示其名欤。不然公为二房，冢嗣祖吉生公梦孙子如鱼，故五子皆名以鱼，自日续嗣日蕃。公子宪钟公自得异梦，白手成家，累赏钜万。子三人培芬公曾入邑庠。孙八人。今虽渐微。各有子嗣，二氏九京亦当无憾，胡为示梦於余也。噫！我知之矣。余自议修族谱以来，族小费繁，迫於告成。今岁又复驰逐南北，悉心考订，疏漏仍多。故梦以警之也。云李氏者欲吾表幽微也云。吴氏者欲吾慎嫡妃也，印板墨迹示吾以校对之宜慎，牒疏丛密开吾以纪载之必详。清江汇左右祖墓，粉然年久失考。子嗣播迁者不知凡几，李氏姑媳之墓，或在其间未可知也。幽明遥隔，欲质无从，亦惟敬填，自将庶几少告无罪耳。既录其传，又今其家人奉姑媳祀，凡祖墓之可考见者，亦为逐一表明，并详为记之，一以自警，一以为族人告俾知邱墓祭祀之为重焉，时岁在戊申之元月十五日也。

琅岙张氏重修宗谱序

邑东三十里有庄曰琅岙，张氏居此六百年於兹矣。其地汇温黄二邑之水东出金清，山脉河流至皆作一结束。山则逶迤曲折郁然深秀，大河横障其前，澄碧回素，望之若山阳者八九，故居其间者多读书能文岂非山川之钟毓而然哉。余自与张君寅生同事陈师芷野，遂识其伯叔昆季啸霞、莪甫及菊亭兄弟。皆

以文章风烈知名一时，再后乃识咏南幼植定九诸君，亦翹然可喜，益信张氏之多贤也。今岁之秋，咏南谒余于馆，次出其宗所为谱稿见示曰：“吾宗之谱修之凡数年矣，惟编纂者先后物故事遂中止。幸稿本大半就绪，吾弟幼植起而承之，告成有日矣，先生能为之序，以为家乘光乎！”余告以体衰事颐笔砚久荒，恐无以应也。咏南则曰：“幸时期尚缓，请试为之。”余念张氏於吾邑亦称文章家也，与余相亲炙者又多，於其谱牒之成未尝不引以为喜也。张氏祖居山阴，宋开禧间怀盛公以惠安司庾，发粟赈饥，为大吏所劾失职，至此遂隐居焉。世祖妣某氏又以真烈建祠县城，其高风亮节皆足芘賴子孙。故不六百年族聚之蕃，遂至千有余户。散处四方者，犹不在此数。呜呼盛矣。谱创始於其五世祖拙隐公，立法严明，凡经数修，咸宗尚焉。前修於清光绪戊子翰林庶常葛咏裳以嘯霞诸君之请，而为之序。想见其兴嘯霞诸君师弟相聚之乐。今则余所识者，皆后先代谢转深余朋友不相及之感。使寅生、嘯霞诸人而尚在，相与考论其义例，亲炙其笑谈，则为之序，亦不为无因。然以张氏人文之盛，纪载之详，幼植诸君，又能勒修先业，抱遗订坠，以上承祖若妣积德树行之体，知其后之昌炽必有加而无已，则始以为山水之佳秀，固足以钟毓人文，后且以人文之彪炳，辉映夫山川。人以地传，地未始不以人传也。吾宗自湖州而东浦，自东浦而週洋，与张氏之自越迁此，始终同为浙人，是著籍之踪

迹同也，吾祖伯述公以开禧进士，弃官来迁，与张氏祖之为司庾，亦在开禧，是始迁之年历亦大略相同。吾祖以上章言安边不报，与张氏祖以不俟命开仓救民失职，其心事亦未始不同。今则户口之蕃庶亦不相上下，而一避迺洋而一居琅岙，彼此相去一衣带水耳。前十数岁，编纂吾宗谱牒，往来迺洋，爱其山水之胜，往往迂道其间，与寅生君寻山问水，兹又获睹其谱牒之成，则以数言志其踪迹，挂名张氏谱牒之间，亦其分也。故勉为之序归之。咏南幼植诸君俾知人才之与地理其关系之钜有不止前所云者。语云：“莫为之先，虽美不彰。莫为之后，虽盛不传。”吾为张氏勛亦以自勛也夫。

新场颜氏三房重修宗谱序

癸亥之春，余方还馆花山，颜君赞清以谱成，问序於余。余思颜氏出自轩辕周之东也，袁国公得事圣师，巍然以德行冠四科，子娃蕃衍固其宜也。顾考其谱系则断自始迁祖正议大夫，纪其近亦昭其慎也。惟其迁徙踪迹彼此互异，或云唐武德间始居临海，或云宋元丰时赘於南塘，为今颜氏发祥之始。或又谓以南渡扈驾而来。按之前序纷纷不一。又谓开元以前已有居於回浦者，相传颜真滴卿访族至台刻石镇岩山。考回浦当今高桥，迺洋两庄间，河流回绕至镇岩而止，俗所称十八汇是也。唐时

皆临海郡地，宜若可信若南塘之赘当在宋耳，吾宗员镇岩而居者数百家，祀始祖节度公於其麓，岁时展拜登山凭眺见摩崖书，顾湮漫不甚可辨，问颜氏故居无复知。岂自唐而宋生齿无多南塘遂徙南塘欤。抑宋元兵南遂尽易其故居。欤燹塘戴氏亦以方氏之乱波及无余，惟旧居於温峤者数十家耳。而颜氏奄有其地且帛互於新场横塘金清芦西者十余里，为房者四，然则盛衰之数时与地实为之乎！颜氏之族十一传而始大，曰舜明者昆弟四人而序居其三，实今之三房祖也，似续之繁，又甲於其他，衣冠文物一时称盛。前皆四房合谱光绪辛巳以族大始分房从事，今议亦然，取其便於戚也。然是役也，经始於清季，中更革新势不暇及，赞清又方从事於教育，故至今始获葳，事职采访者曰菊谱、曰金厚、曰杰三、曰梦龄。菊圃以远行涉水，遂得足疾以移终，竟其功者梦龄诸君为多。颜氏新尊祖敬宗之意，於此可观矣。赞清又尝兴学近地，启迪其后嗣者不患无具矣。惟思族众盛衰之理，或数传而盛，或数十传而始盛，或则反是若其祖德之大小使然者。吾宗以南渡至台，宋元鼎革，种族几沦变易，姓名流离迁徙。后定居於週洋，始以复振。自週洋迁城，今又十余世矣。其为赘壻与颜氏同。虽代衍诗书，而至今户口寥寥。还视颜氏则硕大无朋焉。非克国流泽之长使然欤。余知赞清旧矣，菊圃於赞清为叔行，尝问业於余。近且与其宗有儿女之戚。於其谱之成不可无以云也。又以颜氏始迁之地，与余

族为近故，感而书此。并以见保世滋大，必有其道焉。

泽国钟氏重修宗谱序

族之有谱，宗法之所寓以行也。古者天子建国，诸侯立宗，为宗子者有田禄以养教其族，率其子孙以上事祖考，此宗之义所以为尊也。自井田封建废，而宗子不得有田禄，自宗法废而家自为谱，或以夸氏族之盛强，或以侈门阀之贵盛，往往以子孙而加乎祖宗之上，甚且诬所自出，以博观美。揆以少史奠系姓而辨昭穆者，法谬而意亦无取焉，盖宗法之不行久矣。泽国之钟出唐中书令绍京公，宋咸淳间自玉环界山来迁於太，遂为太著姓。越五传至志一公始有谱，又越十传至匪石公始为类例。计分四编曰宗支图录，曰世行序，曰家世遗事，曰人文宗卷，垂为定制，至今几十修矣。其迁徙之详，支系之远，与其为谱者王梅溪、谢深甫、黄久庵诸先生已言之，兹不赘。独念今世之为谱者，夥颐难计，或则囫圇从事，齿行不分，阅者欲识其面目，而不得是畜纲也。矫其弊者，则又规仿郡都邑志书，繁其例类是窳数也。求其有当於尊祖睦族之道者盖鲜。今观钟氏之所为四编之中，谱之所得有者，无弗有焉。而其义例所著，彝训所垂，庶几古宗法之遗意。齐宗伯息园先生称之，余恐其后之求多於是也。故引申四编之旨，而为之说。曰宗支以纪根

源，而新疏隆杀之义视此矣。世行以辨昭穆，而长幼先后之道准此矣。家世遗事以谱古迹，而祠墓坊表公产可并纪。人文宗范以谱隐德科名而宦业节烈可并存。自有此例，前之所谱者以大而易，该后之为谱者，以约而易，守易以易简而尽万事万物之理，犹此意也。谱成宗人请序於余，而镜波先生及其嗣君若川实综其成。大抵子孙能文知书，不假手於工匠者，其所为必有可观。而能因其先人之旧，释回增美，毋为夸耀一时之见者，其所为必可大，而可久。吾将於钟氏之谱卜之。

三至王氏重修宗谱序

邑南行三数里将抵亭岭，山麓有明忠节静学王公故里。知县徐元肃为之碑，迄今过其地犹可考见。而东郊滨河又有忠节公祠，所奉祀则渡首王氏也。及观三至王氏谱则其统系之详，世传之远，则尤在渡道上，亦为置产奉祀。呜呼！何人之乐为忠节后，节之子孙何彼此代兴若是耶夷。考王氏来自闽之长溪，五传而至君望公，始迁吾邑苍山。又七八传而至忠节，从育於陈氏家，后乃奠居於亭岭。逊国之变，忠节夫妻子女骈首赴义，靡有子遗，而从子天富，以赘居茅山李氏，而独存。其始迁三至者，曰君宇公、天富公之子也。居渡首者当亦同后。君宇恨未得其谱而参稽之，以为后先异同之证殊为歉。然王氏之有世

谱，始元延祐，历明洪武、成化、天启，清乾隆同治，凡经五修。惟由洪武至成化年历太久，而方序又不见《逊斋集》，踪迹不无可疑。然三至之为忠节后，无疑也。王君旭东既拓宗祠置祠产，复以宗谱久旷未修，告之宗，盖自同治以来又将六十年矣，宗支散佚，讳行参差，不无可虑。故其宗人亦罔不黽勉从事，而君以知文墨实综其成。夏间走谒余於邑城，请弁数言，数月未有以复也。既而思之君子居乡也，於先哲之宜表章者，表章之；文献之宜记录者，记录之。矧余去忠节之所居最近，而忠节之高风亮节载之邑乘，祀之圣宫者久为吾人所企慕。而旭东君又系旧游，不容以不文辞也。余近岁方募建花山九老祠，并为山志，考其师友渊源，则九年先生半为忠节故交，诗文投赠在在可征。以将千年之遗老尚欲馨香而俎豆之，使百世下知所矜式，宜君之於其宗，措置而不敢缓也。以古人师友之渊源尚欲辑为一书，以示之后，宜君之於其谱赓续而不敢旷也。今虽忠节往矣，而为之后者，尚有三至渡首，奄有东南，而始居苍山者，犹不在此数。天祚明德，庸有既乎！故详其世次序以复之。

虞山邵氏重修宗谱序

丙辰之冬，邵子赐卿访余於花山学社。语次出所为宗谱例

略，问序於余。余曰：嘻！余之序人谱也数矣，见吾邑巨家所为亦不下十数。惟泽国钟氏，前修於齐息园宗伯者，罗为赅括，他则非夸即滥。吾子之所为果有异於人所云否耶！邵子曰：吾自承先叔外翰公训，始为此谱。辄思昭信纪实以不自诬其祖而已。余曰：若然虽为史可也，何谱之足云。昌黎韩氏之论为史也，常怵怵於天灾人祸，而引左马为鉴戒。吾邑巨姓之谱为者，示必善善者不必传，安知其非不信不实，有以撻造物之忌乎！按邵氏系出东阳紫溪，宋绍兴间避乱至此，凡数十传矣。始皆白衣，明成化后乃稍稍通显。玉溪颐庵以来，宦京朝司政教者，代不乏人，而梅溪虚谷亲兄弟又皆以诗鸣一时，考之郡邑志书足可征信。邵子皆据事直书，始不敢攀附华宗，以稍涉於夸，终亦不忍饰名位以稍邻於滥，可谓异於世之凡。为谱者矣都十有六卷，支图者六，为世传者七，为祖德古迹闺範及杂录者三，条分缕析朗若列眉。又以旧谱杂用欧苏义例，同一世传，而叙宗叙齿先后，异致不得不一变，而叙宗非不知叙齿之善也。筒编踳驳，亥豕糅莠。即起玉局於九京，亦当俯从庐陵，势之使然无如何也。他所纪录亦皆信以传信，疑以传疑，力矫六朝五季门阀之见。绝唐代氏族志之源，而清其流。呜呼！为谱如是不亦难哉。孔子之修春秋也，所见异辞，所闻异辞，所传闻又异辞，虽以己意为褒贬，而终不失为昭信纪实，此史家所奉为金科玉律者也。彼世之务夸滥者，将以为观美耳，不知苟信且

实，虽不求美，而自有可观，苟夸且滥信可观矣。而美非其美。袭而取之，安在其足贵耶。哇音繁节，不如朱弦之疏越其声希也，膾牲甘醴不如河酌之忠信其物质也，时日匆迫邵子所为虽不获究知其详，而不饰其所本无必不遗其所本有信实之道得而谱不足为矣。前数岁余治週洋谱事，实用此道。故於邵子之方感而有发也。嗟乎，董狐不作南史又亡，古称信史号实录者，於今不数数够，而陈承祚魏伯起辈，文舞弄墨，颠倒国家之是非，瞽乱名教之愆，观者不知凡几一家之书，予夺於一二人之手口者，更何论哉。外翰既思以昭信，纪实之道坊，其宗邵子亦能尊所闻而行，所知洵乎。邵氏之多贤也。邵子既知不诬其祖矣，苟推其不忍不敢之心，以告教其族人，孝子顺孙之所为，岂外是哉。

仙源陈氏重修宗谱序

古有宗法有族学，宗法既敝则赖谱牒以存。然必修明其族学，以维持其间，则伦序克端，祠祀时举，子弟亦日趨於孝友醇朴，谱牒因而增重焉。仙源陈氏始本闽祖，宋绍兴间迁东瓯之外沙，旋吾台之新城。七传至万育公，始来居於此，至今垂七百年矣。其有谱牒，则始自宋宁季。元明以来，中多散佚，世有增葺。清乾隆间良谟公搜遗订坠，益集其成，厥从更五修。

其延聘儒宿往往卑礼厚币，无问远近甚或借材异地，其慎重将事可知矣。同光朝两次赓续。先严石牧公先后劝读其地，虽适当罢馆述作无多，而综其成者，若懋孚、懋兰、楚珩、楚鼎诸君，大半出其门下。故文采斐然，从起奉为法式。盖族人之读书明义，其有裨於谱牒为不少也。陈氏能尊事师傅，以告教其子弟，故先严受馆谷者几二十年。其初至也以道光某岁。本承吾大父馨吾公之后，后遂累岁留。或问数岁复至。尝读其三至仙源诗，知主宾之相得未有盛於斯者。其为教也，先行而后文，先实而后名，日为之程而明其约束，慎其尝罚，久之而子弟莫不率其教，且互相纠督，故虽奔走於家事，而馆课曾无一日旷，再三至皆然。最后余总角侍从於陈氏之相鹤楼主人之宾敬其师其久而不衰，知陈氏之保世滋大为有自也。今岁其宗人以重修告成，请余序其崖略。余与陈氏为世交，故相识亦多，子弟之从游花山者亦岁不乏人。因取谱学相关者以为言。主修是谱者陈君辉亭，前修茂澜公子也。分任其事者则其族叔升东式昌，族弟久香楚台，族姪涵。支垫谱实费者，则其族祖季栋、季香也。升东久香光绪前修时皆尝亲莅其事，故一切体例无改於其旧，所慨懋孚楚珩诸人先后代谢，存者寥寥。余亦年力就衰不获躬为考订，以是正谱工之纰缪耳。然考之从前在事诸公，今之继绳前美者，非其昆季，即其子弟群从，故能恪遵成法，集事也易。益信先群教泽之人人也深。陈氏之能告教其子弟，收

效若是之远也。考黄岩有东西二仙源，西源今隶吾邑，相传为洞天福地。陈氏卜居其间，山水静幽林木葱茂，与温峤仅隔一衣带水，若别有天地，土秀而文，农朴而愿，盖得这钟毓者已。如此陈氏既有谱牒祠宇，使益修明其族学，后之视今，岂第今之视昔已哉。故乐为之序以勗勗之。

练溪金氏重修宗谱序

余少负笈南乡，则闻有平溪金氏，其宗最大，其奠居吾邑也，亦最先。故自唐季至於宋明，登巍科膺显仕者，已不乏人千，乙吉所其最著者也。前十余岁，金生睿夫来学花山，观其字行意为平溪人也，及询其里居则练溪也，而非平溪。盖其祖宗三公自平溪转人於此，已二十余传矣。今岁之秋睿夫以其谱成请序於余，则丁口已达千余，为房者八。出世俊者四，曰七分房，曰大分房曰八分房曰三透房。其出世参者，一曰楼下房。其出世珮者二，曰上屋房曰西房。惟淋头房出敬玖公者中经遗失，久而始复。与上七房，出自敬资、敬甫，虽已分异而为伯在公之子则同。自崇三公以来乱离之后，子姓播迁其散处四方者又不知凡几，则练溪之盛，足以方驾平溪，洵不虚也。吾邑东南广荒，旧皆为海，而与闽为邻。故邑大姓半自闽迁者。始居地皆滨海，后乃稍从而内，平溪之为练溪亦犹是也。安节公

以唐显官，而其子小五公降为氓庶。播徙海疆，或系避王审知乱而然，乃一迁於平溪而昌，其族再从於练溪益大。其宗知其积德累善，必非一日。余当一过其地，溪山交错，南面濒海。金氏聚族而居，棋罗星布。始居下宅，曰夏泽者文言之也。旁近为黄仙岙，稍远曰上洞，皆有金氏后焉。知夏泽不足以该之也，故是谱宜专称练溪。前序称为房者七，今既益以淋头则为房者八矣。上屋房及西房皆出闻，佞而旧谱遗误，则又所当纠正者也。夫家族之生聚日蕃，环境之感触日变，则所当改革而扩充者，亦日新月异。而岁不同，金氏有祠，以祀其先烈，有谱以联其宗盟，有田畴屋舍，以长养其老幼男妇。苟使即祠为塾，以诱进其后起，则生聚之后加以教训，千乙吉所之盛何难。再见安节公在天之灵，方亦默为之，相其宗之大庸有既乎，故序以归之。是役也，经始於民国十五年十一月，告成於十六年十一月。纂修是谱者通耀，司采访者殿寿，会报通行时贤、美春、满谦、满梅、满宽、美正、通海、满超，经理度支者通耀云。

书东岸李氏宗谱附录要将李显忠传后

李生洪畴醇谨士也，志於实事求是之学，尝读宋代史书，至降将李显忠传，以其宦迹年齿，与谱载始祖允中公事，大略

相同。疑允中与显忠为一。走书於余，愿考其详，久之未有以复也。每览宋世纪传及他掌故輿地诸书。思得其人证佐以为折衷，舍间积卷无多，颇难搜讨，又念汴宋季世鼎祚屡迁，虽玉牒亦不甚详。故以吾祖伯述公为魏王胄裔，而同名者多至三人。其他字行相同更仆难数，是国史亦不足尽信也，况一姓之书乎。按谱称允中字某某登进士第，而宋史则云。世为苏尾巡检，盖绥德车之土司也。无繇而登进士，金夏构衅，西北沦於异域，因而出入行阵，积功为官理势然也。而以明於大义反身归宋，建节池州洵历卿贰，宋史云云宜若可信。乃为邵宏渊所构，谪官来台，复由台而迁绍兴，台属有公子孙亦固其所。唐宋以来降将赐名者颞颐难数，而李嗣源赵保吉且併从国姓显忠既系赐名。允中或其原名，亦未可知。惟史称显忠本名世辅，与谱载字行亦复分歧，以为同系一人，文献无征，何能悬断。然两人所历官阶同迁徙之踪迹同年齿生卒亦无一不同籍，谈忘祖书传所讥生之考订疑似诚非得已，独念谱法首在摭实，世系失考廖附显者，以自高异为近世谱工所恒有。而三君子讲求谱学者则以此为大戒，因疑而求信者，子孙不敢忘祖之心可信，而犹引以为疑者，则尤子孙不忍诬其祖之志。文公朱子谓：“子孙以图像事先”，一分不肖辄为他人之祖，父母宁阙焉之为愈也。孔子亦曰多闻阙疑。苙自维谫陋闻见浅鄙，而於圣人阙疑之教，颇所服膺，固不敢师心自用，犯古人之不韪也。若以考據家言，

古人名字义各相辅，中忠声近显之，与允义亦平行。诗云：“显允方叔是也，显义为明。”故古史称咎繇为明允，赐名之际取义或在兹乎。因今以此传附之谱末，详为之考，以俟博雅君子。

覆同人修复乡约书

佩荏顿首某某大人先生阁下：曩所商修复乡约善举也，亦大任也。古昔盛时致治之原，鲜不繇此，一切乡饮义田社学保甲皆得附丽而行，所谓观於乡而王道易易者也。昔范文正公为秀才时，即以天下自任。虽曰仆之才识不足以逮古人，而窃有志焉。敢谓古人之心，非吾心，古人之事，非吾事乎。第其任既大当之者不可。以或小，且王道无近功，非得肩宏任大足以持久之人，以與其间则其事不举。举必旋废，既废之后人将益病此为难行。行之愈无其会矣。去秋晤阁下及诸君子偶谈及此，心颇跃跃，以为其事之当行。旋謁右丞纯甫张先生，见其主论之间。乐与人以为善，复能留心民治，敦督怱慝，以为此殆有可行之机，而不得行者也。乃退而自课，及以事登缙绅之门。谈宴之间偶一二语及此。亦非敢以此自任也。其知余者谅之，否则随声而应，甚日非之笑之，谅余者非谓余能也。曰：殆好为大者，非余而笑余者，盖谓余非任大之人，而不谋之时势，其随声而应者，不足与议事也无论矣。仆诚自揣素誉之不立，

无以取信於人。前所云者不过知而好之，欲得一二有道者，以为之倡，以仆奔走其间，拾遗扑阙称效万一耳。若必身为之，先非恶劳也。以仆自揆实有甚不可者存焉，仆之所学滞於章句，若今屏居一室，占入论说质以己意，以辨疑而衷可否。容有当者至於躬行实践，日循循其间而时操时舍，或存或亡，见理未精守道不笃，求不自信之处茫然也。古者治平之道，近取诸身，身之不修乌乎！推自信不果，而谓人能舍其所自信者，而信吾乎。抑将信吾说，而成吾志，不论吾之果否，克堪群起而扶掖之，以成吾美者，成一世之美乎，此其不可者一也。况成大事者，不蓄小怨以仆之异懦。阁下所素知者，而平居所来，往率皆任性直言不无获戾，一旦膺此艰巨学识未至气息未平，动遭人忌，成事不足，僨事有余，此其不可者二也。且夫修复乡约，所以正人心，振学风，夫学者非一人所倡也。合政治风俗而成者也，政治风欲非一人之所倡也。合种民土地而生者也，故一国有一国之种民土地，由其特性而发生一国之政治风俗。研究古政遗俗，资改良其未然之政俗，是学之所原起也。年更易，过去之事物愈伙研究之材料愈富，而学科所以愈衍而愈繁，派别所以愈分而愈歧，於是众流百家，潮激波涌，一国之学於焉成立。是故一国有一国之学，其学根自种人之特性，学亡则其种民之特性从而渐灭，国未可保也。昔秦始皇既併六国，烧其史，记说者以为英鹜莫甚。於是今西域之灭人国者，亦往

往师其智，易胜国之语言文字，以绝其民恢复之念，奈何不是惧而先自灭其学也。昔周大夫原伯鲁不悦学闵子马。曰：周其乱乎，夫必多有是说，而后及其大人，大人患失而惑。又曰可以无学，无学不害，不害而学，则苟而可於是乎，上陵下替能无乱乎。夫学非空言所能补也。即能补焉，亦必以十年二十年为程，急公好义，世不乏人。然求其心与善，一好之乐之而能，始终若一者，以仆所推斯世，诚不数数够，亲而一二。自好君子，即又择人而与择可而行，非言焉。所能人劝焉，所能从此不可者三也。而尤不可者，则莫如我自处太高，畏俗如虎。群偶有所为，於心所稍不安者。动即惭汗交并，非必有人之见存也。窃内自论愧疚日丛计，生世三十有四年矣。皆以颓废因循抱歉於中者，奚啻十百以素，不堪自信，而欲强人之我信信焉。吾得无愧乎，不信焉，吾得无愧乎，则不可者四也。虽然此举善举也，此任大任也，一邑之大，好善者谅不乏人。阁下诚好善，人将累千里告之。以善如张先生者其则徵也。诚得如此，复三四辈以领其先，如兄之能任事者，以居其间，又得众望素孚者，以坐镇雅俗，使人得所矜式而兴其乐善之心，庶几可行果尔，仆虽不材亦敢自外名教，倘不屏於时得从事其间以涓埃幸矣。否则秀才做事，如鸟兽散，我诚不敢轻谅天下士，天下士必将以此加我矣。我思六世祖贵方公，当国初以白衣主持乡约，与乡饮者见许於名公大人，至有积善先生之目，志乘所传

当为不虛。虽其经划之善不见於后，而祖孙父子内行卓卓为乡先辈所倾慕。由是推之乡邦理或然也。使仆果得缵承遗绪何快如之不然，则人将曰某之祖之与於乡约也如何，某之孙之与於乡约也如何！不能绳武反以辱先，犹吾所不忍也。以阁下迭次敦促可谓乐善不倦者，用是胷述区区伏希亮察。并希於纯甫张先生处叱名道候，如语及此，幸辱视焉可也。春仲之二十九日谨覆。

与徐生子骐论谱法书

子骐仁棣，如见久未晤读念念。闻君治法政毕功，辄欲走书贺，适函来承询谱法，不可无辞以复。按自来言谱者二，一曰谱犹史也。必昭信纪实，使后人有所观。一曰谱非史也，必掩悉著善，使后人有所劝。由前之说，则失之严而难乎为子。由后之说，则失之宽，而谱亦不足贵矣。尝观近世谱法之滥，自传赞始。人各有传，稍通显者传之不足，又益以赞。而传赞之力微矣。自余以论谱之所宜有者行状耳，子孙以述其祖父，即以述其祖父者还示之孙於谱为宜於法，亦无或谬。愚去岁修本宗谱以持此议。故谱中所收传赞绝少，而於后嗣所表章及内外亲所称述者，编印归行状，其文体近於叙传者，则题曰事略。将以正谱之法者，存谱之实也。今读先尊翁状甚契於心。余虽

不及见尊翁。尊翁所勉君以学，与君之求学以慰尊翁，尊翁所勉君以学，藹然如见，而尊翁传矣。尝观曾子固答欧阳舍人书，知信今传后之道之难。又读欧阳氏《泷冈阡表》知先人所待於后人者，非其后人不能言也。若夫传赞之体制，惟国史为宜，次则如郡邑志。已不得多载，以其为天下之公言也。苟不知而妄为之，后必不贵，则不如其无之为愈也。谨代填讳并附数语以复，愿持以示世之为谱而不知义法者。

覆某君责不吊灾书

某某知兄如面，乍接来示以有缺吊唁，罪我甚当。第天变地震，帝王以之责躬。迅雷烈风，圣人以之思过。兄之不戒於火，非必果为上天谴告。而和气致祥，乖气致殃。殃祥之召，或者人实为之意，兄必大加修省，去咎就谦，推已废物，而后可以恢祖先之绪，貽孙子之基，以为异日纳福无疆之地，未必非回禄之相子也。弟自去实幸捷秋闹闹，得一无实之名，添出无数之累，一腔局促何可告人。兼之倾囊北去丧气东回。迩日心情，犹复惘惘。前日接晤秋生兄，本欲趋间起居，但思不至伤人尚为可庆。继闻陈襄翁为君集资曾颂君，为君计策。知兄台羽翼已成，非不心为君得大力者之助，庶几无抱枯鱼之泣也。然门邻庐舍延烧，有颠者为之唱，缘弟会一颠者之不如，则又

以自愧姑效涓埃，实由挹注彼区区者固不愿兄台之感，为所能为如是而已。知我鲍叔，鲍叔亦惟管氏之不彼知耳。所以屏跡空山者虽曰不忍亲见焦灼而此中之故，亦恐难与兄台陈者。不然寒温未节，吊唁虚文，弟与兄相隔有几而谓不能勉为之耶。抑果徇流俗之见，不能效高谊之所为耶，兄其思之。丈夫以自立为难，圣贤以改过为急。兄台自历丙丁一劫，想从前晦气至此尽脱。光前裕后，前程远大可卜之。目前而人事匡持端在谦抑兄台所长者无鬼蜮之心，兄台所短者，有豺虎之气，五行疾气偏胜为灵，是炎炎者实有以召之。今闻乔迁有日，方将得以更始。而措置之难，非不为兄杞忧。爰莫能助如何，如何！不得已爰附古人赠言之例，以塞阁下奢望。相见有日，幸赐垂鉴。

赠金翁满足序

余自中岁，获交金翁，刚直人也。翁子奏号睿夫，从余於花山数岁。能读司马氏通鉴，翁见而喜相与叙述。家世则自下宅金迁双峰坑，已三世矣。祖父以来服田治圃，家已少康。至翁以勤苦自励。甫愈弱冠，家业已增数倍，闲登士绅之门。知世界变迁，生子以读书识字为要。故睿夫年甫胜衣辄今负笈相从，问所读书，辄以重金购置善本。翁可谓能教其子矣。翁父美林公有弟曰美云者，曾出后其叔父光富数年而逝，叔母陈氏

无育而善病，遗产甚微。美林公愍其茕独，命翁兼承其祀，迎养於家，翁事之如其祖母。后陈氏得未疾长卧床不起，翁作息之余，必躬抚摩而扶掖之。美林公见而喜曰：“吾有此子不负叔母矣。”如是者十余年，未当少懈。后陈氏以节旌於有司，乡里称翁。不置性宽而直，遇事勇为士绅所器重。沙角高椅岩下，为蒋金陈三姓系船之地，由来久矣。民国十一年设立官卖局，近地之不肖者欲攘为已有，私行缴价，翁闻之率先同人赴局质问，始得争回。其直而不挠如此。然於贫苦之人苟有求焉，未尝不有以应也。而尤笃於亲故。癸亥甲子两岁，南乡荐饥。虽经官绅请经赈款未能普及。翁通告乡里贷以食物，令於秋收后陆续偿还，金氏并蒙其惠。翁字曾恒，其名曰满足，娶沙角陆氏。子一即睿夫。今岁修辑宗谱将成，问序於余。余既应之，又念翁之宽厚刚直，不数数够而於经理公产，尤复井井有条。今其谱之成，不可无以赠也。故书以遗其宗人，并以为其后法焉。

送诸生闻谣暂假归里序

癸亥岁，余始自棣花别墅还馆花山。诸来学及旧从游者，凡十余人，去家远者四十里，次亦三十里，近社者三数人而已。八月谣诼，朋兴至，有天地合併之虑，此与杞人忧天，无以异

也。诸生初亦坚於自守，及日本大毁於灾，若天数之有可知者，家人争邀归里，诸生不争邀归里，诸生不自决，余亦不禁也。虽然吾儒之学，每求之於可知，而不求之不可知。故古今通人，恒信理而不信数。今之研究星历测候者，号称多家其推算之精，每高出於前，而於薄蚀，震电水火宵作，天文家无言之者，此理之可信为必无者也。理之所必无者贤者，皆不之从。虽梓慎禘灶辈言，而偶中君子为所当为不过固封守，修火政而已。其心之所执持者，必不因而遽靡也。或曰易之否，有之天地闭，贤人隐文周。孔子书尚以为然，安在理之所以无哉，曰是不然易之言大地也，皆本诸道故。《系辞传》曰：“一阴一阳之谓道”，其云闭者，只是道塞而不通，若天开於子地辟於丑之说，但就岁气而言，子月一阳生。故曰天开於子，若以天地言之，未尝有开，安得其闭。今乃谓天地真有闭时，此尤怪诞不经，不必攻而自破者也。周官有造言之刑，以其摇惑人心乱，贼每乘而起。故以当官者，处此惟有禁止之一法，至不得已惩其大无道者。否则静镇以待，逾时而人心自定。其造言生事者，亦破绽立见。若与愚夫妇同其眩惑，未有不因而生变者。诸生读书明理，宜可以无事处之，而犹不免於归父母之命，尊而不可违。妇人女子之见，愚而不可以尽晓也。此余之所以不之禁也。为诸生计，去馆之际，一出一入，盗贼不可不堤防也。恐老人之易惊骇也，则无轻出游以重其忧，恐妇孺之不安於居也。则道

古事以晓譬之乡里，群不肖有因而萌觊觎者，既自断其必无，又必惧以官刑，使其有所畏，而不敢逞。如是则归非徒归也。一旦时过无他，闻其言者，必益重其人，益求所以读书明理。则后此之谣诼不兴，而风俗人心，且因而日正矣。岂不休哉。

卷三 箴铭碑状

质斋十箴

苙自幼服庭训，先君子之教督者无所不至，而於持躬接人之道尤所稔闻。兼之家世儒，素居非市井，所见所闻不为薄俗渐染。故年十六七，此心清明，依然赤子。然质弱多病，先君子以是不忍过为绳检，日课逐荒。甫届弱冠病剧转痊，始事举业。中得一二良师之引掖，文章一道颇能得其端绪。而所如不合，迄未有成。先君弃世以来，又兼家每有所触，此心辄被引去。所以能不废学，赖家人皆知余懒，不相闻问。又得二三知己社文为课，夙业幸未尽荒。而此心常有外驰之虑，且所尤短者莫如不耐事而畏事，此虽病后精神短少所致。亦以幼承先荫於委曲烦琐之虑，阅历既少，支持遂难。盖如草生树下，未更风霜，愈形荏苒自揣自病，职此之由不自振励，恐日趋於朽腐而不可救药。今已行年三十五矣，先严久背，山陬海澨，未获明师，时从经书中考验得失，而偶有胶扰动辄易忘，其不忘者往往止於粗得，自检生平盖有数病，静夜愧疚缀以箴言。父师有灵，庶有以发余之蒙锢焉。是则幸甚。

箴多欲

为人多欲，所存者寡。欲不在他，高鹑远跨。不一不精，

求足不舍。虽以要道，终沦虚假。玩物丧志，务博何可。何如求约，闭目静坐。然非朽索，能馭六马，戒之戒之，是诚在我。胜之以理，毋尚琐琐。

箴多言

道家有云，多言伤气。我以自闲，恐不及义。好谈人短，圣贤所弃。好炫已长，造物所忌。言学恐夸，言志恐费。默以自持，行以自励。世纲致密，招尤最易。守之如瓶，载道之器。相彼躁人，哓哓何济。

箴多思

圣人论思，再斯可矣。虽曰慎思，无礼则惹。事物纷乘，衡之以理。轻重大小，审端为美。以中为用，以定为体。无主在心，私意用起。首鼠路歧，贻误胡底。多疑速败，毋曰论鄙。其流不滞，宜监於水。

箴多惧

赋质偏柔，畏事如虎。薄於视人，高於待我。此惑不解，靡然何可。当明此心，戒怠戒懦。命由天定，人岂能祸。养气必充，集义斯果。慎以图终，敬以作所。天地自宽，我胡自苦。先事能此，非曰无补。

箴不重

生平至短，莫甚於轻。言轻多失，交轻不深。不重不固。圣言所惩。山崩鹿起，大将不惊。惟其镇定，可以治兵。物浮

必蠹，质薄不贞。读书求理，贵静贵沉。否若飘风，或如惊尘。
胡能有得，以赴先民。

箴不诚

人道思诚，敢期合天。去伪去妄，闲邪为先。诚则能明，
道心用坚。诚则能动，不为世嫌。敦厚履实，葆吾未然。物我
不阂，言行必兼。化曲以直，有中无偏，万事根柢，此为近焉。
反是诈伪，取侮召愆。

箴不专

天地之道，不贰不息。慎始图终，审端用力。若彼乱丝，
纷纭何极。虫虽百足，行止一辙。见异思迁，仆仆何益。溜胡
穿石，射胡贯虽。惟其能专，主一无适。毋为难能，心力徒竭。
舜禹传心，曰惟精一。

箴不怒

终身可行，一言曰恕。矩絜衡平，人已一趣。责人苛否，
反已则喻。人有不能，我毋自誉。人有不足，我毋自贵。体恕
以诚，行恕以惠。立人达人，恕施不匮。道心日生，私心日去。
小而用之，平争解恚。

箴无节

竹自中虚，有节能固。本大末小，自然之数。圆而不流，
通而无罅。人道亦然，各有仪度。毋为不及，亦无太过。此非
易言，随时自课。立节之始，曰惟守素。究节之终，曰毋擅助。

不节则嗟，先平喜怒。

箴无恒

欲作巫医，不可无恒。常德或忒，人道何能。阴阳寒暑，相继相承。风飘雨暴，崇朝是臻。不久其道，德胡以增。不恒其德，业胡以精。相彼二曜，西下东升。终古不易，气化日蒸，取以为学，日渐而凝。

思危楼铭

徐君惕安邑世家子也。初与余不相识，同年李君秩三介所为文及诗请余序，述其一二。余读其《思危楼》文，以为君固可与语道者，而恨其相见之晚也。夫以安危二者淆列於天时人事之间，境则由安而造危，心则以危而趋安，故求安之至而日耽於安，而危乘之畏，危之至而日深。於危而安，亦赴之乾之九三：终日乾乾，夕惕若履之”。九四：“履虎尾不蛭，人心自危，而身自安”。故易《易》皆曰“无咎”，曰亨，盖心职思者也，思常危者也。尧舜禹心法之传首曰：人心惟危，非危於境，危於心也。危於境者，不及思。危於心者，靡日而不思，则去危就安之道，可於是得之矣。古昔圣帝明王。善其身康济，其民莫不繇此，岂从一身一家之为哉。徐子惕安愆於世，屏居山海间，有楼数楹，取魏郑公居安思危之言以名之，为之序，以

诤诫其子孙。大抵皆保泰持盈之意。呜呼！何其言之近道也。彼世之安居饱食，而日濒於危者，何弗思之甚也。徐君何所闻而能若是夫，以世为可危者，莫甚於老聃庄周。列御寇之徒是以作为，猖狂浮游之言，蘄退处于无用，以为庶几可以无危也。然鸡之断尾而不为，牺其为牺者，自若也。龟曳涂以为乐。其罹刀砧受钻灼者，又不知凡几也。故怵世之危，岬岬然避之者：异端之所为也。圣贤持危之道，则不然，以安善思不为。枯坐之禅寂，以思济危不为，绝俗之孤高，兢兢焉。日凜冰渊，而骄奢淫佚之心，无自而生，而所履皆坦途焉。孟氏曰：“心之官则思”。常思故常危也。又曰：“有思则为善”心常善故境常安也。徐子知其危矣，而更知所以济危者，则於道其庶几乎，故为广思危之义，铭之。铭曰：

仁为安宅，义为正路。舍是弗思，佚实招蠹。惺惺徐子，识练守固。甯危吾思，以履坦道兮！不偷身安，而窘步礼。信范躬兮，诗书养度。子孙法守兮！循是矩矱。载铭斯楼，圣狂自作。此中有人，高枕而卧。

二女井碑阴记

陆龟蒙曰：“碑者悲也”。古者县而窆用之隧道，今以旌德行道义，峨峨者偏当途焉。而於女子之贞烈者，尤伙是表而悲

悲矣。里人之醵金碑二女井，悲二女也。女无墓，井其墓也。悲二女之死得其所，有合乎古忠臣孝子之为也。夫全贞仗节，视死如归，事亦非易然。犹曰为身死也，为夫死也。女以夫为天，为夫死犹为身死也。若以其身死君亲难矣。故女子而仅为身死其行可表，其志未足悲也。后人无足悲以死者之犹未甚悲也。二女悲矣。女父王公叔英，以靖难师起募兵，入援不济自尽。母亦寻瘐於狱，悲父悲也，悲母悲也，孤忠効节，而吾君之存亡未可知，以悲群者悲父母，转悲父母者悲君，尤悲也。於是悲於是死锦衣狱井者误也。既系狱，出人羈线，无从得死所也。果死狱井，则必改葬他所，明史及郡邑志皆不详葬地。明死斯井，即葬斯井也，碑之宜也。忠孝义烈如二女，荒陬海澨闻其风者，犹将尸而祝之。况此为公故里，里必有井，为乡父老所征信，二女之志节，尤当世所共悲者乎！则以碑之者悲之，亦宜也。旧记略焉，特揭二女之可悲者以为言，以明碑斯井者，其犹行古之道也夫。

募建花山九老祠碑记

花山者，明逊国之变，九高士社吟地也。社为潘氏墓庵，守以僧故有梅社。而吟者益爱养之，夹溪傍山，逐大蕃殖。花时人行其中如入洞天，故又有梅花洞之称。迄今五百余年。人

往风微，守庵之僧继承推廓，遂有继善、赐福两禅堂。问社之踪迹无复存者，荒烟蔓草之间，破屋数椽，老梅数本而已。故友林君仲严，假馆继善堂者，凡二十年。尝与陈君艺圃及余议复故社为祠，以祀九先生，以艰於费不果。曾几何时林陈二君先后作古，余亦浪游南北。所至无成，挈挈而归，屏居故山又将十稔。每念旧约辄呼负负。去冬，陈君杰生，徐生子骐来余馆。次凭吊溪山，辄以修废起坠相督，过且谋集赏事，闻邑知事李瑞年并为怂恿，今春始以举事，阅雨岁而成。为屋五楹，正殿祠九先生，上皆架楼，中奉九老父师及地主乡贤，凡五人。九先生主则镌之青珉崭垂久远，且谋添置东庑坦墉而丹漆之，墙下隙地多植花木，以为恢复社学地，游客亦得憩息焉。千百载下，闻九先生之风，而兴起者，文章道义，将何以无忝前修，而思所以继承而光大之。则此举为不虚也。工将竣以其余材并修旧庵，共为一院。一以复潘氏以僧守庵之旧，一以存九老即庵为社之真。仍以僧一人居守之，稍置社产，以备支应缮修。僧人之良莠，董斯社者得以与知，而进退之将，以善其后也。呜呼！方靖难兵起，九老人不膺一命西山薇蕨之歌，忽起於南都，冠盖之外，修然而作，蹙然而止，以寄迹於一邱一壑，若与方王二老同一鼻息。至今思之，其咏歌警欬，犹在小桥流水间，其独有千古宜也。论者乃以为步武香山，抑亦浅矣。

玉环县知事江恢阅江南纪念碑

玉环多旧交游，去冬邑侯江君晖午将从事於志书，因余所识叶绅佩璈，陈绅保厘走书商榷义例，请司编校无以辞也。今岁春仲始赴局，止於邑之明伦堂。清波一泓临其前，循城而东，可濯可鉴可纶以钓暇则游息其上，谓苟得亭榭以饰之，当更有可观者。夏间再至，见邑民三五成群，相与畚土累石，汲汲不遑。间之则曰：“江侯吾父母也，闻有欲夺以去者，非此胡以慰”。余憇置之，未暇究其详也。越日诸绅方纲纪志书，介其二三父老，请文以纪之石。余谢不敏不能释然於父老也，姑谓之曰：“试言侯之及民，与尔所欲致於侯者。”父老曰：“吾攀乡氓耳，不知吏治然。闻侯初宦宁海，有政声，望风喁喁。不俟其既至也，下车以来，政平人和，民之俟命於侯者谋之，惟恐不豫也；事之不便於民者，去之，惟恐不速也。其有邻於私者，又未尝不介然自克也。愿铭诸石，以诏来者。”余曰：“信如是可以书”。玉环地边山海号为难治，曾几何时及民者如是之多，民之思之也，如是之甚。宜有以励其后者。余於数月间两至玉，其於江君一谒之外无他接，够顾已目击，而道存父老之言，庶不余欺也。民邦肇造万事束湿，官方士习，举目靡然。弱者既乏才以为肆应，而妄用其才者辄复阴贼险狠，与人异趣，求其惜习翰飭簠簋者，几如景星庆云，可闻不可得，而见吏道之衰，不可

无以劝也。而其为亭於斯，复触吾所同嗜，翼然其亭，穹然其碑。俯视沧漪浑涵荡漾，侯与民共乐之。余亦以成书，需时尚得躬见其盛文以纪之，又乌可已。侯安徽婺源人，晖午其号也。治玉时甫岁，其得民也已然，是必能子其民矣。敢铭以勸之。铭曰：

洪流弥弥，有湜其止。侯惠民也，有期民思侯也。胡底江河，日下挽者。谁愿常盟，心如止水。

玉环县知事江恢阅江北纪念碑

邑山自大雷南走，折而东为楚门。明信国公汤和，所筑之千户所也。其南趋而竟海者，则有黄坎二门，全浙屏蔽在焉。今皆为玉环境中。隔一港谓之清港，港以北曰江北，旧太平地。其南曰江南，则前隶乐清者，故其风俗习惯，多仍两邑之旧，不能强同也。婺源江君晖午治玉期岁，民心翕然称便。余既以二三长老意书碑於江南矣，江北之民闻而譁然。曰侯之治玉，兴利除弊，已无间於南北。所以铭其惠者止於县治，无以见其及民之远，抑非所以表吾民，祈响之同也。於是度地於旧玉海校之前，有园数弓，有水一沼，缭以周垣，树碑其中。因余所亲郑君作霖走书敦促，惟恐后於江南也。余前十数岁尝司玉海教事，其山水位置，犹能记忆。迴首天香深处，当复得一雅观

矣。独念彼此数十里之间一时之事，中隔一衣带水，而两为之碑文以纪之者，又出余一人之手，侯果何修而得此於民樵绅先生之於余文，又何不厌弃若是耶然。孔子之作春秋也，彼善於此，如齐桓晋文事，皆大书特书，不一书。而羊叔子杜元凯仁政仕荆州，愍前世之无闻镌碑纪事，一置岷山之上，一投汉水之渊。古人亦有为此者矣。况江北本吾太平地，交游重以姻娅，其所望恩幸泽者，犹吾故乡之父老子弟也。方今南北战争久而未弭，恨无与沟通其间，以固民邦统一之势。即小观大，知侯之善治，与玉民之善颂善祷矣。侯平恕接之蔼然，宜为民所亲者。故铭之曰。

榴屿隔江望地腴，苍玉双环陟然置。得民无他惟平易，言文之石风来世。何当珥笔书循吏。

先严石牧赠君行状

先严讳建焯，初号侣鸥，庠或慕清，后因居石牛山，更号石牧。聘蔡氏未婚，故娶金氏孺人，生不肖兄弟四人，姊一人。不肖最居幼，生时家已少有，先严以未见艰苦为虑，故与家慈告教者，靡所不至。不肖之不纳於邪，繇此提命之殷，至今犹在心目。又得诸父执所称述，益知所从来。尝诲不肖曰：余自弱岁家已中落，尔大父以苦学得心恙，流离播徙，未遑学也。

年将冠始往依母舅叶芸圃先生，傭书以自给，纳经史囊中，暇辄展卷读，胸前置夹袋常以楮墨自随。有得辄笔之，处身治家所问，受於老成者亦然，以是得不废学。语次出篋中书示曰：“余生平心血所在也。”时不肖尚幼，不能知其详。稍长受书先严，其所课四子、六经，靡不贯串胸中，尤专左氏春秋、及周易。口讲指画自成，条段崭有当於身心日用。不肖之稍知书，庭训力也。生平寡交往，与邑布衣林啸山，庠宿砺生、洪筱、楼诸葛哲生诸先一为莫逆。清苦自持，言动不苟，皆当世君子人也。先严馆远地，命不肖从之学，敦促如所生。不肖兄弟稍涉非礼，见必诃让之曰：“尔父命也”。又曰：“吾与尔父交最久，知其孝友，出於天性，尔兄弟宜效之。”其於庭闈之间，艰苦刻励，以支门户，而全手足。家慈常以为言，咸丰辛酉洪杨军据城，挈眷山栖，而躬授从於外，虽读书不废，治生而馆课，实未尝一日旷。且能纳童子於绳检，以故欲作养其子弟者争延致之，馆桐陈程氏者十余年，他处各数年。其为教也，严而有法，邑明经裴诗藏为之传甚详，兹不赘。不肖甫成童，先严已罢馆。而命不肖就外傅，虽婚嫁杂冗必时至馆查验。家居之所以督课者，未尝少衰。不肖年二十有四而先严弃养，越三岁不肖始游庠。呜呼痛哉！先严以不肖诸兄迫於家计，中道辍学，故期望於不肖者厚，而不获少睹其成，不肖之罪也。因出篋中遗文稍为詮次得《耕云偶语》五卷，文二卷，诗一卷，树畜书四卷，录古

文又十卷。率皆故训格言，触目警心之语，平居所以教不肖持家非无本也。不肖失怙，始与家事，尝恐以是废学，家慈则述先严以为训曰：“读书之与治生，二而一者也”。自余为尔家妇出人恒不相掩，尔父必预为之计，尝观其大要，则曰预备分为三目：一曰书本，凡购备图书及束修膏火隶焉；二曰食本，种籽械器培壅工价隶焉；三曰用本，嫁娶吊祭酒食医药隶焉。每事预为之谋，以是得无累於心，亦不至觊觎非望，以堕丧廉耻，尔父教也。不肖谨受命。癸卯岁赖先人遗泽以不材而举於乡。先严之舍不肖而去者，已十五春秋矣。今岁以浙藩保送考职，得以本班分省，又以家慈衰老，不敢擅离，仅援例典以赠，心滋戚矣。先严以光绪戊寅五月二十六日卒，距生道光辛巳年，七十疾革。自为联语以輓及处分身后事：“於夙所乞假贫不能偿者，辄焚其券”。谓不肖兄弟曰：“此儻来物不必琐琐与人校。”余年四十尚白手，今得为儿辈立衣食业，始愿不及此语曰：“愚而多财益其过，贤而多财损其智。”吾生平所敬诵者尔其勉之至。今回忆教言及其勤俭自励，以造於道人。人能言之前未有状，故传之不详，谨补书以自志其哀，即以存赠君之真，俾来者知所考焉。

家慈金氏孺人行状

孺人金氏，系出凤山望族，居北山庄，太学克印女也。先赠君聘蔡氏未婚而卒，家适中落，先大父馨吾公方得心恙，先大母蒋氏，儒家子不谙作苦，时先叔父方提抱，家中不能容冗食，稍事拮据。先大母辄病卧，故孺人十三龄迎养，逾数岁始成礼。自归我先赠君，上事尊章，下抚幼叔，知家日式微，而食指日繁辄与先赠君相敦勉，日夕劬劬，得以稍舒其困。咸丰辛酉之变，家室播荡赠君益无所为计。孺人曰：“积岁赁居，动辄蚀其租税，非计也。三男已渐次成长，昂曷择瘠土而可以力食者。”先赠君韪其策，购地花山之北，不足则灯火缝纫，以佐之。凡三阅寒暑而始符其直挈家栖焉。先赠君方授徒远地，孺人以一身兼综内外，一切米盐并臼刀尺之事，不以假人。故三十年中手指恒不得少休其间，先大母攫疾卒。先大父亦时卧病，不肖与姊寿梅方襁褓，妇人作家之苦，未有若孺人者。不肖生时孺人年四十有二，而家甫少有，而孺人之心身俱瘁矣。时不肖诸昆虽已受室，而宾客领食之需，亲故往来之礼，必惟孺人是向。莫不井井有条，尤善事大父母，先大父攫疾者十许年。虽山居必市鱼鲜，稍不称意必更易之，不敢以为烦费，饮食必先，汤药必亲，丧祭必尽哀竭诚其事。先赠君亦然，赠君弃养时出所蓄金为娱老计，孺人悉出以给不肖等必均，曰：“余无需

是也。”生平俭以自奉，而於乡里之困乏，宗族之乞假，以及婚娶种籽之不给者，先赠君乐资助之，孺人每以为喜，或从而赞之曰：“此厚道也。”其贫不能偿者辄贷之，则又曰：“此境皆所亲历，奈何不反身自问，而知贫者之难也。”其告儿媳亦恒以此为言，此不肖所亲见而习闻者。孺人以道光乙酉九月二十四日生，今且八十有三矣。不肖幸捷於乡，得以赠封其亲，惜孺人老。不肖拙於事，未能得禄以养，常引以为疚。而孺人抚诸孙甘菽水，未尝不怡然自得也。且曰：“尔家世儒，素身亦弱，宜益广先人之德，以为来者地，功名仕宦得之不足羨竣时焉。”而已不肖志之不敢忘，八秩诞辰时，已有孙男七人，女五人，曾孙男一人、女四人。不肖与伯兄将率家人而为之寿，孺人坚不肯，事遂中辍。今又忽忽数载矣。虽尚能步履，而饮食日以少，形容日以悴，西山日薄，孺人之劳瘁於不肖兄弟者，将胡以少慰耶。今春族人议辑宗谱，苙忝职其事。谨述其作家之苦，及其训於儿媳者。胪为行状，用丐大雅一言，以光家乘，不胜稽首拜命之至。

卷四 传略行述

业师叶彬士先生传

师姓叶氏、讳光绅、彬士其号也。为邑选科闾凡太师第三子。太师蓄德能文著有《天香楼》集。诗赋及文脍炙人口，故一时景从称盛。咸同以来，老师宿儒大半出其门下。至今数吾邑文家，犹首屈一指焉。太师既善於匠成故子若弟，濡染庭训，亦莫不破壁以去。长君谷士先生登丁卯贤书，次若士次即吾师，皆以俊才茂学，踰冠游庠，而吾师旋补增广生员。太师既逝世丧乱之后，学风衰息。先生思绍先业，授徒邑中，从者恒数十人。时荏年甫十三四，以先严命往受业焉。时先生子世篁兄子少谷咸在，先生视从子犹其子，而视诸生亦犹其子与从子也。其施於家荏虽不能知，而温蔼可亲之概已如者矣。先生之为教也，少严而多宽，似有得於宣尼善诱之道者。每见荏所为交若诗，稍有条理，輒加奖，借以是敢肆笔为文章。盖荏自五龄入家塾，先严但令读经子古人文诗，至於制艺一道，恒厌弃之故，迄未措意。先生则订课程，示法式口讲指画务使明白易晓。荏之初学帖，括先生之教也，时荏适病疝瘕作，旋已而先生亦以时馆远地，恨不久追隨也，然每得手书未尝不谆谆勤勉，望荏之成者，可谓殷矣。性好古玩铜模竹刻而外兼及印章钱谱。

馆课之暇，翻阅图谱，如对古人，津津有味也。或以时作隼尾波书，及摹刻钟鼎文字、或與二三朋辈论诗痛饮、兴高采烈，恒少露其天倪。每言及家人生计，輒疾首蹙额，若不胜其苦者。盖先生家仅中人食指日多读书而兼治生，非所能而强为之、故不胜其累。年甫五十而发星星白矣，卒年五十有九。师母某氏，先先生卒，子一人即世簠。今已有孙四人。方先生卒时、苙适丁母丧，不获私为之谥以彰先生隐德，今世簠君以状来请为文，以传其勤恳之意，时见於言表。夫苙之不忍忘其师，犹之世簠之不忍忘其亲也。况苙家与叶氏为旧姻娅，苙祖母出书交公公於先生为叔行故於叶氏家世，颇有所闻，知谊当书而归之，以存先生於万一。俾后世知所考云。

布衣林嘯山先生传

岁七月，邑布衣有嘯山先生无疾终，门下士以其行谊之高，徵文以传先生。於苙为父，执余室又先生从女也。以是时相过从得悉先生之家世，与其所以教告学人者，欲以不文辞不得也。先生姓林氏，其初名舒，后慕孙登读书长嘯，更名曰鸾，字嘯山。其先生世有白峰先生与弟雪臆辈，俱以学行知名后世，先生其世孙也。自幼好读书，孔孟而外旁涉庄老及释藏诸书。所为文，沈博恣肆，不合宗工，绳尺辄弃，不事，然其理想之高，

眼光之大，已为有识者所共许。苍溪周廉臣孝廉闻先生名，优其馆谷，延课子弟。子弟蒸蒸然日以上，四远争相罗致，以不得先生为憾。至不得已乃两谢之。居间种花满园，扫室焚香，以自消遣其胸中不可一世之概，恒露於眉宇间。洪杨兵起、地方秩序大乱。孤儿幼女、失养者日以百十数。先生请为缮檄教，使收养之，军书旁，午饭群儿必徧尤善谈兵。尝谓大丈夫不得志，亦当为偏裨，得卒数百人教之大之，可以横行天下。若为地方靖暴乱，直指顾问事耳。方先严馆团浦时，见知於其太翁目云先生因得与先生交。时苙方总角索观文诗，谬以南宫见遇，妻以弟女亲执柯焉。自是苙学业之进退，靡不在先生意中，敦促先严，使择师而事。先严事谨小先生务持高论至其诉合无间，未尝不倚如左右手也。自先严逝世，先生言及必声泪俱下，曰：“尔父盖苦于学者。”“苙以时至岳家辄从问益、先生亦嗇以异数无不乐为尽言，所论经史皆从无文字中著意，论人亦然。性滑稽每至不屑言者輒涉谐谑，故索解恒难。与邑明经裴诗藏为执友，序其诗，言之甚悉，兹不赘。惟所闻读书教子之道，有足为世法者，尝谓：学诗之难、谊於唐宋大家，取性之近者长篇，谊诵千遍，短章半之。如是数年，然后执笔为诗，择其所能者效之，后乃脱颖而出，自成一家。又谓：训模仿宜精宜驯一切俚俗文字入手，虽易異日成文最难，雅伤皆先生心得。语至於养亲教家待人之道观其所言所行，无不出肺腑，故於贫老

者尤恩焉。先生长满七尺，准隆隆起，广颡修髯，一见知非寻常人。晚岁以古风日薄恒作离世想糊一楼独处，榜曰半船，不使有俗人迹。每谓居近廛市、二十年来所见人日少，而鬼日多早旦粗衣健步来往尚多人类。过午则烟鬼赌鬼酒鬼一时并出，如置身罗刹国及阿鼻狱中，其愤时疾俗，类如此。著有《半船楼诗》四卷，古乐府一卷，随笔六卷。晚岁课孙有四书题语之辑，已成，论语未竟而卒。年盖八十有三。子一女三，各知书有室，家孙口口幼服先生之教，宜有以世其学者。

梁岑朋先生传

昔皇甫谧传高士纪梁鸿事，甚悉范蔚宗亦列之逸民，读者翫之，独惜不受肃宗徵，壹意为隐，不能与鲁恭卓茂比烈士。生古人后所遇虽殊、然必不沦於俗，不绝於世，而后或出或处，隨在皆可以自见。如邑明经岑朋梁先生者，亦斯世所不数数够也。先生讳坤，字口口，岑朋其号也，邑南城坊人。幼读书慕伯鸾之为人，年甫志学已翹然负异。未冠游庠，輒为学者所师事。工制艺及古文诗赋类，能出人大家，善真行各体书，团结精致不懈松雪，以是屡试高等，旋以恩例膺贡。先后两主邑鹤鸣书院，一主玉环玉海书院，各数年。士之景从甚众，无疏戚视若一。呈以文有不妥必芟蕪之，恒夜四鼓，寢人谓其过劳，

则曰分应尔也。再主鹤鸣，时年已垂老。然每迈一题，必躬拟一二艺以开示学者，故其所造就特多，此先生之学之教卓卓一时者也。先生身長七尺，衣冠正式，步履端严，望之如鸡群之鹤。及与接洽则朴讷过常人咨以事无可否，輒唯唯进考其所行，则一以廉正自持，不屑希世取宠。方咸丰辛酉洪杨军大股扰台，邑城失守者才有七日，群不肖乘机引诱，为虎之伥者，不知凡几。先生破屋数椽额曰：独清，萧然自守有愍其穷者则怡然谓曰：伯鸾无米而炊不因人热我犹是也，遂以名其斋，策攻守无用之者，遂成《方城寇变》记一卷，举从叛者口诛而笔伐之，为吾邑信史。迄今推其意气之盛，崖岸之高，虽令执天宪列谏垣，当不至如寒蝉仗马。乃以明经卒老牖下，非特先生之不幸，亦有心世道者，所同悲也。先生乃廓然不以为意，日从事於文墨，著有《不因热斋诗文稿》，及葺本宗谱牒。光绪某岁以国庆举行恩科，先生贡於朝，遂以四朝知遇镌为印章，盖先生入泮当道光朝，以咸丰朝补增广生及食饩，则同治朝也。其不孤国恩，如是非逸民所可比拟矣。卒年七十有七。德配口氏继配口氏皆贤亦德，曜之偶伯鸾也。子三人，长君鸿藻，世其学，壮岁已宰博士弟子员，女一人，先生之蓄德能文嗇於其身者，将丰之於其子孙，非第日享膺上贡已也。苙 从先生游，多赖其指授，又与长君交好，以故得稔先生之梗概。今岁杏君葺梁氏谱成嘱为文，以传先生辞不获念。先生性节介，如鸿博览，执

勤如鸿，闭户著书，如鸿而忍於斯世斯民者，则又非鸿所可望其项背，则先生之慕伯鸞犹武乡侯之比管乐，有过之无不及也。然则先生之德行道谊自能永之名山，传之志乘，若苙所陈乌足窥其万一哉。

友人林仲严传

先生姓林氏，讳曰简，字居敬，仲严其号也。以名诸生馆於花山僧寺者，垂二十年，门徒一时称盛，以今岁之秋日卒。门下士哭而奠之乞为文以传，余辱与先生交且厚，辞不获已因叙其生平以归之。先生早失怙。与兄及弟同居以养母。自幼嬉戏为群儿雄。余一见辄避之。稍长折节读书通经史大义，家贫恃馆谷为岁入。故自游遇庠后，即学者所师事先生示以绳准，莫不得其益以去。是以四方来者，日益众，寺屋十数楹皆为之满。其高第弟子因而驰誉文坛，蜚声黉序者，毋虑数十人。授课之暇、与二三知己社而论文。陈君艺圃、方君洵成及其从弟伯瑗，凡三四人余亦与焉。相与谭今论古，听水看山。每谓明清五百年来，不可无此雅集。而先生方欲复故社，以祀九老其志趣可以观矣。然胸次廓落，不可有一物，意稍不合辄形诸辞色，事过随忘，未尝芥蒂於中。师弟朋友之间知其人者，得以久而益笃，平居寡谈，名理而所行动中，其节与言事，初若无

可否而自信。既笃即履这不疑。尤好奖励风化，维持士类奋然而起，不可以復沮，若有得於王门知行合一之旨者，故虽以博士弟子终而率性而行，有落落足数者。明脩撰王叙英殉节，时二女闻难趋井死，并在邑南之亭岭下，旧有碑已仆，先生剪荆榛起之复故井，别镌碑以纪其事。近道为樵牧者所侵害，不数日折而两。先生觅贞珉復镌之，周其亭，障置守而后已。于铁樵太史感应篇赘言以义理，谈因果通儒不能义也。先生憾其流传不广，集赏钁版，印千余册，度几上好者辄以一编赠。其与人为善之心，类如此。尝谓余曰士不可无任事力，乡里义举善者孰为存，不善者孰为劝。邑宾兴月课，为寒士进身阶，士受其赐者多矣。壬寅岁直省开办学堂，时停止科举、未有明交也。宰是邦者急於兴学，拟拨两项若干充办学经费，事已缮详，先生毅然争之，率合庠讲之上宪事得中止吕新。吾方伯乡甲约以保甲附乡约而行。最为民治之善，余有志焉未逮也。先生闻之，輒举邑诸君子立时修举，缮章程集讲义。虽剧疾必至，至则必司其职则，不惟张士气，并以端士习，虽或成或不成，而先生之心为已至矣。会料科举停止，先生以进取涂绝，无以大展其所为，因得幽忧疾，恒斋卧，家人问之，则曰：无恙也。疾棘始谓所亲曰：余固知如是然不欲伤吾母心耳，沐浴趋就正寝，遂於是夕卒。卒时笑声闻户外，观者以为得大解脱，余则嘉其得正而终也。慨自士行不脩教，非所学习非所用。秀士作事如

鸟兽散，诒笑天下久矣。先生之所自为如此教人者，可知青氈一席。而人之乐从者，如此之多，一介寒酸而事之者以告人者如此之众，使不厄以遇而假之年，所谓断断无技，休休有容者何以加兹，即不然德以积而日进，气以养而日纯，其所成就，当不止是。乃九赴乡闈，膺荐者三，借中者二，竟以额满见遗时也，命也，夫复何言。然师若弟晤对溪山间脩脯以养其亲，诗文以道其性，其生也得徒其死也得正，盖亦有至乐存焉。配金氏受聘后即得废疾，先生优卹之异常人，蚤先生一岁卒。兄少子幼，慧先生视之如所生，尝谓人曰：此吾家千家驹也。金氏卒时命服衰成礼。今即为先生后云。

故副魁兰舟柯先生传述

先生讳作楫，号兰舟，邑城花坊人。自幼天性醇谨稍长与弟佩秋，以敦品读书自励。年十九，补博士弟子员。而学益奋。兄弟相对赏奇析疑，论者比之轼辙。以时研求百家诸子及骈散各体文，皆能得其精奥。所为文沈博绝丽，后进争师宗之，屡战棘闈，备而不录。光绪癸巳始以副魁中式，士林深为惋惜，先生亦以得失有命，绝意进取，一以修举乡政为已任。岁甲午，与金鸣九、金逸峰、蒋偶山、郑笃生诸前辈，分纂邑志。并历办平糶团练诸要，政动称厥职。而尤以材务所优，注重於教育，

遂以己亥，主讲鹤鸣书院。谓八比试帖无当世用，朔望会文必兼课，以经义策论，门下士知所趋重，彬彬称盛。其造就之多与梁岑朋、张澹卿两山长先后如出一辙。辛丑冬，以清廷政体改革，已渐趋於科学教育。先生輒缮章通稟改书院为学堂。添聘教习详定规程，吾邑之有学堂自先生始。岁甲辰、邑侯孙叔平改聘先生为横湖官学监、督办理一年成效卓然。邑人士廓充官学为中学、先愿避贤路，退居教员。旋以学识经验之富莫若先生洵升中学监督如故。嗣复见推为教育会长。当此学术竞争，每以后人为虑，加以山海间阻，闻见多歧，先生并务兼营，殚心提倡，吾邑学风之盛於斯为最。乙酉秋，卸任去，从游诸子如夫指南，坚讲继续开馆。先生不忍指其求学之诚，且念教育统一首在陶成师范，假设讲习所於东外肄经书院，经费不足，取之私囊。一年期满心力俱瘁，休养数月以临邑周教廉萍洄聘固辞不获，乃受三台中学教员之职。在校四年、六邑人士交相引重。而於学生尤多美感，盖其道德诗书之气涵泳於中者久矣。以甲寅夏辞职，归综计先生从事教育者历经三十载，生徒千数百人而教授精力随处都到正如淮阴将兵多多益办。甫回里又念宗谱久曠未修，聚族合议，身肩其任乡里之以文字求者亦一一应之，暇则日手一编，随意吟咏。著有修身讲义一册，经学讲义如若卷，诗文集如若卷。先生以道光庚戌生、与东坡同日月。能诗善饮，豪情胜概不減内翰当年。以今秋谢世，年六十有七。

子三人长，国璋，以经学毕业浙江高等预科，奏奖岁贡后由提学使支咨送北京大学，以德文第二类毕业。次国琚，毕业第六中校。次国璜，以先生命出后其弟佩秋先生肄业第六中校，未届毕业者两月闻疾而归。先生为学确宗程朱，晚岁睥面盎背一望而道气浑然，处事接人，莫不务为宽厚。所尤难者，其事亲也则孺慕之情老而弥笃。口口先生得其颐养，躬登耄耋。其友弟也则幼同榻，长同业，居同爨者六十余年未尝少有睚眦。此先生本身之教承学之士所乐奉为师表者也。柯故邑著姓，祖父口口先生兄弟复以文章丰采并显一时。去冬佩秋先生捐馆，先生已抑抑不乐弥留之顷犹诵苏子瞻寄子由句；知其天性之爱不以既往而衰也。苙生也晚比成长，先生已有门徒，其接办横湖宫学及邑中校。苙实与执教鞭与先生盘桓者累岁。於其性情气谊颇知一二，不容以不文辞也。谨徇其门人之请詮次行实如右，并僭论之。

论曰：以身教者，从以言教者。讼自欧化输入国粹沦丧。笃於古者，既不周於时。而舍旧而谋新者，徒从事於文言，又靡然失所自守。其为学不知何如？往往显悖乎中国伦纪之常，圣贤之道。诚得如先生者以为之大师。本身为教，举道德文章合炉而冶。且胥范之以中正，其作育当有殊於人者，虽所成就，不称其德器而皋比一席积毕世精力，以劑之其所，渐被为已宏矣。周官八法儒曰：以道得民宜哉。

布衣陈菊人先生传

自来世家巨阉之兴，必徯其先德之厚，有以滋培而繁殖之，而后能显荣光大、传之弗替。如彼树木必其根柢蟠固，而枝叶花实始以扶疏硕大往往然也。以余所闻菊人陈先生者，可谓树德而务滋者矣。先生讳口口菊人其号也，居玉邑之劳杜。仓先生无大名德，居远城市先生又少孤，后虽第知其雄于财而已然自子若孙，竟以文鸣庠序。芳杜陈氏遂籍籍人口耳，闻先生亦躬当其盛，呜呼是果操何道哉。今岁其嫡孙愚亭为先生营窆窆葬有日，迨以状来并示乡先鞅少岩先生所赠诗，讲文以传。余读之作而曰：吾知陈氏之所以兴矣，状称陈氏祖居峨山比迁玉。已饶於财。先生知积而能散之道，邻里乞假不责其偿。至今犹称道勿衰。性实朴，宾朋往来之间，一处以直道，其居心之厚已可概见。尝以不逮事亲为憾、故於骨肉手足之间，情好尤笃。长兄口口操家政、先生听之出纳丰啬一唯兄命。比分爨、未尝屑屑较量、乡里益称之。配林孺人贤而且能、先生即举家委焉。观其生平，大抵类於拙者之所为。而拙於人者申於天畜於身者，丰於其后而长君光序年甫十八已入郡庠第一，阅三岁补博士弟子员。不十余年而孙邦华相继而起。游黉食饩所得不异於其父。且先於其父少君口口虽童军屣蹶，亦已循例纳粟贡人成，均声名文物，冠盖倾一乡。此虽以见后人之贤，亦其作育者殷留贻者厚。故其显荣光大，有引而靡长者，此非曰偶然也。

陈藻青先生家传

先生讳蔚章，藻青其号也，世为邑高浦庄人。祖父以殷富好善，见称於乡里。先生三岁而孤，节母林太孺人抚以成。太孺人，邑花坊林氏右榜凤冈公女弟也。善教子，以家无巨丁，而饶於财，非读书无以自立。故先生及弟柳塘甫能语言，辄延师课之读，先生姿性敏警，稍长能文，已轶其群辈。时先生王父恩淦公已卒，王母衰迈，弟方幼弱，群不肖争鱼肉之。太孺人以一身支挂内外者，垂十余年。先生不忍其劳瘁，时分任之。太孺人则恐其废学也。以已聘媳贤且能，乃亟为请期。先生年甫十八，潘孺人已嫔于陈氏太孺人，喜其精练，遂令并理家政。先生乃得究心於六经三史，以为有本有用之学。寻以邑附学生中式光绪辛卯正科举人，特授山阴县学教谕。在任捐廉修理文庙，丹碧焕然，多士悦附。方思藉手有为，而光复军起地方秩序紊乱。先生遂辞职归田，倡议团练乡兵、科派均赏罚，信村民安堵如故，以是共服先生之能。然方其既游庠也，淡於进取，未尝屑屑为宦达计。有姊适晋岙毛氏，其家以拒匪误伤哨兵为其弁所衔会，弁擢为松门游击，以势力所及，诬之上宪，逮捕甚急。先生以亲故颇为缓颊遂并中伤之，思为一网打尽之计。先生乃问道赴浙闈试，姊夫亦仓皇四窜，弁索之不得。毛氏遂被火剽产亦籍没。茆在团浦岳家四楼，与晋岙正相直，见闻所及不胜駭恨。越数夕顾徐二邻人来相与篝镫夜话、瞥见笼烛数

千竿自东海而西直达。毛氏所心疑官兵复至，迨明偏询近村无知者。不一月而先生之捷音至，毛氏这难亦遂以解。繇村夫牧豎皆知科名之重。而先生之声誉与其先人之修德而获报者亦遂籍籍人口矣。时以太孺人已老且衰，先生既不忍远游久曠定省王父枢尚在殡，又不得不亟营葬地。故岁戊戌始应礼闈既报罢而大挑已届先生遂应试得二等，以教职用。盖自宴鹿鸣至此已八年矣。中丁王母及母艰为两世下幽口医药丧祭，衰服僂然。试归为王父母及父母举行葬礼。讷房主吴云石知玉环州事，聘阅试卷，遂为环山书院山长，雅相契重，一时善政多所赞成，以是保升内阁中书部选已及乃赴山阴任。生平笃於事亲，王父之弃养也，先生年甫九龄，服丧终制已如成人。母林太孺人疾，衣不解带者经年，药非尝不敢进。卒则哀毁骨立，其於王母也亦然，哭泣之声每数日不绝，邻里恐其以哀灭性，争相慰解。先生则曰：“吾之得有今日毋氏力也，吾自失怙以来，内忧外侮，惟母是赖。比遭颠沛重劳吾王母及母以倚闾之望，操家之心至妇人为已苦患难之戚、至衰老而更深四五年，既丧吾母又丧王母，吾能无悲耶！”闻者皆为泣然。前数岁林太孺人既以节旌於朝，先生犹以不逮事王父母为憾，思益光大其善道。故於道桥沟渠之不治者，则量力修濬。邑有偏灾则开仓平糴。既罢官家居，课子兼与研究医理，造门求诊者踵恒相接，贫者则饮以刀圭，受其赐者，莫不交口诵。今岁方与其弟合构后楼，为娱

老计。而遽以七月十九日逝，年仅五十有一。论者惜之。子三人长烈初蚤卒，次仲彝，次促涵，能世其学，先生在官日浅，宦业尚未显著。而至性醇笃，才识敏警有过人者。苙与先生同岁生，而其举於乡也。先苙一纪居较远不相闻也，比甲辰就礼部试於汴，同旅处者数月，始识其性情气谊。今先生已归道山，不可无以传也。故途次见闻如右，并私论之。

论曰：士之能发名成业者，非独其才美也，必有所庇，以生有所激而奋。以观唐柳仲郢，宋欧阳庐陵，莫不赖有贤母。而苏季子之仕秦望诸君之宦，赵又皆为敌国，外患所迫协，而乃以致通显。使无毛氏，非罪之罪先生，方席丰履，厚以名诸生酣豢於乡里，而已一激而兴，所就若是之大。孟氏谓“生於忧患”，其信然矣。

陈则山先生传

先生讳廷谔，字慕舆，号曰则山，赠文林郎国学敬生先生之冢嗣也。世为邑中园陈氏。世父秋航先生，以老明经，以诗善饮，士流争相倾附。先生承其家学，争自濯磨，丰采文章，望如鸡群独鹤。故年未及壮，蚤已游庠食饩，为学者所景从。其为文峭劲，透鬪动得方，集虚王已山家法，一时声名噪甚试即冠其曹。从之游者，亦如龙子点睛，莫不破壁飞去，顾召才

不羈，尤豪於飲，日浮三大白後，談鋒咄咄，視天下事無不可辦。知其能者皆欲收之夾袋。山陰孝廉徐廷孫為邑教諭，深器重之。旋以改官知縣，赴靈寶任，挈先生與之偕。遂偏歷河洛形勝之地，敏虎牢出轅轅，抵函谷，弔古所謂二陵者。會舉順天鄉試，以有拳匪之亂借闈河南。先生客游占籍遂登賢書。時光緒壬寅歲也。其後一應禮部試，既報罷。歸為鶴鳴高等小學校長，尋又任教員於宗文高等小學。時以朝政改革，士務研求法律政治以裨實用。先生遂由寧波法校肄業，期滿赴部考試，籤分雲南任地方檢察廳檢察官。以老練之才，處邊要之地方，謂英雄得以用武，其事業勛名，將與瀾滄競流，烏蒙比峙。乃甫期月，而光復軍起，先生歸長商農各會，兼充巡警董事。論者惜之。然當此秩序紊亂，退而自治其鄉里。俾實業警察諸要政，得以次第進行。邑人得以安謐如故者，先生與有力焉。暇則開館近居，仍理舊業。里社詩酒會，鮮不與工。習楷書出入歐柳。詩文而外尤善為楹語。措辭雋雅，屬對精工，有振筆疾書之樂。夫以先生之才識器宇，使假以歲時，其所措施當自異人者奚。止以空文垂世，願輾轍不得志，工愁病酒，几如杜陵野老，豈天之厄先生歟。抑文章憎命自古而然歟。然而飲酒一石，讀書五車，行路八九千里，亦足以自豪矣。汪自中歲獲知先生壬辰同赴春宮於汴，所過山川郡邑皆其舊游。遇有名勝，必一一指點，以時泊舟秦淮，飲馬江漢，西指洛陽，南顧黃鶴，

意气之壮，笑语之欢，至今犹若目前。忽尔物化益使人增先达沦丧之感矣。先生母林太宜人蚤逝，事赠君敬生先生及继母王太宜人，俱能得其欢。性直而温，与人交藹如也。配林宜人，继配彭宜人，皆贤。子三、长律中、游学日本法校，曾充天台县承审员，次猗，卒业临海体育学校。次騫，肄业第六中校，头角崭然，皆足以世其学。今先生已归道山，门下士请文以传，谨以素所闻见者詮次如论曰：

吾邑以北阇领乡荐者，向惟鹤泉戚先生，至先生有两焉。顾鹤泉先生捷南宫仕河南涉县者，凡数岁。而先生之於滇一官，匏系不久而归，盖亦有幸有不幸焉。然先生初寡为诗，自游滇后唱和遂多。岂其盘礴郁积之才，不获大施於民者，一发之於吟咏，故如是之神欤。余考鹤泉诗钞，亦大抵成於晚岁，岂果有同志欤。

汪太翁晓麓先生传

民国纪元，浙东西秩序未复，盗匪蜂起，岷为尤甚。都督汤寿潜民政部长补辅成，以奉化汪君成教才、拔任岷县事。君以严、不辟嫌怨、为之魁渠伏法，岷用少安。四月四日太望尘莫及晓麓先生讣音至、解职奔丧奉终大事。九月起治吾太。听政之暇詮次太望尘莫及行实徵文以传，汪虽不获亲炙先生，繇

是得悉先生廉能之教，君之学成而仕非偶然也。按先生为忠诚公子，序居次生十二年而忠诚公见背，鞠於母虞太孺人家贫，太孺人躬织履以食，而命先生从师读，每值严寒，裂膚堕指，曾不以为苦。以是先生内不自安，稍长辄为人司簿，计以月薪所入养其亲，而贍其家。前清咸丰辛酉洪杨军至，奉家燬於兵。先生挈眷辟难，艰苦万状，军退赁屋而居，糝殮恒不继，然不以是稍 其志。事君长为之遴选，师友故能收其效於数十年以后，呜呼可谓难矣。汪为奉著姓，族聚亦繁，先是师古公即祠为塾，以教其子弟。人文衰息，久废不举。先生曰：“是宜复。”毅然与族弟孝升请之宗，拨地十五亩以为基本，与祠产分筹合理，五年而祠产增，十余年而学产亦增。邑资福庙登祭颇费汪氏轮值，一堡先生以学子之无为补助也、曰是宜节。悉心综覈二十余年赖其羨余就学日多、其贫不能举丧者，亦得所欣助，又以邑无同善局，与萧怡云、陈韻琴、徐郎川诸人倡议举办。初以经费支出，假育婴堂施医药，公推先生为经理，凡十七年成效既著。乃募捐设局於武庙右侧，添聘内外科医士，规模以大，一时士夫莫不交口诵。谓先生盖廉而能者，宰是邑者，亦争相器重。一切公益事，必待先生，而成立，郭令文翘创设广济掩埋各局。以先生行且老签君董其事，先生虑其废学也，辞不获已，乃躬任之。纪纲数年野无暴骨，呜呼可谓难矣。方先生年甫踰冠，丧乱未平，契谋生活之不暇。重以遭家多故。虞

太孺人即世伯兄孝福，晚岁抱疾又无似续，叔父惠誠非辜被逮，群从子弟死生休戚，衣食室家胥於先生、是赖他人处，此无殒其家足矣。而先生以空拳白手，四十年中所就若是之多，以视持梁齿肥，汶汶以终者，贤不肖相去何如也。先生当前清时，由国子生报効得六品衔。卒时春秋六十有八。子一即君，前廩贡生。女一适同里江起鲸，前县学生。孙男二、长章璿，肄业浙江法政学校。次章球，女孙二，少长雍然。在先生任天而行，初不薪报於子孙禄仕，而为家庭尊人道，为宗族尽义务，为社会修天职。故不必口诗书，而手鞭朴，本身之教，有足以诒之后矣。念自南北统一以来，建设方新，度支交困，凡百职务非能无以正国纪，非廉无以厚民生。君之治岷也。反抗者蜚语四腾，先生曰：吾儿必不至此。所以教之者，可知君之述先生状曰：吾父廉且能、则能奉其教也，又可知君蒞太数月，於兹法修政举，民望殷然。虽以烟禁倥偬，未遑他及，而恒留意於实业教育，知非操切以图功名者比。苙愧不文不足以傳先生，得郵嗣君以印闻风采，敢述基本身之教，以为君勉。所以慰其先人者，在是所以惠吾邑氏者岂外是哉。赞曰：考析薪兮子员荷，考作室兮子肯堂。开国承家兮惟若考光利国福民兮惟若嗣行。敬述廉能之教兮、洵吾民所祷祀而馨香。

孔桂生先生行述

桐林当玉环东北，与吾邑为接壤。余比岁往来其间，人之称桂生先生者，夥颐难数，则皆平日所师尊之者也。去春编校玉邑志书，则於兴学、积谷、团防、水利诸要务，凡隶桐林者，又莫不有先生之名为焉。盖孔为温玉间著姓，尊甫敷五公策駟鲁宫，已卓然为乡翘楚。敷五公既捐馆先生甫及成人，然已积学能文试有声矣。乡里之童有造者，争来请业先生。时家适中落，设馆里门、读书而兼以治生。不十年而躬已游冀。不二十年先业亦因而复恢同产。弟三人，先后为之娶妇，比分箸时，田三十亩。盍目为亢宗，令子性，孝谨於敷五公命，罔勿从公。有弟而无禄妇某氏，三十而寡、有子二人，若乌雏之待哺，公垂危颇以为忧，先生辄引为已任，事叔母如其母，视从昆弟如其昆弟以养，以长莫不使之各有室家，以是为族里所交推。宰是邑者，亦因为器重之，地方公益事，人所不能举者，必以属之先生，亦慨然不辞。如捐义仓、浚塘河、设桐林小学，既量力乐输，且从而纪理之，成则退，然不居其功。尝慨世教之微，则思奖励风节，贵德尚义，以为之劝，故旌表节烈为之镌碑，及建路亭、设医局，为人谋福利者不一而足。纂修宗谱，亦必以此数者为斤斤。自奉俭嗇，布衣疏食，若将终身而於祠墓之祭，必丰必洁。曾祖以下各置祀田，有余则以贍其宗焉。当敷五公之未有窀穸也，课读之暇，颇留意於葬。经及杨赖家言，

以卜阴阳宅兆、休咎毕应，亲故者招之，虽仆仆不厌也。苟非其人，则不能以利动。今则先生虽往而人之思之也。不置其家，人则颂再造之功。而曰：先生操家数十年，为吾辈珠积雨，曾不以一钱自利，何其难也。族人由曰：苟非先生血食，何以不坠贫，无依者复何所告，诉而今已矣。乡里之贤且能者、以无与共事功：后秀者以无为教其不能自存欲。作小贸易而不得者，以无为赈贷、而不计期偿。则又相与唏嘘，而太息也。先生读书务明大义，而以立品为首重，做从之游者虽至采泮芹，食廩粟、或从业而他，醇谨皆如其师，非其教使然欲。桐林山夷而旷，水秀而深多尚义士，先生年德又为之先。以今观其所为周礼所云：“孝友睦姻，任恤庶几”。近之司徒之教人，久废不行。尚得於荒江远海间、存其万一。不忍其湮没，不彰无以劝其后也，故述其行谊如此。先生讳昭恭、桂生盖其号云。

紫封林君家传

玉环旧为州，辖仑者八，桐林其一也。前十数稔，余受州同知骆君楸勋聘，司玉海中学教事，往来其问。见有崇祠崛起金碧焕，问之则曰：“林君所以祀其先者”。时科举初罢，二三庠宿语及试事、金谓：“自君倡捐宾兴田亩，学款大集。督学使者以闻益州学生员额二，而士之赴浙闱者，亦奋而加多”。余窃

心焉仪之访诸其庐，则已为陈人矣，为之慨然。今岁吾友姜君绍淇抵书述乡里意，并介其事状、征余一言。余虽未识君，君之所为，已窥其一二矣。状称：“君兼承其伯父宣三公祀后，既有子辄命其长者为之后，州之八仓，盖沿有宋朱子社仓，积谷便民救荒之善政也。”自弱岁已知大义，捐谷若干於桐林。桐林人赖之，此后宣三公箴室干氏者，席家余裕好施。过於君、每遇乡里公义事，斥巨资不少，靳君益怱怱之，遂以时扃建林氏宗祠计费三千金，营治甫竣。复思推恩州里，输田三十亩於官，以为宾兴。俛俾宣三公夫妇之美昭於族，洽於乡，而不思自肥其私橐，则宣三公夫妇之惠，皆君之惠也。呜呼以君之乐善如此。使得究其所为，则乡里公益事靡不举，有举以为之倡，人之闻风而起者，当益众矣。玉环地滨山海，风尚敦朴，士夫之崇气谊脩名行者，时有所闻。君岂薰陶其俗，而然欲抑其天稟之厚，行心所安，而羞自封殖者欲。逾壮二岁而卒，论者惜之。君卒时、妻王氏年甫二十有八，守志养姑以孝，谨闻教养其子，亦循循有法度。其贞淑之风，俭朴之化足以承先而启后者。自其乡人言皆若君德之，所致家以日起也。今王氏亦谢世，诸子成室，已有女孙三人，住屋十余楹，君在时所构也。规模宏敞，称其志气。慨自世衰俗薄，家务自营、惠民兴士诸要政、封圻大吏奉为故事，甚且乾没其有焉。士之饶於财者，日营营於妻子室家，交游徵逐使金如糞土，欲出其余以沾溉族，尚常诚不

易、易君以氓庶而忧，为之是宜书以为世勛。君讳圣诏、字紫封。子二人、曰才森、论详。才森即以君命出后其伯祖者。

赞曰：蹶而寿渊路殊，天事冥冥难卒晓。积而能散斯足道，后其宗岂怀其宝。刑于寡妻赋偕老，赛姑教子功匪少。宜书之彤树之表，夫义妇贞此可考。

旭标张老寿翁行述

士君子屏居乡里，闻已善则疑，闻人善则信。信则从而纪载之、表襮之，此能文者之天职也。顾豪家巨绅挟其财力以雄视当世、故畏。而有所求者，每口口缘饰以为趋奉。一喜一忧内征外赠，动累千言。而洁身寡过之人，诿以财物而不苟与人，藹然而可亲，反以不自矜炫，遂隐不彰者岂少也哉。旭标张翁邑西之大溪乡人，谈者不甚悉其家世，或谓先人有读书成名者，盖亦儒裔也。自幼粗通文墨，明习书算，尤善料量大宗。水洋富室金氏，设泰亨质库於温岭镇，聘主架档者，积四十年、无丝毫过失。从操是业者遂实繁有徒至今皆师事之。如口口口口口口者其尤亲切者也。今岁之冬，以翁之既往也。思之不置，因余所识彭君，请文以存其师，辞以不暇，则又谋之舞台妻弟新蒋君。余以其识乐吾文，且有得於弟子事师之道故，故难已於言也夫。巫医星卜，百工术业，莫不有师，得师之术、业以

营衣食，其视圣贤之教，道义之切身者，固有问矣。而学士大夫，乃反以相师为耻。昌黎韩氏尝慨乎言之，以是为世道之大变。今翁之职业名誉，无异常人家，亦仅足以自食，无财势以奔走天下，人亦无从而缘饰之而为之，徒辈者乃恋恋於其师。若是之挚，知翁必有予人，以不忍忘者矣。窃念元明以来，大江以南竞为华侈，男女婚嫁必为锦障，求当世知名士为之文，以自夸耀於乡里，家稍号富厚者，年逾六十或十年五年，必有祝寿之文。方望溪归震川诸巨公屡诋之，辞之不能则书，其家世事实与子之所以事亲，弟子之所以事师，及朋友往来情愫之相与者，以归之翁。在时年已望八。有子成荣，日球、日秀、日坤，均已娶妻生子，有孙男六人、女二亦已适人。躬为富室司出纳。苟欲文以自荣，得具肴酒资旌门表庐无不可者，否则於男女婚嫁之时，因其主人请文於所交往偶一为之，人亦不以为非也。翁独黜华崇实，不以此为亟亟，而勤修其职，以为同事倡，非所谓食焉，而不解其事者乎，此翁之贤也。今翁往矣，而从操是业者，犹恋恋不忘，非其自奉约，而待人周乎。翁与余固不相识，彭君之述翁也，言尚不繁，而道其致思於翁者，情若独挚。因慨世道之衰，师弟子之情，犹为易薄、事急而求人，而屈身下礼，若犹知有师者，及时过境迁，谁能久而不忘者乎。故感而书此，知古今升降之故，细人犹不若君子之甚也。

履庭陈先生家传

先生讳廷谟，号曰履庭，世为楼岙陈氏庠生雅济公适嗣也。幼失怙恃与弟吉庭、谦庭并鞠於继节母戴太恭人先生。稍长上承色笑下切友，于内外无间，言尤善得太恭人心。事无钜细必谘而后行。席先世丰厚之馀产业增殖，然力戒培克，尤能节所有以惠其乡，故一乡称善士焉。生平啬於自奉，而待物必从其厚。授两弟室，遗妹出阁，未尝稍拂其意。盖其天性敦笃，有过人者。清光绪季年，尝以州倅听鼓皖省，方谓本其仁恕之施造福斯民者，将未有艾。乃以朝政纷更不可有为。而仲弟吉庭又瘁於国事以亡也。慨然辞职，回籍以兴办地方公益为已任。宣统二年，被选为省议会第一届议员，中华佛教会分会会长，浙江水利议事会议员，立法会议议员。自海禁大开，国体更新。国民之学识材智，恒别开一治，非謏闻咫尺之士，所能维持世局也。故先生既代表民意，犹欲推廓耳目，以应当世之急。民国三年，毕业於沪上民国大学，於世界法律政治，多所研究。去岁遂应浙江省公署谘议之聘，旋兼实业厅谘议，中国全国道路建设协会浙江分会会员，浙江省道局谘议。十余年来舟輿跋涉不敢告劳，而於地方公义各举尤为留意。宣统三年淫雨为灾，东北两乡，水及半扉，田禾淹没，民艰於粒食者，不可数计。先生愍之既设粥厂於里之楼岙堂，以时救济。又於庄内贫乏者，不问壮少人给小银币五枚，俾贩薯丝以资生活，人无道殣，先

生为之大慰。光復军之起也，群不逞乘机窃发，一夕数惊。先生募勇设团，时其巡护，一乡赖以安谧。入民国后，知事严伟改编保卫团，仍以先生董其事。迨省会回复先生，将赴召力，辞斯职，严知事以历届成绩固留不得。始以先生季弟谦庭续代，颂其功者至今不绝。陈氏有祠以祀其先者旧矣，今岁六月風水交作，与住屋并毁，先生亟图修复。曰：“君子将营宫室寝庙为先”，其知所轻重缓急，类如此。他若勅办僧民小学於崇国寺，濬河道理宾兴为之，各称其职。太恭人之以长以教者，今既以节孝旌於朝，哲嗣土雄游学杭垣，毕业法政专校有年，现亦被选为本届省议会议员，兼省公署谘议。一门之内父子兄弟先后并登议职，家声袞袞。孰非先生之识时观变实，有以开之，况其内行之纯笃，又足以为之本此身名。所以俱泰也。今先生虽归道山，乡里亲故之不忍於先生者，无改於其旧也，相与牘状请文以传。先生伟躯干丰下，广颡浑厚之气，溢於眉宇。余司教事於中校时昔，昔见之比长鹤鸣校，以事至其家，见其兄弟怡然妯娌雍然下至婢仆厮养莫不秩然，一稟其命。於太恭人公私井井，孰非先生之事身率下，有以致之也。因略为詮次如右。论曰：人必不遗其亲，而后能推以及於邻里。党族又必自卫其乡土，而后能推以及於国。晚近世土习风趋於偷薄，一二虎而冠者，方断断然自以为能。曾几何时，讥讪笑侮之声，接踵而至。先生虽出人縉绅间，而澄之不清，挠之不浊，其行能不失

为长厚君子。闻誉日隆，子弟之克世其家，岂不宜哉。

陈君苏舫事略

岁冬馆课休暇，授儿子以孝经。而陈君沛之以谱成请书，其尊人苏舫左丞事阅来状，知君长於吏治，在官六年。有能名，以母老乞休免官。余曰：是宜书。是王者孝治天下之意至德要道之，不可易者也。按左丞邑诸生，讳诗，原名式东，苏舫其号也，世为邑中乡谷岙庄人。父企白先生，始迁西城。左丞生而颖异、年甫弱冠，读书游庠，三试浙闈，皆报罢。乃纳贖报效粤营得五品顶戴，旋遵新海防例报捐巡检，指分江西。到省迭奉各大宪差遣动称其职，既奉部核捧檄之格高任。以父企白先生自幼弃养，迎母事之靡署。后以母老其且衰，乞解组回籍终养。回籍踰年卒。疾危惟以不终事母为恨。呜呼地义天经之大，左丞庶几闻之。余亦幸於左丞见之也。丞维不获掇巍科登高第，而诗书之气，尚隐然於出处进退之间，视彼重富贵而轻去其亲者贤不肖何如耶。状称左丞任格高，时建昌知府何刚德以争递询地方情形，左丞条举十余事以对。深蒙嘉奖。赣省滨江盜賊充斥，保甲尤为重要，而经费支出，当事者类多敷衍。左丞言之上台，岁加银若干，事以举同官亦受其利，得才如此。充其所至，宰一邑守一郡，无异格高也。然余重於左丞者，则

不以才，而以德。夫官箴之不肃久矣。趋意旨竞便利，媚上台以饱官囊者，所在而有。至问其於民何如，恐无以对也。进而问其於亲何如，必更无以对也。左丞居乡以才名，在官以能著，人人能言之。使余从而张大之，恐非有才本色，无所重於吾文也。故不赘。丞娶郑氏早卒，续娶王氏生天权，赵氏生天照，皆读书能文章。天照有母弟、天尧幼殇均不著。丞之不忍於其亲者，虽不得於其身，将得於其子孙。故书其事以归之。从养格高者，企白先生。配太儒人也。

金君锡麟家传

君讳自光，字曰锡麟，姓金氏，清邑庠生钦加连同衔晋封奉政大夫聘三先生之家嗣也。自幼敏颖，勤於学业，不涉外务，好学书。书法酷摹颜柳墨迹，所留见者争相宝贵。年十九入邑庠，为奉政公所钟爱。而君亦孝於事亲，与弟德卿尤相友爱。奉政公以绅富而乐善好义，故邑公要事咸与焉。垂老犹仆仆不已，君见而忧之。然每日必焚香默祷，以迫於公义卒，无术以少纾其劳。已而奉政公疾，君待汤药，必躬必亲，衣不解带者数旬。既不获效，则於灶君前请减已算以益之，亦卒不应。奉政公之疾日增，而君之忧日甚，比奉政公卒，君已哀毁骨立矣。顾犹力疾与弟奉终大事，见者已为深虑，乃遂以此逝。距奉政

公捐馆舍甫七日耳，夫过哀灭性，虽言礼者，所不取。而知有亲而不知有己，其天性之过人，诚有不可泯者。性乐善，有贫乏而来告者，必倾囊予之。君祖二风公在日尝捐田三百亩创立义仓，以济其族。君以异姓者之不获沾其惠也，尝引为私憾。及疾垂危，乃呼弟德卿之榻前，谓之曰：“推广义仓此吾志也，而今已矣责在吾弟。”言之声泪俱下，其好善有诚，至今犹称之。后德卿君亦善承兄志，割腴田二十亩以益之。自是每遇凶岁、无异姓，皆受其赐。事难成於其弟，安在非重君之未命而然哉。君配阮孺人丈夫子三长，宗彝年未弱冠而卒。次凯邑庠生。三澹亦读书能自树立乐善好义，皆足以缙承其先绪。而君为不残矣。今其嗣君凯等，以君葬有日，请余传其大略，以垂之家乘。余嘉君之笃於其亲也，且能继绳先美，发挥而光大之。故既为依状詮次，并私论之曰：国家设科取士，将以兴廉举孝。君善予不取，事亲忘身庶几古人之所为，又能扩充先美、至而不忘。呜呼！如君者使天假之年，渠所成就，必更有足观者，赉志终，岂不惜哉。

王湘帆先生家传

先生姓王氏，讳某某，号曰湘帆，吾友林君敏叔之外舅也。自幼敦笃，出就外传、归必面其母。稍长通习经史工帖，括年

二十邑庠。居家循循於子道，人皆称之。生母陈孺人蚤卒，继母郭孺人中岁丧，明先生事之如其母。兄弟姊妹凡五人，皆视如同体，未尝以异母故而稍存畛域。姊适人有子而寡，恃手指为生活，故常不继先生即分润之。比甥能读，辄择师使事焉。束脩膏火皆先生所欣助，姑母贫而守寡，莫为之后者，先生请之官而继嗣。始定中表之不能自养者，每届岁终必周以钱米。诸如此类，不可胜数。非有得於亲之道者，不能。盖於读书求志之日已早然异矣。迨既游庠，益肆力於学。又十余年，遂补博士弟子，一时文名噪。甚欲作养其子弟者，争相延致门下士，蔚然称盛。先生亦莫不口讲指授，俾得其益，以去年甫四十而卒，闻者惜之。方洪杨军之起也，地方秩序大乱。先生挈所亲五家居乡避寇，而躬往来城中，以侦察情势。时邑人招集土团防守甚密，先生途遇一人同行至城。团兵以其形迹可疑，惧为敌侦。将行刑、先生力为解救，不得至以身覆其背而始免。其慷慨仗义，至今照人耳目。使天假之年，俾展其学，则自亲亲而仁民，自仁民而爱物，皆吾儒分内事。乃甫登彊仕遽赴修文、先生所施之家乡者，不获措之天下，岂独先生之不幸哉。然先生能文章，勤行谊。不能得之於其身者，或得之於子若孙。天之报施先生者，当自有在矣。配杜氏孺人，有贤声。子二人、长某某邑庠生。次某某读书能文。女几人，长适某某，次适邑稟生林达即敏叔，三适某氏，婚嫁一遵父命，其笃於事亲者，

亦於此可见。今已有孙男四。家人将为先生行葬礼门下哀之请文以传。余虽不获见先生，而获与先生之甥交，得悉先生之家世，不容以下交辞也。故书而归之，存先生於万一云。

寿翁成规朱先生传

朱生训旧从吾友林君仲岩游，时余与仲岩社文于梅花禅院，以是并识余。今岁其宗有事於谱牒，生以状来请书王父成规翁事。余生也晚，不及见翁。以朱生言知翁固卓有可传也。生之言曰：吾家自高曾以来，皆力耕以自给，比吾祖生家已少克裕。故自幼从师读，略知大义。后以曾王父老且衰遂辍业，而耕勤作息以供事畜。逍遥於南亩间，甚自得也。然性方梗，遇不平事，辄以身任，虽处嫌怨，而不避。论者恒比之王彦方，以故乡里鼠雀之争，咸赴愬焉。吾祖悉曲直之，无不唯命是听。近居有溪塘六十余丈，夏秋山潮暴至，屋舍田庐受其冲齧者不可胜计，乡人恒引为巨患。每发吾祖辄鸠合人众，不时补筑，计工毋虑千数，未尝不躬任奔走，督成厥功。至今尤艳称之。吾宗谱牒前修於同治丙寅，吾祖以编纂之事，非其所长，请任其能者，於是在局支应、日夕不懈。其有待於传达者，辄趋赴。恐后朱氏户散而多窘。开局数月，而赏犹未集，吾祖量力措垫，工赖以竣。五十年来宗人言及谱事，必归功於吾祖。尤可叹者，

吾家不造二十余年之间，吾祖以一身而两遭回禄。室庐荡然，吾祖经营缔造。屡仆屡起，得以恢复归观，且加美焉。当此焚如弃如之时，不如费几许心血，而吾辈始得坐享其成。此闻之吾父所极不忘者也。生言如此知翁虽一农丈人，而於家於族於乡，皆有足多者，不可令其湮没，而不彰也。翁讳再圆，成规其字。配郑氏孺人，恭温淑慎见推於戚里。有子二，长孔怀，次生父，孔沛也。女六人。孔怀生时翁年四十有二，又四十年而卒。其间治家教子以身为范，莫不油然而化。诸孙稍长，即为遴选师传。故生亦翹然负文名。翁之将卒也，躬起沐浴，冠带既竟，奄然而逝，闻者称异。今则男女三十余人，耕织成风，一门济济，为乡僻所罕有。盖翁之积善成德，实有以貽之也。故徇朱生之请，书其梗概如此。以见朱氏之蒸蒸日上者，其来有自。

王烈女传

烈女氏王，温岭镇农家女也。父某某卒，鞠於母某氏。自幼姿韻秀朗，举止端详，翹然异於众。兄某以居近市，设肆作小经纪，家不能容冗食，女从母供汜洒爨汲，暇则躬绩养母，戚里贤之。年将及笄，钗荆裙布宛然大家風范。自受同里某氏聘，益自晦藏。邻人戴阿三，为天主堂服厨役，偶见而艳之，

包藏祸心，时从女兄作买卖，已为女所觉。以时为虎之俦者，势可炙手热。私言之母云：“当以死拒。”而以兄选懦，不敢令兄知也。一日女母兄適他出。阿三侦得之私往挑焉。女方扫地，讫置扱箕於门侧，阿三突掩入。女惧掷帚奔避，帚中阿三背，见者哗然。阿三鞅鞅归，老羞成怒。思女终不可犯，大言以恫喝之。其兄惧甚，浼人为缓颊。拟设席待罪。阿三必得女行酒而后已，女闻之哭不食者数日。而母知女不肯仞思以死塞责，遂市生鸦片服，尽而卧。女见其器取而服其余。邻右觉而灌之，母甦，而女不起时，光绪口口年口月口日也。事闻邑令左宜之逮捕阿三。据实通详。故女得奉钦旌，阿三旋论罪死。为之集资建坊。徵文者，里人金嗣献也。

论曰：自西教东渐，明季已设堂京师。依附者多毒，庸中土久而益熾。方其势焰赫烜，士夫望而靡者，夥頤难数。以一女子而执义守礼，至死不变烈矣。然女生长农家，不繇学问。而得乔木死麤之志，其烈也，非其天性使然哉！

节孝金母阮宜人家传

宜人阮氏者，清广东候补道、历任灵山文昌知县、萃恩公次女也。生而淑慎娴习姆教。年未及笄归同邑郡庠生金君锡麟为室。瑟琴静好，能事尊嫜，和妯娌为族。尚所称性尤慈善。

丐者至门，必多给以食物，雨则施箬帽，寒则施衣絮，昏夜则施灯烛。贫乏来告者，无不各给其求，如是者岁。以为常翁连同公之疾也。与夫锡麟君左右侍，衣不解带者数旬。翁卒锡麟君以哀毁成剧疾，宜人悲泣，吁天割臂肉和药，冀可获效。以不及事而逝。宜人年仅二十有八。捐弃簪珥誓以身殉。时长子宗彝生甫十龄，次子凯甫五龄，三子澹尚娠身未娩。姑蔡淑人晓以大义，曰幼孤纍纍吾又衰迈。尔信死如生者何。宜人闻命节哀强起。然其志不欲生也，从徒以上事下育，责无旁贷，苟延残喘而已。越数岁姑亦遗疾，医药罔效。宜人复刲左股以进。以为向不能得之於夫者，今或可得之於姑，已而病果若失。事闻乡里益称其孝。然终以痛念其夫，此心之幽忧者，未尝一日息。遂以是成劳瘵疾而终。年盖三十有四。有司以其节而且孝、足以风世励俗，详请题褒，曾经照章给额，足为身后之荣矣。今其嗣君凯等以宜人卜葬有期，请书其懿节，以光泉壤。余思女教中落，讲书明义者，恒不多观，宜人生阙阅之家，稟懿淑之性遭家多故。舅与夫先后代谢，日与迈姑抚睹幼少，形影相吊，曾几何时。姑又攫疾将何术以延之，以慰夫於九地，智尽能索乃一再取偿於一身之血肉其与以遗体行殆者，固已有间或愈或不愈，虽若其命使然，而宜人殉义忘生，已可於此而见其一班矣。因书所闻於其后者，归之其家俾其风烈，得以垂於世焉。

苦节吴潘氏传

孺人邑坞根庄农家女也，自幼勤慎适同里吴某为室。夫好撙节不治家人生产，氏劝之不听，数年倾耗殆尽。遗子女各一，而逝时氏年甫二十有八。遗突破儻然无所恃，以生活人，皆为孺人然。孺人则曰：“有吾在毋虑也。”忍涕治丧毕，輒慨然筹所以恢复者，自是出把犁耨，入操井臼，终岁拮据，手指无少休息，不足则灯火纺织以弥之，如是者十余年。家以少有以子某稍长，将娶妇谓之曰：僦居邻屋徒蚀其税，租非计也。乃出所蓄，购基地，创茅房数楹。工方兴，卜宅者过之，曰：向方不吉，害将在邻，隣惧甚。氏闻之谓：匠者曰：“更之”。吾不忍以利己者损人也。人以是贤之，其处里党，和而有体、类如此。性嗜佛，自夫亡后，矢志长斋。至此以家稍裕暇，即从忧婆夷游孟兰会，在不亡求福田利益，凡人所不能为，而已的得为者，辄任之而不辞。以是为持修者所推，使主管桃源洞。洞当山僻幽寂异常，故女子之好修聚焉。前数岁土寇四出，以其地少居人，将攫其所有。至则夜已半，闻氏唸佛声喃喃不绝，心已惶怯。既而闻人声甚众，若有备，然贼益惧舍而之。他闻者皆以为事佛之报，吾则以为氏之精神志气有感之也。方氏丧夫时，子女提抱家无一瓦之覆，一垄之植，而能卓然自信者，恃有此志而已其间以长以教。至於成室，且为置田宅，使后人衣食，业其劬劳於家者可知。又能止足不贪，好行其德故，

益足取信於乡里。今已年越六秩。知其贤者录其行实，请之有司得蒙旌表。如氏者固不负其初志矣。故书以存之。以为女子不幸，而失所天者劝。

金母蔡淑人传

淑人氏蔡，系出黄邑平桥庠宿维地公女。前台湾守府连同銜金聘三先生配也。年十九俟於金辄，能相其夫子戚里贤之。聘三先生雅好善名，义所在施与不少靳未尝以人我为畛域，故虽远若山西彭湖，苟遇旱潦，必斥金粟为赈济。而地方公义各举无论矣。淑人自归先生，每事辄怂恿之。聘三先生以是益肆其所为，而声名倾邑里。前翰林庶常葛逸仙寿以文，未尝不喜其得贤内助也。淑人性慈和幽静寡言能事，其舅姑睦其妯娌。聘三先生有侧室淑人，尤善遇之，抱衾裯者无虚夕。臧获婢妾虽有过，婉言示戒，未尝予人以难受。平时足不出房闼。而子若女不肃而严，不教而成。非生长诗礼之家，有以造淑其德者，能如是乎。其尤难者轻货财好施，与足以辅聘三先生之志，而翼之成者，不可以一二数。聘三先生好为其远且大，而淑人则於其迹，而易遗微而易忽者，补苴而弥缝之。尝割奩资所积田三十亩，以充宗文书院经费。羊角洞岭峻难行，往来苦之，淑人出资填砌凡百余级。他如寒冬衣被之施灾荒钱米之贷，以及

行旅之茶汤，昏夜之灯烛。道殣之棺欵，雨天之箬笠，好行其德时有所闻。尝谓：“家际富有，而不急人之急，贫者将何所贷乎。”语近情真，求之煦须眉，男子往往难之。淑人所以不失为士人女也。聘二先生既捐馆凡可踵成其志者，无不竭力遵行。其大而不能举者，则命两子继承之。如水利善后田亩及议仑义塚是也。聘三先生当自有传，兹不赘。晚岁，委家政於子，妇独居蔬食，不以清苦为嫌，然不与僧尼通来往，闺门之内斩斩如朝廷。虽仆夫婢妇、行不相值，盖聘三先生之教然也。卒五十有九。子二，长自光，附贡生。次清华，福建候补知县并援例得同知衔。淑人卒时已有孙男口人、女二。长适下陈黄焕伯，次适其弟敏叔，皆东山先生孙也。尝谓：“妒忌者女子之常，吝嗇者妇人之习。”女教不讲，全国横流，莫可止遏。故能矫二者，而剂之平已。不愧为贤妇淑人。乃轩出女界，以为所得、为而动不失为厚。是以逮下，则有葛覃樛木之风。惠物则有麟趾騶虞之意，二南美文王教化所有，而诗人所詠，必归本於后妃夫人，理固然也。今其喆孙起凡茂才、以宗谱成持状请文。余恨不见聘三先生。至其疏财仗义，妇孺皆能言之。兹又获知淑人之贤，足以相其夫者。故乐疏其阃德，以为妇人法。并为世之积财，而不能散者风焉。赞曰：夫妇之道，义在倡随柔顺在中卓然母仪。不吝厥施，乃啓尔基。令闻令望，终始罔渝。坤道承乾，其殆庶几。

少逸老本传

少林一宗，以僧侣而精拳术也。僧侣称所师、曰本师，质言曰老本，故拳师亦称老本。邑西乡有少逸老，陈其姓。自幼善拳仗，不知其所师。年踰六十，犹好与诸少年角力，无负者，知世少其敌。则命取巨槌，直捷而至，已鼓小腹。受之稍怯者，辄反跌以为笑。老本之呼盖始此。然未尝尚力以陵人也。兄某尝从先君子学，后弃而丐。少逸一见辄能出辄为诸钁者首。为所知作灶、用薪少，而火烈，烟不外飏。数年而垩者如亲燃，非大工程，人所束手者，招不至。至则必就上席坐，掀髯纵饮旁若无人。尝领诸匠作教室於某巨镇，堂成征书门额，鲜称主人意。少逸则取竹箴为不律，累巨桌而升。信而书之，掷笔下，多士惊拜下风。余以十龄识少逸、后不相见者四十年。闻善操钁，以其家世所习，未之奇也。久之，则知其善拳仗，奇之。又久则知其善书画，更奇之。前数岁一见於玉环，则又能通杨赖诸贤之奥，为人卜葬地，动必有徵验。其地诸大姓之墓，多所扞定者，则尤奇之。因与同行半日指示山水气势脉理，皆别出手眼。途遇一牌坊，上有石梁，震於雷，两端破裂，余无恙。余方思其故，而不得。少逸曰是内有铁为楔子。故就视果然。诸所颖悟，类如此。欲图其作灶法、及其分寸。为书以传。不几时而少逸死矣。少逸有子女各一，女适某氏方成室，则邀父主其事，室成登楼省视，笑而失足，墮地而坐，须臾復起，言

动如常无大痛楚，竟於是夕溘然而逝。人皆以为得大解脱云。《内典》：成佛道者，能通所未通，所谓正觉者是也。析言之，则有自通他通，天眼通、天耳通之类。少逸之不学而能其精巧，且非学所能，及安在其非得之天者。释氏之能拳勇，所在多有或以干纪事为奸宄。余非所乐道而善书，则若怀素；善堪舆，则若一行。目讲少逸之夙慧，其根於此。欲抑其前身，或怨少林者之所为晦，而能养如舍利放光，能照见一切欲。

花 隐 传

有山人焉，居东之大荒，不详其姓字，或曰汴宋裔也。伯前面氏之兴。其先埋没，氏族流离，蓬颗者垂百年。明清两世，始稍稍复出，为郡县诸生，至其身累十余叶矣。其居自乡而城，旋又舍城而山，择其土之瘠者蓺焉。其生也於山，故性绝疎野，酷嗜花。所居多石少水，他植不蕃惟，梅为宜。岁种其一二、遂因以为号焉。好读书，然泛览无涯涘，不屑於章句。稍长游庠序间，及观图家所以试士法，率皆教非所习，而学非所用，心窃憾之。乃反之於古求其宜，於作养子弟及可措为治者，综而笔之，日恒数十纸。会朝政改革、废八股、试士以策论。始以一售以时。游中州、历大河南北、旋又溯江汉、而上以至都。南下循海、而抵闽峤。以母老归省、踰岁武昌事起，遂不复出，授徒花山。花山者，明九君子林原缙、程完等，结社种梅处也。今已鞠为榛莽，山人乐之。每值愁病交攻，徜徉其中，廓然若

失。故非远游，輒与此山伍，晨夕一卷，甚自得也。聚徒讲学之余，征引古籍作《原生篇》以发人道、佐以《三解惑论》，为学本末略具於此。既隐於花遂说以号。於人或曰：“世之所争趋者，名於朝、利於市，子何郁郁久居此也。”则笑而谢之。或又曰：“子信以花自乐乎！曷益蒔众卉、使与名称。”则又笑谢之。暇则纘述古书，及先世所遗者。旁及医药卜筮、种树、养生、凡十余种。人疑其博，而寡要。则曰：“余无善及人，此人生日用所必有。往往为术者误、故略为条正。以质其疑，而观其通。隐者之所为，固如是也。”晚乃一意於经子、病筭疏之纠纷。圣人之微言大义，寔以失其真也。诸儒之言立体也，本以达用，或不知用而并遗其体。乃稍撰述秦汉以上书，兼採宋明以来儒先之学说，足以羽翼斯道者。既而废然，曰：“以身教者从，以方教者讼。”返而息心冥坐，邵尧夫先生所谓：“数点梅花天地心者。”恍若遇之益觉前此之紕繆，从而引绳焉。山人少慧，以病故，遂善忘。弱岁梦一道者，授以丹篆，携入一室，饮以物清冽芳美，略似花露，遂能於静坐卧寝，知未来事。其所为文，凡数万言，诗数百篇，皆随手肆应，不自贵惜也。读书五十年，居花山者将十年。每当阳月之杪，南枝先放，则举酒相属，谓此吾所从生也。輒孜孜以喜，后不知所终云。

野史氏曰：梅得气之先，其花五出，天地之中数也。然芳馥而不污，洁清而不媚，故不周於用，山人慕之。虽学务博综，

而能见诸施行者盖鲜，或於乡里偶一为之，少不合輒拂然以去。岂如庄生所云：“以无用，为大用欤。”抑其身之察，察不能受物之汶汶欤。

卷五 寿言輓词

狄桂舟先生寿言

吾邑立城最晚，而一切公共事业，不后於他处者。以朱罗诸先哲之振作於前，刘吴两守令之賡绩於后。而邑之二三父老，亦能左右其间。故自乾嘉以迄咸同，百废具举，有创建城乡各公学者焉；有鸠集乡会试宾兴、及鹤鸣、宗文两书院田亩者焉；以及崇圣旌忠、济贫养老，莫不各有其具。而在事诸公，亦大半躬登寿考洵乎功名事业、之与福泽相副也。今岁九月某日，为今候补省会议员桂舟先生览揆之辰。知先生者，将相率称庆於其家。辞不果。时会稽道尹黄涵之先生方实行民国褒扬條例，凡年在八十以上，生平能提倡公益事宜者，札县调查，同时被旌者数人。而先生尤以倡捐多金，当得特别奖励。乡里闻而益荣之，谋釀金以寿者不一地，先生却之，不能也，则买舟来城征文。於所能者，吾师叶孝廉松斋。既序之，又访余於馆，次日：“吾今年八十矣，戚里争寿，余子能文余乎。”余曰：“文之奈何？”先生曰：“亦言吾所欲言而已。”自惟壮岁以来，与明经金鸣九辈奔走。从公如水利、闸工、及团防志书各局，动用金钱数万、役工数千，而始以成。次如修城、浚河、平耀、赈灾，亦屡糜巨金。他若委建松门騷潮沙路、及大桥一座，公砌

泽国石路数十里，虽亦募捐大姓至不得已往往取怀。而予今皆得列表详报。夙所置之无何有者，一旦震褫於当道，可无俟为文者之辂缕也。吾之差可以告人者，师事而已。吾家初仅中人，弟及兄子皆治儒业，吾父以不能容冗食，年甫弱冠，命徒而耕者数岁矣，顾此心恒恋恋。暇輒挑鐙展卷及陈师莘农馆比舍。每挟册私相问、师以为贤言之父，始得复业。吾之不弃於士林，师实玉之成也。故所以事之者惟恐不至。师游学杭垣负笈以从膏奖，所入倾囊与共。吾之学以成，而师亦以有田宅贖，疾则待之以归，医药之间，衣不解带至终其身而后已。余闻而义之，恨生也晚。先生壮年所施之乡邑者，不能究知其详。比余司中学教事，则先生已週甲，尚能锐意兴学，充劝学所董事，凡五年。知县彭循尧提学袁嘉谷交相嘉许。既改设横湖官学为中学矣，又增设东城蒙学，改宗文义塾为高等小学。每大朝会、官绅咸集、先生至则一座为之动容。意以为是则是之，意以为非则非之，不少囁嚅。故虽宰是邑者，亦引重焉。盖其慧直之性，有过人者，余见而益壮之。邑之有宾兴及鹤鸣膏火田亩也，以经理失人颇形废弛。先生则与赵绅雲崧、郭绅襟江，出而整顿之，数年之间颇有余。羨余长鹤鸣高小校时，以两廊斋舍湫隘，就倾力谋改作。先生及各董亦慨然诺，遂得藉手以成楼房十楹。亦可见先生，热心公益之一班。文以寿之，又乌能已独念。吾邑近岁以来，群治不举，迴视十数年前，已不可及。推而益上，

至於乾嘉以后，咸同以前，其所建树之重大，至今已若景星。庆云以先生之提倡公益，而获旌。则人务自营者，当知所劝。以先生之输金於公，而获寿。则假公济私者，当知所惧。况能仅在三如一之义。而少年浮薄，背本忘师者，当知所法而懲焉。故以闻见於先生者，书之以侑一觴。先生能诗文，尤工於书，复业数年，游庠补增，旋得选用训导。其他行谊叶序已详，兹不赘。

寿月洲林先生七十开一序

今将建设亿万年，庄严之中国。恃有普通之国民，尤恃有稳健之公民。公民者国家之所寄託，而地方之表率也。稳则办、若讷智、若愚民之选任也。无所疑健，则守之固、赴之捷。所以董率斯民、爱养斯民者，靡所不力庶，一般人民，咸受其赐。而为公民者，亦躬被其休嘉，盖人已兼利之道。而寿身寿世，所由一致也。我国自民军起义以来，秩序粗复，萌蘖横生，地方自治机关尤为重要。月洲先生以老成硕望，连任为城区总董，遵办地方选举凡三度。就本区自治会附设施医局，医药之费半由先生饮助。其他所执行者，亦复不为苟难，不殖私利於稳健之道，养之有素矣。先生为故义乌县学教谕漱六先生子，出后其伯父朝议大夫香谱先生，自幼循循於人道。洪杨兵烽及邑境，

先生奉所后母王太淑人及诸姑避地海堧，颠沛流离，事养未尝少缺。初漱六先生尝与诸从昆弟，筹建小宗祠於邑鹤渚门外。因难不果。乱事救平，先生力承先志，督促宗人集款鳩工，期於成而后已，高曾而下皆有栖神之所。先生之黽勉於家族者、已知此。林故邑右族，自口口先生以来，世有名德，且饶於财。故吾邑公善各举，恒赖以成立。鹤岑先生者，先生之叔父也。湘潭吴令宰太时，以县署湫隘，校士无馆不足以庄观瞻，锐意兴修。以鹤岑先生董其事、而命先生为之，贰不惮险，远浮海购材，成广厦数百楹，基构为六邑冠。先生以是得名，地方艰巨事，必公推先生，先生亦怡然受。水旱为灾仰食他省、先生则躬运米苏常者、凡两次。光绪十五年、西山蛟水陡发，冲城溃隄，民有沉灶产蛙之虑。郡守某公筹款建筑，遴先生董其事，数月而竣，至今人利赖之。由是平耀团防巡警各要政，先生莫不以身先。又以风气初开，童蒙艰於求学，倡办东西城小学二所，以为提倡。先生之致力於地方又如此。於是人民翕然交口诵，先生则好为讓善，无稍自矜。待人一意谦逊，虽贩夫小竖，无不能假以辞色。座客常满，必亲滌杯铛以进。以是与金鸣九、蒋偶山、郑笃生诸前辈，并董邑治数十年，未尝稍有齟齬。日由由与人皆贤者，无所议其失能者，无所忌其颀其健也。如乾之九三，惕厉而无间，其健而稳也。又如同人之六二、顺应而无方。余读老庄家言枢以运而不坏，舌以柔而常存，岂外是哉。

前岁南北统一数日，适为先生七十初度，茕等将相率跻堂介寿，而先生以时局仓皇，坚不肯。仞今，则正式总统既已选出，变事就平，先生亦矍铄胜前，扶觴称庆，此其时也。先生以前清甲午，由光祿寺署正加级得朝议大夫，因以貤贈其亲。配范淑人、柯淑人，皆贤。继配李淑人逮事王太淑人与范淑人俱以孝谨闻。子四人、长殿辉，国学生，出范淑人。次震遐，次翼遇，均邑庠生。次聘逵，游学东瀛早稻田大学，以理化专科毕业，俱出李淑人。淑人性整洁而勤於操家，衣食日用必躬自料量，澣濯缝纫日有常度，尤惠於待物，望之蔼然。其相先生以膺遐福，而受多祉。亦固其所。今已有孙男十人、孙女六人、曾孙男三人，一堂四代，近世希逢。盖由先生以稳健之精神，为地方筹公益，为社会薪治安，晏然享无事之福，民亦熙然免非事之扰。昔卫武公髦犹进德，其利国福民者，当更有加，方欲取南山天保之义，与先生相期於靡尽焉。余墨犹润，爰侑以歌。歌曰：共和肇造，硕膚喜起。天锡纯嘏、为邑巨子。甲子云週，週乃复始。俾尔寿考，俾尔昌炽。君子皆老，遐不岂弟。一歌未已，再歌用譖。衣冠济楚，子子孙孙。鞠踞舞蹈，房室生温。奉新军乐，祝古阳春。愿百岁而难老兮，覩烂漫之天真。

寿庭林先生七秩华诞纪念

余岁古历十月之二十七日，为邑茂材寿庭先生七十诞辰。长君文伯时江苏高等法院，先期假归，称觴里第。辽之北，蓟之东，大江之左右，莫不闻风庆祝，鸿篇巨制络绎而至，蔚为大观。亲故见而羨之。就谗於余曰：生日称庆，古虽无徵，明代已励行南省。故归震、川姚、惜抱诸前辈，明知之而不能尽却者。以寿居五福之先，而因时祝嘏，亦人子孝思所由展也。吾辈辱与文伯游、亲炙先生之光仪，安可无言以勛盛举。余既唯唯，而以艰於措辞，为握管踌躇者久之。则有作而曰：“请言其家世可乎。”中园林氏固右族也，清嘉道间富盛倾一邑。以急公好义，旌者数人。先生祖濂六公，以明经秉铎义乌、象山，劬於课士。士仰若泰斗，功德在人者，子孙宜食其报，先生之跻修龄膺多祉，或此之由。况子能致身通显者，必归功於其父。吾邑光复以来，法律人材济济，称盛而推论资望，必於文伯首屈一指。且能率属以俭，持法以平安，在非先生之教使然，天引其年，以收膝前之初养，亦理所时有也。余闻而色喜曰：“是足以寿先生矣。”昌黎氏所云：“美而彰，盛而传者，胥在是矣。”虽然犹有进，夫人能长生久视者，在德业之相承，尤在形神之相得。故老庄家言类以任达为教，乃能役物。而不能物役。先生秉心冲淡，读书游鬻以来。中吏兵燹，家境骤变。子嗣六人，次第长，食指之繁，未尝有所戚戚也。文伯甫人邑庠，而科举

已议停止。则令游学首善讲求世要，时局之殊，未尝有所汲汲也。暇日一编，有陶潜不求尽解之意。游蹤远届，有子猷乘兴而往之情。是以形以神守，神以道全，外来之穷通，得丧举不足以攬之。方文伯卒業京師大學法科，出為浙軍都督府編纂員，旋代局長，人喜其學之有用也，而先生置為偶然。及遷金華南昌地方審判廳長，京師、江西、江蘇高等審判廳庭長，東省特別區域高等審判廳檢察處主任、兼監所監督，人又喜其用不違學也。而先生視若適然。今則洊升江蘇高等法院庭長、六七年於茲矣。弟叔文亦供職檢察處，人更喜其處衝繁之地，居清要之官，專而且久也。而先生亦處之固然。每日處分家政畢，屏居一室，夷然曠然，不喜聞人是非事。有赴愬者，則以一方解其紛，貧困者周之，無吝容，亦無德色。性嗜茶，客至必手治杯鐙，相與雜坐，快談鄉里見聞，及甌滬閩門風景，笑容可掬，揆之道德。《南華》所云：與先生皆無心之契，致壽之道，於是乎在方。今南北大定、歲晚務閉，文伯亦以秋審告終，將行弛刑布德，順時休養，斯民先以一樽博堂上之歡，亦固其所於斯時也。姻戚沓來，笙鼓和奏，子若婦奉盤匱潔肴饌，率孫男女十餘輩，先後捧觴上壽。眾賓就席分曹，行令拇虞，聲喧於堂。先生顧而樂之，亦引觥大酌，此文伯兄弟所謂慰情萬一者，亦吾曹所侈為美談者也。先生行年七十，而視聽不衰，循是以往，先生之心日泰。文伯君之養日隆，其為壽亦何可量耶。故

攄举亲故称寿之言，及先生所以致寿者，以侑一觴期頤之祝。请俟诸异日。

瑞庭赵先生八秩大庆纪念

玉环诸山，为仙灵所窟宅居，是邦者故多繁祉老寿。征之郡邑志书登百岁者尚不乏人，其他杖国杖朝为余所目见者，亦以十数。若我瑞庭赵先生者尤以德业，性情彪炳一世，盖如祥麟威凤，不能数数观也。先生世居楚镇之外塘。生七龄而失怙，鞠於母口太孺人。以长以教，遂以起辰名，游庠食饩，比贡京师，光绪辛卯岁也。祖父以上潜德幽光，至先生而始显。然性则直，意所不韪者，不能降心抑志，以徇时俗。故为官吏所不喜，而先生不顾也。惟邑有公义事，则未尝不以身先。耿孝廉锦堂、叶拔萃瑜卿、戴明经尧仁诸先生，无不乐与之偕，至大疑难恒取决焉。以先生胆智加人，虽劳怨而不避。故江以北义仓、团练赈荒诸要政，靡不俟以举者。楚门玉海学校，先生所倡建也。当创办中学时，余尝同执教鞭，课暇从二三父老游，和识先生，时年已六十余矣。沉默寡言，言则必当乎理，其严正之气，令人一见而知假归道出。清港商货阘咽，蔚为市会，有桥曰玉陞，亦先生所重修。余方谓其工大费巨，非一人之力所能胜。地人则指桥以西、楼店数十楹曰：此先生贷款创设，

以所岁人税积，而营治者。余闻而舌咋者。久之其人又曰：不但此也，夹桥塗田若干亩，亦以先生议公拓而为。斯桥善后之用，一举而田赋增，商业亦盛，交通之便，自不待言。由是始知先生之才，具有超越寻常万万者。故与先生虽久不相值，未尝不遥想其为人。越十余年，以知事江公恢阅聘编修志书，渡江抵玉环治所。以时搜讨古迹，访求碑碣则董修文庙城垣及督造楚门城隍庙，兴修南北堤塘陡闸，莫不有先生名。往往其事愈难，所以任先生者愈重。一介儒士屏居乡里，所可告人者，如是之多，使进而膺百里之封，绾半通之绶，渠所成就更何如也。中岁后时事日非，隐居廛市，以教督其子弟。则於利也不争，人之所趋。而常取人之所弃，货之滞者，商旅之困，而思归者，走以相告，即漫然受之。其居心之宽厚，类如此。国变骤兴，绝口不谈时政。观其更名思故，知旧君旧国之感，诚有固结於中而不能解者，晚遂自号真遇老人。昔宁武子邦有道则智，邦无道则愚。以智为愚，故孔子谓，其愚不可及，先生岂有慕於此欤。今岁八月，为先生八秩初度，视听未衰。孙曾绕膝，一堂四代，乡里荣之。二三戚友将谋举觞称庆，徵文於余，先生虽固辞不得也。余知先生久，前数岁，纂修家乘，邮书访问，先生详列谱行，始知远祖同出汴宋，则奚翹同氏族矣。楚门旧太平地，后虽割隶玉环，抑亦同一乡里。辞以侑觞又为能已故，叙述闻见如此。夫以先生德业之宏，性情之正，皆有得

寿之道，大耋期頤可预券而。余之推重於先生者，则在善用其愚，青鞋布袜，逍遥万丈塘边，非徒环山之人瑞抑，亦胜国之耆英也。已故辞以祝之。曰：玉海堂前秋月明，玉陞桥边秋水清。提壶挈榼纷然至，争为愚老庆生庚。老人闻之髯张戟，今日河山非畴昔。黍离麦秀有同情，胡以宴乐而永日。左姻右戚翩然来，秃奴催趲盛筵开。读书尚记引年典，簪笔愧乏惇史才。为劝老人毋固让，士民歌功繇少壮。不谈时事但饮醇，后有中散前汉相。且看衣来撰杖人，鞠躬登堂隆孝养。

锦堂耿先生暨德配叶淑人七旬双庆序

今上御极之三年，律吕转春，万彙釀和，百昌腾茂。苙方拟椒花之颂，书蘂叶之铭。邱君笏廷走书徵文，将为锦堂耿先生寿读。竟作而曰：“於虖噫嘻！能经乌申，喆人所以得仙也。采芝饵术，修士所以引年也。然而益昆仑者，或洩之沃燠之泉。讲摄生者，或中道而厌衰。颡黄之世，上寿百二十岁。嶢嶢僊僊廷廷，百年溯而上之寿。且无算则，又不事吐纳不矜炉冶。由由然膺，多福饗遐龄。”繇斯以谈虽曰人事，岂堪非天命哉。先生少服儒业，长纘武功。自乙亥恩科右榜举人，归标得五品劳绩，数载归。与二三君子，讲求乡治。宰是邦者，深委任焉。十千维耦守望，相助团防举矣。市有质剂关讥不征巡警设矣。

计里量功崇墉屹，城郭完矣。如抵如京大庾有积，鼓腹而歌，民徧尔德。仓储裕，而廩给均矣。上栋下宇，俎豆莘莘，翬飞鸟革事人及神庙祀脩，而廨舍治矣，眷言桑梓孜孜矻矻。掟广成之术而不贵薄，淮南之书而不观。历载十余，虽被巨创，不少卻顾。官吏用慰，民用静谧。先生亦用是淬精励神，而不知老之将至也，今者年已七十矣。德配叶淑人，生同庚，子男三人，孙男二人曾孙男五人。一堂四世家室雍然。仲君口口哲孙禹廷，皆以第一人游庠，四美具二难，并乃介景福乃祝纯嘏南山，君子膺万年之休，天保诗人晋九如之颂，猗欲休哉！遇何隆也。方其投班超之笔，请终军之纓，輓颜高六钧之弓。发养叔千石之罍，驰骋长林丰草间，取青紫如拾芥，其壮也何如。从此攀龙鳞，附凤翼，角九能之技、膺三县之封。直指顾问，尔辍而不事致功里。尚於以此寿乔松，希蹤张赵，与彼言养生者，絜长较短，比德量功，孰得孰失，必有能知之者。故夫耽佚豫者，忘孟晋其精夺也。阮细娱者，失要领其神媮也。惟先生日循循乎人道，全天命於自然。忘欢而后乐，得遗生而后身全。斯盖莫之为而为，莫之致而致也。维范有之，有猷有为有守。则锡之福身，其康强子孙。其逢吉先生以之其在诗曰：为此春酒，以介眉寿、笏廷诸君以之。苙忝许忘年，夙瞻丰采，奋笔鼓以、与宠光而扬，休美此其时也。羽觞再巡大乐竞作，繙宜春之颂，为祝釐之歌。歌曰：筠罔春蚤绮筵张，钧天广乐

飄裳。醞翻一酌三千觴，木公金母飲瓊漿。綵衣斑斕芹藻香，
文子文孫雙翱翔。願乞朝陽晞鬢霜，聖君完典來上庠。尚父垂
綸開鷹揚，甲子一周醉一場。鹿茸再慶樂未央，正歌有闋士女
舞蹈。捧觴躋堂而和之曰：昔公治鄉兮憂且勞，今公杖鄉兮歌
且陶。粉社陳陳開越醪，祝公福與公壽，于無量兮如松之茂竹
之苞。

壽林君灼亭五十

君余同學友也，姓林氏號灼亭，世居邑東之蕭村。村大山
宮小，山夷其中，土曠而民勤，故居者皆有衣食。業君之先世，
亦以樹藝起家。尊翁□□公，年望髦，猶躬操作以督課其家人，
以是富甲一村。子五人，而君序最長。娶阮氏有賢名。子二人、
孫男□人。君年甫逾冠以鳳栖名游庠。光緒□□歲梁師箴朋主
鶴鳴，余從焉。君亦挈其子子英來，才十歲，已嶄然見頭角。
余喜君伉爽，課暇恒相聚，作竟夕談，以是得知其為人。此後
不相見者七八年，或就鄉人間訊，則競以輕財稱云，視阿堵若
儻來物，心竊疑之。後館渭川黃氏，則子英來從，年未及冠，
文思敏穎，已如咫尺驂駒、軼塵而奔矣。逾年，亦以乃用宅名
游庠，鄉人榮之。君則每自引謙，不以是為足也。不數歲，朝
廷廢科舉，明詔立學造士。時子英弟篤栽亦成長，君輒分遣游

学四方。子英旋调入陆军大学。笃裁亦入口口口口学堂，毕业有期矣。君居家日以事亲友弟为事性疎於财，而自奉甚啬。人有求罔勿应，以村居不便宾从列廛於近居之凤山镇。借市为隐，以恣谈讌、应酬之乐，虽折阅不顾也。亲故之贫乏者，必加温恤计其日用。及两嗣君游学岁恒千余金。人所靳不予者，君慨然出之，此君之所以得挥霍名也。今岁秋仲，邑人为议员设祖饯，君亦来晤余於邑中学。敦朴如其初，问其年则已五十有二，形气充实，与前同学时无大异。时君方修本宗谱束脩薪水皆君任之，宗人方交口誉请为文以寿。君让未遑。与余谈树果利，而以梨为最寿。谓培植得宜，可二百年。噫！木犹如此，人亦宜然。士生今世不能斡旋六合经纬万彙，伯当屏居林壑，收天地自然利，以事其亲，以教其子弟。衣食才足，輒出其余，以酬酢朋辈。矜恤鰥寡。君得之此，君所以寿。余之所以寿君也，忆曩岁登君门。屋舍修整，桑竹蔽翳。傍山夹溪，多种檀柚、榛栗。而梨为最多。以此为岁入大宗。时日向晚，尊翁荷锄至，白须飘然，声如洪钟。兄弟候门，子妇拥慧、彷彿桃源中人。今不见者将十年，闻犹健，是则寿其身，以寿其子孙者，皆翁精神福泽之相副，君之席其余裕，得以无累於心者，非偶然也。诗曰：惟土物爱厥心，臧君之尊人以之，礼曰：“积而能散安之而能迁。”君以之方，将与君之子孙共勉之。

襄臣陈先生暨配李夫人六十寿征文启

今岁为民国纪元第一甲子，邦巩灵长之基，天启日新之运。陈君特民既连任为省自治议员，将赴会以其尊甫襄臣先生及母李夫人并届六十谋之。亲故欲以某月某日称觞里第、同人驩然辞以侑觴。先生闻之则曰：汝身充议职，吾浙频岁告灾纷然，邑民尤甚，方拯溺救饥之不暇，何寿为汝，其与图所以安全吾浙者，吾斯慰矣。君既不获命，越日更端以进曰：男自频岁往来杭沪，交游颇多，若以二亲命请文於大人先生当有应者，归而写以乌丝笼以碧纱春秋，佳日悬之厅，事俾吾儿姪辈，朝夕循课，藉以稍知家世，亦幸事也。先生雅好文史，触其嗜痂沉吟良久，不觉首肯。君则孜孜以喜，同人亦为之大愉，因述所闻於君并得之乡里者以为先生得寿之征焉。先生世居邑北城坊，曾祖讳熙，以勤俭致富。实祖讳寿祺，硕德耆年，见推於乡里。尝董建邑义仓、校士馆、育婴堂、太平亭，事成镌碑纪名，皆居前列。先生自幼孤，露鞠於王祖父母读书家塾，聪慧绝伦，下笔文采斐然。未冠已为学宫弟子员。已而寿祺公弃养，既鲜伯叔兄弟、遗产颇饶。凯觎者众艰巨丛集於一身。先生兢兢业业，不敢失坠，见者推为克家令子。清光绪壬寅岁，试以第一人食饩，旋奉调考优，因病不果。家居事其祖母叶太恭人。继叔母金恭人，曲尽其职。两恭人雅爱怜之，虽少不豫，不忍其夔夔，久待辄麾之去。先生重违其命，屏立户外，不敢归寝。

祖母既终养事，继叔母者益至，每有疾痛，必先形之梦寐。性喜宾客，座上常满，有孟公投辖之风，而吹嘘寒士尤力，阴资以膏火者不一而足。邑名宿李季修赠一联曰：“常将青眼看寒士，惯把黄金买古书。”盖实录也。家富藏籍，故以枕经名其阁。阁中所度凡数万卷、全浙府厅州县志书仅阙其六、视浙江藏书楼及通志局所征集者，获过之，而於台人著述尤为措意，其失传者征求不遗余力。如宋黄岩葛承元之《东山诗选》、仙居陈仁玉之《菌谱》、天台潘音之《读书录》，存遗元黄岩林昉之《田间书》、潘伯修之《江槛集》及近人名人散佚於身后者，如黄今樵之《今樵诗存》黄岩李山渔之《补萝书屋诗钞》皆为付之利枣参订编录。寒暑不辍，字体稍讹，必毁板重刊，成后各行分赠，每种计数百十部。至今劬劬不已，尝谓稍有暇晷，即当陆续编印。俾先哲虹光剑气，长在人间。至以藏本借人助刊者，如《久庵文选》、《绿天亭集》等亦不下十数种。其心乎桑梓文献可谓深且挚矣。先生隆準广颡骨，相隗奇足下有文、如龟相人者，谓宜享盛名，故遇事无所摧挫，先生名妇孺无不知者。且生具异稟，往往对客倾谈，手不辍书，或持筹握算。童仆纷来启事，先生肆应多方，五官并用，其精神有过人者。平时才大心细，熟谙地方利病。邑有大疑难事，得先生一言靡不立解。历办工艺局、习艺所、团防、义仓、中学校、乡自治，暨重修文庙诸要政，实心将事，成绩昭然。善隐人恶，有亲邻乾没其友金者，

反以诬其仆，役先生询得其实，出金偿之，并善为弥缝。其不毁坏人廉耻，类如此。然见义勇为，不畏疆禦。光绪季年，太平营参将杨某，縱兵虐民、邀名纳赂、輿情愤激。先生投袂而起，偕士子列词上诉，卒达天听，褫其职而后已。由是远近无知先生之能，义侠之声倾一时。宣统初年、省垣设立谘议局，先生与金浣秋辈四人，当选为议员，群称一邑人才之盛。在职侃侃多所建树，尤其难者，每逢荒歉人民愁苦、先生必终夜徬徨亟电交驰，为民请命积牍多至盈寸。九次开仓平糶、亏产达十余万圆。楚子文毁家纾难，庶几近之。民国甲寅监狱系囚过多，瘟疫大作，染毙累累。先生请之邑令躬自斥资脩备狱室四间，俾得分移医治，全活甚多。又以閭巷小民生计穷蹙、每以举债或质物度日。本轻息重剝肉补疮，辗转坐困者，比比皆是。先生特仿因利局，办法贷款。贫民自一园至五园不等每日交收五十文至二百文不等，交毕得再行告贷，不取分毫利益，小本贸易得以获其余剩，养身贍家。惟烟赌游民。则拒勿与，一时欢声载道。先生方以限於贖本、不能徧及为憾。此外如月给鰥寡孤独钱米、病者给以医药、死者给以棺殮、不一而足。近以时事日非人心不古，隐居不出，寄情花木，性尤爱菊，篱边阶下，异种骈罗，每值重阳，烂若云锦。先生则折柬，招致文人赋诗饮酒以为乐。或课孙辈读书其间，坐而听之，不问世事，其志趣之高尚，又有可言者。夫人李氏黄岩清道光辛巳举人宗

室教习山渔公女孙；同治庚午举人子笃公长女。生长名门，幼娴诗礼，归先生为继室，瑟琴静好，白首无违言。以先生之能，事其祖姑及继叔姑也，委宛备至。益务顺谨问安视膳，悦色怡声。祖姑衰年患风痺，起卧必躬扶掖者，近十年不假婢媪药饵，非手调不敢进。后之事继叔姑亦然，若恐不当先生意者。由是先生好客，则勤脩中馈礼遇，以成其志，先生好施与则取求无吝色，且能补其不及。故先生之誉得夫人而益彰。先生体素羸，中岁染疾，几殆夫人侍奉医药，衣不解带数月。因慕古人刲股愈痾之义纯诚格天。其日时方味爽、夫人止觅刃不得、室外忽闻呼卖剪声，急出购其一，密祷之天，剪右臂肉二寸许、投汤药中煎。奉先生饮之，但觉异香满室，病日霍然，心颇异之。后至夏月衣单，偶按创痕，裂血沾袖，殷然询得其故，相持而泣，左右皆为感泣。夫人之盛德，高谊始有知者。又以外家中落，父母久厝，乃亲育蠶数十箔，得货积数百圆，始召集其兄弟子姪剋期举丧成礼，不动用夫家分文，见者啧啧称道。赞先生规画内政井井有條，吉凶婚嫁经其參酌，动合时俗之宜，姻族至取为法式。尤能推恩族党，赖以举火者数十口。其於贫寒子弟抚之教復为之择保卫科业成室家，则不惟为先生之贤，内助抑亦可谓知大义者矣。生平笃信《感应篇》，每夕必焚香默诵数过，书中所言，且能心体力行。初寿祺公歿，时门祚衰薄，故先生以嫡长兼为叔庆燿公后、势甚岌岌，自得夫人连举丈夫，

子六人。长衢清，国学生。次卫，即特民，清优附生，民国授七等嘉禾章，连任本省第二届第三届省议员。次衍，毕业全浙监狱专门学校，现任本邑自治委员。次衢，本邑高等小学毕业。次衙，本省安定中学毕业，上海南方大学。次衙毕业本省青年会。孙男五人，长奕芾，均幼读，次奕莘、奕芊、奕峯、方在襁褓。女子五人，女孙六人，一门鼎盛，先生为之大慰。今又夫妻并登周甲，家庭乐事诚人世所不数数。够衣莱舞綵娱，此二老宜，君之不能以已也。先生诗文清隽，著有《复生诗文集》。前五十四诞日自述一律，两浙诗人和者数百，已成卷帙。又手辑《风雅遗闻续编》二卷，《赤城论谏录》八卷，《笈牕补遗》一卷。名山著述来日方长，其为功於先生，哲者自当躬收其效。况考诸书传，甲像草木出地之象子者孳也，皆有日进不已之义。故自太古以来，言推步者莫不以此为历，元絳县老人之自祕，其年亦数以甲子。先生德积于身，福贻于后，尤非絳老之比，彼以日计而不足者，此且岁计而有余，其为寿亦何可量。谨瞻其家世，略为诠次贡之当世。倘蒙大雅鸿达锡、以简章宏兹嘉寿亦何可量。谨瞻其爱世，略为诠次，贡之当世。倘模仿大雅鸿达、锡以简章，宏兹嘉庆，陈君固将踊躍欢愉，鸣感大惠，亦同人之盛愿也。谨启。

石斋王公七秩晋四大庆序

三代之所以教民者、养老而已。故夏后氏以燕、殷人以飧、周人以食。以王者而降尊於黎庶、为之袒而割牲、执酱而馈执爵、而醕编户之家、有不闻风兴起者鲜矣。世衰道微、人子事亲之礼缺，如父母诞日乃始征文，当世以相夸耀，为之文者亦复盛称。其田宅贵游而於性行之微，家人、父子之乐，反置不讲，岂有道者所忍出乎。今岁夏正七月四日，为石斋王翁晚揆之辰，时翁年七十有四矣。嗣君秩东将率家人捧场觞上寿。因梁君逸夫请余文以乐之，顾以不获翁命亲知者，为之从容再请，逾月乃始首肯。君用大快袖翁六十有四寿文以至，则翁同廩贡生诗藏裴氏之手笔也。余受而读之。於翁性行家世言之綦详，而尤以真实无妄见推。余曰谅哉斯言。此天地长久之道，翁之以是致寿宜也。然裴氏此文，成於辛亥，迄今已十阅寒暑。天道五年一小变，十年一大变耳。日见闻之间，往往人事翻覆，大非其旧。或如昌黎圻者传所云：而翁於其间，乃田畴加广，堂室加崇，而耳目齿发之聪明坚固，亦无大改於前。岂其收效於真实无妄者，固如是之远且大哉。前序称秩东有子三人，长者甫婚，今其次亦有室，长者且生子矣，是翁已得曾孙，一堂四代，见者亦稀。方翁之自幼失怙，鞠於节母叶太孺人也，块然襁褓，岂复知有今日。乃率其勤俭之教，家以日起，子若孙又能并率其教，犹翁之於母。故家虽小康，而子弟无汰侈之习。

居虽近市，而门内无嚣张之气。诸孙长能服田，少者能读，兄弟怡怡，子妇翼翼。翁日逍遥庭户间，闻机声、书声儿女声，则哑然以笑。秩东又於岁时伏腊，娱以斗酒，乐可知矣。况以真实无妄之道，施之於人有余，以分已诺，不敢召循斯以往，翁之为寿将胡可量古者。养国老於上庠，养庶老於下庠、率以九十为断其未。九十者则乡大夫宾之，而乡里之人又於春秋社日，醴钱合脯，以迓田祖而娱高年，自蜡宾不行乡里，私相寿自二社之酒废，乃始以诞日为期，俗之迁流，盖如此耳。或乃以称寿为非古，曷知古以诗，今以文；古於乡社，今於国。固事异，而理同哉。余与秩东君有儿女之好，言之近私，故绎裴氏真实无妄之说，以为翁祝，而以养老之义，勸其家人其称觴也。以八月於秋社为近，因并及之翁如不以后辈见斥，其辄然为晋一觴乎！

颂曰：鹊桥乍填、瓜果未筵。纷阳寿考，翁得其先。家人洗腆，里尚欢然。子复生孙，孙已生子。奉尔盘匱，撰尔杖履。毋曰古稀，为乐未已。翁乃执谦，金粟蚤香。仲秋既望，蟠宴始张。右戚左姻，拜蹈称觴。大庖盈盈，社酒陈陈。霓裳新曲，明月前身。以歌以咏，介尔百龄。

中兴悦岭庵珍道禅师五十初度暨正殿落成纪念

浮屠氏之教，亘数千年以至於今。时兴时衰，转微转盛者，曷恃乎！恃有精修梵行者，自觉觉他。以推衍其道、亦恃有兴寺宇，盖塔院者，相与扶植其徒，俾繇延於勿替。故非内行外功、两两各足，则彼教无以自立，人亦莫从崇信而尊奉之矣。若余所闻珍道禅师者、洵释氏之传人沙门之肖子也。师为楚门之庙湾人、自幼具上善知识，不茹浑酒，日孜孜於人道。年甫十六，特发宏誓，大愿披薙入人山。自是严持戒律，岁月不懈，识者谓其生有夙根，故能魔障一空，精进不已。然终以幽居乡曲，见闻浅薄，无以遂其志事。於是对师海外，登佛顶山听经闻法。旋得某方丈指示、智慧日益增进，归而习静禅关，日惟食粥二餐、六阅寒暑，道乃大通，知师者争造访焉。悦岭庵者据前寺后寺之间，为普陀适中之地。负山面海，形势本佳。岁久倾摧太半弃说榛莽。住持僧人有志兴修，皆以材力不逮付之空言。会师修治护国寺成，即招为是庵总持。十余年间凿山通道，积土养林竹，活花香房，深径曲轩厂之中，至此更饶幽雅。然后鸠工庀材，大兴土木。近岁以来，计成正殿十有八楹、而规画前殿位置，金刚者犹不在此数。佛屋僧寮彼此毕具，丹青黝垩望之焕然。以是十方善信争来瞻仰。近而杭沪，远而赣鄂，以文字为投赠者，夥颐难数。尤见重於康南海，一时声誉風驰，游人云集。在家称弟子者几至数千，故不唾手而成。恢复之功，

呜呼可谓盛矣。惜余屏跡荒山，与师未谋面，不获躬见其美，然以其里人蔡林诸君之言，知其成就之大，信仰之多，实有大过人者。当兹年力方锐，精进勇猛，异日登讲座，闢丛林振起南宗，使一切众生同登彼岸。师之寿固毋待祝。独念今日，战争愈剧，事佛者愈多，一二大师传经设醮，所至风靡。岂儒墨沟通，康德弥勒之书，兼爱尚同之教，将并行於世欤。抑抗攘之余、务为清静，一张一弛，人情大抵然欤。以师之应时而出，奋迅无前知与世道人心，必有深相维系者。故以还质之师者，祝师之寿并以观其后焉。

柯兰舟先生哀诔

丙辰之秋邑副魁兰舟柯老先生捐馆去。门下士以其久於教育、相率就谥於余，请文以輓。余曰尔夫子为邑伟人，其学之博、业之懋、行之成，搢绅先生能道之，诸君将奚择焉。有作而应曰：此非小子所敢知也，小子所难已於怀者，以受夫子之作养者，备夫子之启迪小子也。勤欲表章一二、以志教思於万一，此人所甚愿也。余曰：是宜书，试言尔师之所以为教者。曰吾夫子之從事教育，垂三十年，於兹矣。方其以补博士弟子、甫弱冠已开馆里门，从之游者翁然称盛。夫子量其材质而诱导之，辄如龙子点睛，破壁飞去。以是宰是邑者，及膺教育主任

者，无远无迓，意中莫不乐得夫子以为幸。比捷浙闾，闻望益显。其思培植后进者亦愈殷。溯自光绪甲午以来，靡不躬荷教育之责，计为鹤鸣书院山长者、凡五年。监督横湖官学者一年。以邑中校教员进为总办，兼任教育会会长者，垂三年。倡办初级师范者又一年。旋以临邑周孝廉萍洄出，历任三台中校教员者，又四年。其为教也折衷中外，蕲不谬於时趋，而精神所注道德文章，莫不以保存国粹为首重。然不强人以所难，有未至者，则温语霁容以导之，授受之际第觉其蔼然可亲，肃然可敬，不知其人人之深，化人之速，何以若是之神也。方其掌教鹤鸣也，以八比试帖，无裨实用，虽格於功令，必兼课以经义策论，以为去旧从新之本。旋以政体改革，已渐趋於科学教育，遂改书院为学堂，以为吾邑倡，而吾夫子之通达时务，遂为当世所共。许其监督邑中校兼长邑教育会也，以教育机关既具事权统一，遂思积极进行提倡初高等者，不遗余力。自是学校加多教育科，亦日见起色、夫子力也。其司教二台也国文一科。笔则削则削，夜以继日，不敢告劳。修身经学，则编为讲义明白详赡，令人易知易行。其於诸生，若有一般爱情，周浹其中故特多美感。他如横湖官学及师范讲习所在职期间虽为迫促，而实事求是，成效卓有可观。甚以学人一念殷，倾囊而不恤，比当世所共闻，表章之者，当有在矣。余曰：然诸君所言者、尔师之教，而自以为不能知者，尔师之所以教，余尝忝执教鞭，与

尔夫子周旋数年，有以窥其微矣。尔夫子之居家也，能事其亲太先生得其颐养，以躬跻修龄。与尔师叔佩秋先生雅笃，友于风雨对床，论者方之轼辙。其道德之内籀，充然有余，以之陶成后学材智者，既各得其所求，中材亦不至，望而生畏。从学极千数百人之多，莫不如坐春风，被时雨谓为教育之伟人，不信然乎。今乃厚然舍诸生以去、停车问字者，既登堂而闾然。小子后生亦无所考德而问业。宜诸君言之悲也，诸生既首肯，遂詮次其言，并为之誄。

誄曰：惟吾夫子，貌何腴兮。心何虚匪，貌之腴为。德之符匪，心之虚，为德之居。皋比一座、来者于于。秉道之枢，树学之模。迪尔后起，守辙循塗。嗟予小子，舍比其安归。

金君雨梧輓序

今岁三月二十有四日，前花翎同知銜、补授松江府经历、保升知县金君雨梧以疾终於家，成丧有日矣。族里悼恻征文以輓，梁君佑涵介其适姪嗣猷所为状甚哀而礼君之详。虽非余所得知，然以相识之久，颇有以得其为人。按君讳某，号曰雨梧，邑水洋庄人，姓金氏，邑巨族也。高祖以下封荣禄大夫者四世，妣皆封一品夫人。君力自拔於纨袴，少负大志，三试棘闈不售，心常悒悒，纳粟得官，非其志也。比分发江苏，在省筹办清乡，

清理积案。上台雅相器重、已有松江府经历之命，部员因君以救护难民案，保升知县、意图索贿。故稽延之，君不为动。时清廷锐意维新、君知非研究法律政治、不足以为世用。遂弃官入江苏法政学校三年，以别科毕业。会苏抚陈公移节皖垣，以君能将奏调同行而鄂省。革命事起，君遂束装归。抵家见吾邑匪徒乘机四起，举办团防、募兵百名。二三年间，计费巨万。以西乡土地之广袤，财力之饶富，宵小不敢凯觎，亦未尝以分文科派他庄。由是共服君之能，而且公也。君性伉直、不谈性命，与人交以诚。余之始识君也，时方游学第，见其倜傥，自喜有以异於人耳。后虽时相值一二语輒别去，无以观其深也。及君入都谒选，余亦以浙藩保送至，相与聚首京邸者月余。时君之昆季子弟先后来者，毋虑七八人，皆奉君为进退。余喜金氏之多材也，因与篝灯论族治，君輒毅然任。故其后，虽需次於外族中，公义各举，未尝不待君以成，君亦不惮往返而纲纪之，以是议立莘山义仓及大宗祠於河头洋、或聚族而谋之、或捐巨金以为之倡克而事以集。光绪季年，停科举办学堂。君恐族子弟无进身阶，锐思兴学。以遴本邑及邻县通敏之士，资遣东游，以求实验，而广师资。其规画之远，类如此，未成而卒。论者惜之。君体素弱，去岁不戒於火，举宗荡然。今春复营新居，忧劳所积，势已顿惫。数月之间，剧而复瘥。顾君已自知不起，侨寓东岸李氏，时见余亦以为言，然於死生之际不稍介

於意。念以兄子，嗣献贤而稍长，举家属焉。且曰生当乱世，惟宜闭户读书，屑屑於身外之溪荣，甚无谓也。我死唯两家和睦而已。卒年若干，子四人，长幹侯，次澹卿，次石轩，次士信。出后，其伯父莲生君，生平俭於自奉，而於友朋之缓急，虽倾囊而不惜。方在苏省有欲荐之赣者，君婉谢之。官归周旋乡里，邑宰之庭，曾不得有其足跡，其远势利而尚气谊，梁君尝以为言慨。自世衰俗薄、士之变易其守者，恒先后若出两人，君自游庠以至於今，垂二十年矣。所历得失，荣悴欣戚死生境，不一变而其侔、然自好者，无所改於初。其致功於族，里人之称道者，亦无间於其后，金氏为有人矣。故摭其大端，及余所闻见者，箸之於篇，并以诔之详为之传，以俟君子。

诔曰：世家右族，得人以治。观古慨然，君起而继。一官盘错，藏尔利器。乡族称仁，子弟畏义。述兹梗概，公告后嗣。天斯其良，使未毕其志事。

林君子英哀辞

今岁夏正六月二十七日，陸军中校林君之英以疾終於家，距生光绪戊寅年甫四十有五，乡里悼痛征文以輓。君旧從余游，出处进退，有类乎知几之士。其卒也不能终尽其天年，文以哀之，又乌能已。君世居邑南乡萧村，庠士灼亭先生冢嗣也。生

而聪颖，九龄随父读书邑城。头角崭然，随口应对，工妙绝伦，闻者奇之。稍长、师事其姑夫阮启人先生，才思濬发，下笔能文。比余馆渭川黄氏，君亦负笈偕来，言论丰采，横溢自喜，每有不可一世之概。逾岁游冀，年甫二十有二。志盛气锐，孜孜求进。会清廷停止科举，创办学堂。君方以巡检赴闽局，促一官，既不足以有为。遂返身求学，入杭州中学者三年。政变纷起，一时识时务者，皆趋重於兵略。君乃转入弁目学校。旋由本校保送人北洋陆军学校、学期试验恒冠其曹，遂以步科毕业、奏补副军校派充八十一队陆军教练员兼掌文案。宣统三年，改充督练公所统计科课员，筹备科课员。武昌兵起，省垣震动。朱将军瑞、童师长宝璜，知君材武足任大事，君亦久蜷跼思有以自効，遂出为第一镇司令部被服课长军需官。南京克复，委充司令部军械官。已而浙军凯旋，改充陆军骑兵协和军需正。民国元年，升任第六师军需处处长。帝制问题之发生也，云南蔡将军锷首先发难，君遂從吕督军公望，张师长载阳、王镇守使桂林，及童师长以浙江应事定叙动，补授陆军中校、将给四等文虎章。君自置身行阵，至此已将十载。一介书生，勉强支励，积劳伤中，已得痰喘疾，重以车驰骑突，饥饱失常，往往朝食暮吐，自知身不任职，即时引退，当事者留之而不得也。将羞为羸马恋栈耶，抑其志识之远大，不欲以军人终也。盖自民邦新造、度支奇绌。君知救国之道，黑铁赤血之后，当盾以

实业。既已赋閒、乃与二三同志，创办华孚银行於省垣，被推为董事长者，凡三年以时投资各公司，以图振兴商务，挽回中国之利权。昔者范蠡佐越既成，泛舟五湖，役财晦迹。君其犹此志欤。君蚤岁艰於嗣续，至此累举男子三人，灼亭先生为之大慰。不时留杭会六十初度，军商各界相率釀金称庆，欢讌恒无虚日，君亦兴高采烈。每至鐙红螳绿，纸醉金迷，直视阿堵物为傥来。亲故之知君者，亦复取携自便，虽至千金，亦未尝责以署券用，是名动全浙。富商达官，争欲附为婚姻。呜呼可谓豪矣。君性慷慨，既拥厚资，羞自封殖。乡里婚丧无以举，老孤废疾无以养者，必有所欣助。林氏固有宗祠，而祀产不足，君斥资充之，又议建小宗祠剏造之费祭祀之需，皆首出多金，以为之备。萧村凤山两关庙、岁久不修。君见之曰：此古社庙之遗也。飭治所须君则任其大，且巨者。尤好振拔后起，在军荐剡至省署科员者数人。其董银行也，亦在亲故子弟游学乏资者，有所假贷，必以应。虽至典质服用，亦不自言其困也。以是应酬日繁、宿痾复作，前二岁始归里养痾，男女室家，又劳心计疾、势已不可为矣。素好吟詠，军中常以卷轴自隨，至此所嗜益专，稍瘥犹持李杜集，披吟不辍。去岁与疾作雁荡游，过余棣花馆，次述旧作以相质证。一二好句酷摩盛唐。盖诗书之气，实有以浸灌之，是以进而知退。得而知丧，不至一往而不返也。君自游闽后，与余不相值者，垂十余年。今一再见，

犹不失书生面目。使天假之年，涵养加深，所就当更有可观、溘尔而逝为可惜也。君名競雄，庠名乃宅，号曰子英。配郑氏，生子胜凡。侧室周氏生子胜谟、胜猷，皆幼。辞曰：呜呼噫嘻！嗟我造邦，朏越十载。汉水再波，浙潮屡变。健儿纷纷，谁功谁罪。君乃乘时，從戎秉旆。勃然以兴，毅然以退。溷身塵市，鸣夷是羨。金穴未成，玉斗久碎。国步多艰，牺牲罔悔。我闻君丧，心境愤愤。丧予祝予、遗此老悖。时局苍黄，故宫蒿艾。悽怆河山，谁欲永奠。

叶子佩先生哀辞

岁在庚戌二月之某日，邑庠士子佩先生以疾终，距生同治乙卯年，仅五十有六。闻者惜之。内弟林君敏叔介其哲嗣舟持状请文以輓。余於先生虽相见日浅，而长君尝从受业於邑鹤鸣高等小学，藉得知其家世，无以辞也。先生姓叶氏，讳鲁珍、号曰子佩，为邑附贡生候选训导云芑子。母戚太孺人，乡先辈鹤泉先生女孙也。兄弟四人，长璧园，次听石、次声友，先生序当其季。自幼黽颖尤为父母所钟爱。云芑公尝建二肯楼延师以课诸子，先生昕夕其中，讽诵不辍，明经朱少丞馆其家亟称之。后云芑公疾，侍之终日不少离，濒危之际辄焚香告天，愿以身代。其事戚太孺人亦然。云芑公既捐馆，则移其事父者以

事兄，虽居异室食异爨，事必谘而后行。而於三兄声友为尤笃，盖其天性之厚有过人者。年未弱冠，下笔能文自谓科名唾手可得，而所如不合，久乃受知於督学使者唐春卿年已逾壮矣。三赴秋闱皆报罢。会朝政改革，先生遂绝意进取，日以种花为事，傍舍为园者二遇有佳种，多方罗致，终日坐卧其间，以为乐。宾客有过访者，必强留之使信宿而后去，生平拙於语言，然遇知己畅谈则抵掌奋舌，词如泉涌。家居读书教子，不与闻外事。而乡邻鼠雀之争，恒欲得先生一言以为直，故赴愬者踵至，先生一以诚直之道处之，鲜不服者。里有丽山书院，改办初等小学有年矣。经纪乏人，成绩茫若，事益集资添设两等，公推先生为校长，学子蒸蒸，已举行毕业一次。他日进而益上，俾子弟皆得所造，就先生之为功乡里，又奚可量。尤其难者，一切慈善事业苟有所闻，莫不慷慨乐输。不求名，不责报，若以所当为而为之者。此称颂之声所以至今不绝也。元配蔡氏，续配林氏，皆能相其夫子。二长君舟出蔡氏，已有室生子。少君家琨出林氏。女四，长出蔡氏，适桥下陈乃简。余皆林氏出，一适黄岩王於和，一适临海王天助，一适黄岩俞南初孙一兴华。综计先生一生有田庐之奉，有子孙之养，有园林花木之娱，天伦无憾。室家太和，席丰履厚，甲子相周。一朝撒手犹未足为先生哀也。惟是诚直之概慷慨之怀，为乡里所崇仰。一旦失所茆赖后生小子谁与陶成，饥寒疾苦谁怀恤，讼狱争斗谁与平，

此人所不能忘於先生不可无言以輓也。余闻江洋叶氏为邑巨宗，自明世海峰先生以名进士從祀乡贤，文章宦业，光於简岫，故继承而起者代不乏人。先生克世其学以上承祖考，使天假之年，俾得展其所为，当有大过人者。乃以八尺之躯，负才不遇，淹忽以终，不为无憾。然以视酣豢膏粱，而一无表见者，相去奚翅霄壤耶。故摭其略书之以遗其后。并为之诔。

诔曰：二古已邈工矫饰，介者立名通贬节。率性而行何所歉，天真烂然我心折。海峰去后家法存，后起者谁此足式。

张君心韶哀辞

司马迁有言，儒以文乱法，侠以武犯禁。故儒可为而不可为，侠不可为而可为。三古以降士气靡然，尺寸自守。其致力於人者，曾朱家郭解之不若而公，犯法扞文纲者，又为薄俗所惩。往往一著儒冠，辄不复与人家国，见有濒于危者，亦不一此手援，蓄缩受侮，遂成一积弱之中国。此余平日所深慨者也。以今所闻张君心韶殆儒而侠者，宜人之得其力。而悲其逝也。君讳乃锐，心韶其号也，世为邑东乡琅岙庄人。与王君素亭为执友，其卒也，王君介其亲故为状，征文以輓。余与君固相识，居较远不能知其详。比观其事状，则尚气谊，工谋略，非寻行数墨之士所能及。不可无以云也。故摭其大略，以载於篇。君

自幼岐嶷，既游庠辄思有所建树。遇乡里不平事，恒力於自任，或资以财而鸣之官，而始以得直。以君之识，精力果为谋必忠。故张氏虽号多材，同时在庠，骗子者凡数人，莫能别树一帜，为邦族所引重。地方公义各举靡不待君而办，君至则釐剔弊，振刷纪纲，事无大小，人无贤不肖。皆惟所措置。张氏环琅岙而居者，已成族聚建立宗祠有年矣。祠产失於经纪寔以颓废。君为族人所推举，即悉心管理，不十年而公资骤增。朴斯丹护顿改旧观。傍祠多植松柏，以为芘荫。其无嗣者，则别为祠以祀之。磨车桥者，地居琅岙之北。境为四方所走集，人烟繁盛，而未有市场。君与诸同事力为提倡，数岁而成。今则闾闾之间，百货辐凑，俨然成一乡镇，余尝亲至其地，舟车绎络嘉植扶疎，益知所言为不虚也。君又善存卹孤弱，族有英道公者，自徙居羅西，门祚衰薄，仅遗一孙。为不肖者所略卖君闻之，惻然出资，四出侦察踪跡，至福建之惠安县知己物故。乃为立后。公有薄产亦为人所侵蚀，君以非此无以奉祀也。必复之而后已。其不惜财务，急人之急，类如此。君修八尺广颡，方頤相值。於稠人广坐，翹然如鸡群之鹤。每见而心仪之。今以诸君之状君考之，知天生此八尺躯，非偶然也。呜呼！以君之仪观才地使处通都大邑，未必不飞黄腾达，以博当世之显名。乃仅一终，又不获享大年。膺遐福君之不幸，又岂天下之幸哉！然生平敢作敢为，弱者则扶植之绝者则继续之。废坠而

缺略则振起而作新之。使宗族乡里有所赖藉，以视埋头砚北，於斯世毫无所建明者，其得失为何如也！卒年口十有口子二人，长某毕业浙江专门法校，次某神州大学毕业，孙男二。君卒时已知书，君之致力於人者、虽不得之於身。必将得之於其子孙。故为诔次其事实，书以为 。并为士之洁已自好，而无补於世者风焉。

谢母陈太宜人哀诔

梅伯言谓族姓之兴，必由积累其致福之，尤者孝子之外厥，惟节妇持以绳。世家巨阅，皆信而有征。大抵所就愈艰，则天之所以报之者愈速。故余於乡曲一二苦节，每乐为表章，以之风世而励俗。若我陈太宜人，尤其卓卓者也。按宜人姓陈氏，为邑北城庄，家沛公女。今大理院书记官，谢君瑞唐母也。自幼令淑娴忌女红。年十七嫁文乔公，事姑尽孝，且能以勤俭佐其夫。故自归谢氏，戚里间訛然得贤名。生子三，长章业，次基业，三昌业即瑞唐。瑞唐生七日，而文乔公弃养，家贫甚。人无知不知金为宜人危，宜人则知有命焉。而已当夫疾，药之百方呼号抡攘。至以身代而不恤，其不欲苟然以生也。及夫之既卒也。室家衣食知舍已莫与任其责，则又不忍脱然以死，哀哭中为文乔公治棺衾营丧，葬虽惫极，犹抱儿乳哺，其艰难困

苦有人所不忍言者夫。弟文德愍而抚之俾与妻蒋氏同居，时周其乏困、宜人感而益奋。食指既繁，惟恃澣濯织纴以给，故竟岁劬劬手足曾不得少休息，如是者十余年。诸孤以次成长，家亦以少克，裕而惟令瑞唐读文。乔公在日，偶出北郭见道塗湫隘。曰：使我有财，即当砌治。至是命诸子为之。以竟公志。宜人不忘其夫，类如此。此文德公卒世，宜人以叔姊蒋氏无育，慨然命瑞唐为之后，诸子稍长輒令分营生计，惟勉瑞唐以学，曰吾非叔氏无以至今日，尔不可无以报，旋命肄业宁波法政学堂毕业，详由浙抚咨部得九品奖励以录事，籤分大理院留京供职。從此得祿以养天，所以偿其苦节者有日矣。乃遽以月之二十九日卒，年六十。呜呼哀哉，人为贤母谢氏惜，吾谓吾邑失一贤妇人，为尤可悼也。方文乔公之卒也，宜人年甫二十有八。家徒四壁，诸孤僂然闻者犹为心悸，非得宜人以振燕衰之绪嗷嗷沟瘠固不待言。今诸子皆有衣食业，孙男六人，女二人，二室如家，隆隆起然，则一宗血，食两家门户，兴衰门户，皆於宜人是系其心，视他节母为苦，其任视他节母为大，故其功亦因而加隆。昔柳仲郢母和熊丸，以教子卒以兴其门祚。欧阳母之守志待后则无一瓦之覆，一垆之植，以庇而为生。宜人之心何多让焉。前数岁谢君以宜人守节年例已及，命叙行实呈之有司奏奉钦旌，今宜人又以子贵，得请於朝。宜人虽不以是为荣，为之子者，亦不以是为足报其亲。闻宜人风者，庶因

是而加劝焉。故以宜人之去也，书以志哀，并为之谏，以为妇人之不幸者勸。

谏曰：不二所天，妇人之志。并臼丝麻，妇人之事。所难堪者儋石家。无寒待衣，而饥待食。以教以养心，随力敞烈雪寒霜。皎然大义。宜报施之，不爽产甘瓜於苦蒂。彤管有祿，光於来裔。

卷六 韵文骈文

梅花洞赋

牛冈穹窿兮，北负泉溪，喷激而东。趋繁山水之灵秀兮，结而为此胜区。虽骚人所託处兮造化，实關此幽居。中平夷而繚曲兮，外辽绝而崎岖。界林 之鸟道，逾修阻而荣纒。环诸峰而宫也，攒群壑而奥，如隔人烟於塵外，别天地而成墟。幻雲烟於图画，貯風月於蓬壶。是以高人筑室，雅士问途，殊方异域，来者于于。步林樾兮适野趣，舒积闷兮浣塵。裾人固各得其乐兮，岂余言所能尽其余。溯茲山之缘起兮，实轩著於有明。惟九老之高蹈兮，羞浊世之簪纓。喜烟霞之深僻兮，寄林垆兮陶情。惟种梅花兮满坞，以之比潔而标清。对明月兮弄影，冲寒風而敷英。倚孤山而明媚兮，报幽人兮早春。流泉散馥，幽崖洞瑩、匿素魄之流彩，映层冰而稜稜。当密雪之交集，或经烟兮四縈。關幽蹊之阒寂，粲万壑之瑤琼。空千古之积秽，共此身之钓耕。士以山而长隐兮山遂以士而得名。厥聲皇然，厥境藁尔。巨溪山以纒迴，矗两峰之对峙。中突起一翠微兮羌峥嵘，於川沚峭兮，嵌巖。若失树之猿荡兮逶迤，若负塗之豕蹠曲兮若神龙，矫首而登天奇崛兮若河马。负图而出水罔曼衍而如蛇，石怒立而为鬼，千态万状幻於一咫。当寒梅之盛花，

惟清芬之四起。登平坡兮。赋新诗攀长条兮。侑琼醑领风月於林中，锁云烟於堆里。彼华嵩崔嵬而耸峙兮，终难得而比美也。矧山碧兮花香，界流水兮一方。夹疎松与修竹，奏雅韻兮琅琅，白沙磷磷，隐其下紫藤落落。延其旁翡翠。背人而出谷，雌雉举尾而迴翔，仿佛此九老揄纶而得鲂，持长瓢而竞酌，歌汶水汤汤。流以静而愈涛，势以曲而善藏。洁洄以缭绕兮若与山而相望。水迴兮山绝，维彼幽人此焉庐结。流循水而啓扉，藉平冈为枱。闾愿松柏，与豫章森列乎。山缺扃出，岫之白云，漏入林之红日。鹿麕驯驯而对眠，麕麕牲牲而并立。清荫环庭而交遮，杂芳载途而可擷。地僻兮人稀，林深兮篁密。捐避暑之轻纨，贱御寒之温室。萃宇宙之奥妙，为神佩之窟穴。境以藐而易穷，胜以探而愈出。历万祀而犹新，何四时之迴别。届春光兮融融，揽景物兮无穷。草青青兮被时雨，木欣欣兮披惠风。有青螺兮交缀、铺绿荫兮成丛。川无珠而亦媚林，透暖兮微烘。护轻烟兮霭霭，釀宿霧兮濛濛。仓庚紫乙，百舌之属，流音而送响。桃李杏柳朱樱之类，斗紫而竞红。向林间而俯仰，更目眩而耳聋。当秋声兮飒起，尤属耳而非同，发清音於丛竹，流逸响於长松。有隔溪之清杵，和远寺之疎钟。黄染一林之榭，丹施两岸之枫。亦铸红而错綵，妙大造之化工。幻仙霞於台岭，疑濯锦于蜀江。既逍遥於窝里，更游兴之未慵。经小桥之明月，来别径之秋风。猿鹤唳兮远渚冷，乌鹊飞兮深林。空询内我而

交美兮，亦舒巧之无庸。惟斯境之幽妙，亦触目而寓奇纷。朝夕而异态，混明晦而同规。天朝曙兮岚烟没，雨暴下兮瀑布飞。云深兮白漫，林稠兮绿肥。凝烟山紫，傍晚霞绯，野花无时。而自放林鸟，拂曙而群啼。嘉卉丛生兮万种，古木轮囷而十围。可以弹棋，可以咏诗，携壶蹑屐所适咸宜。俯清夷之洞壑，发幽渺之天机。惟景趣之杂沓，任心意之所随，固足穷清赏。而攄幽怀兮彼骚人，逸士若舍此其焉。归风月兮清皎，怅前修兮已渺。地冷兮梅不花，山空兮春日晓。惟泉水之清漪，与烟云之纒袅。庭荒兮一径，莓苔林寂兮数声，啼鸟发清籁於林泉，拥清阴於丛篠。聆繁响而神飞，挹秀色之可饱。歌詠不能罄其藏、丹青无所施其巧。岂徒资耕钓之往还，供文人之幽讨者哉。嗟遗迹之已堙，将幽尝兮维申。安能任其花残，委土草懒铺茵。佳普曼玉，清流浮银。老沿江之秋树，迷仄经於荒榛。允宜携琴消夏，策杖寻春，上巍坡而步雪，行深坞以蒔云。追高人之劳躅，若惊風之吹塵，郁灵奇终古历。千秋万岁兮，若重遇乎斯人爰为之歌曰：昨日梅花开，今日梅花落。花落复花开，幽人不复作。再歌曰：花开幽人来，花落幽人去。人去梅花不复开，空山留与山僧住。山僧已去复几年，只今惟有种梅处。

补登高启

伯璵仲严我兄均鉴，九日弟弱於行，诸君亦吝於趾。诗藏先生降舍说我兄皆衣厚絺薄寒中人，空山无侣殆天，欲破除舊例，以桓景为不足效耶，抑山人滄鄙，不足与语，至嘉会之寥寥耶。然而良时，非莫同病。应憐古人登高，本无期日。我侪行乐，非为避灾。日来山逐雨收，石因寒瘦。未逾三九，犹是重阳。望再约方氏洵成、林氏渭访、吴氏增川，寻野迳勉赴山庄。凉日送暖、霜风未严。不似九日，风沙扑面，欲行不得前。宵有不速客数人，或留或去或后或先，幸聆诲言。顿开怀抱。无奈两三旧雨未到蜗庐，可怜二九光阴，都成乌合。囊中沽酒尚未，愁无林下吟，秋将无愿。有从子所好日以为期，篱间病菊待佳讯而抒黄。霜后林枫许倾怀而写赤，我惭梦得将检字而题。糕人尽费仙好，登高而缩地。谨启。

修复花山九老祠小引

盖闻兰亭宴集，逸少攫心，梓泽坵墟，子安兴喟。惟古人之踪跡，实后起所追寻。而韻事之销沉，亦吾侪之担荷也。温邑有梅花洞者，山接八公，社传九老。当骚雅联鑣之日，正燕师构祸之年，锄明月以种梅，步溪桥而索句，投簪远逝，分方正学之清风挈榼偕来，脩白香山之故事。其人其地，已足千秋。

矧復祇父，恭兄林居恒罔渝患难，则儻然印鲁之礼教也。先行后艺，程成趣足备楷模，则翹然伊落之宗传也。信友诚身王听竹不求闻达，则超然黄绮之遗徵也。二何则德饶东阁，咸籍继美於竹林。二邱则叔卫朝宗，轼辙齐名於苏氏。固已殊标卓卓大集，洸洸作领袖於骚坛，宾名家於理学。他若翁氏实斋，狄氏常斋，吉光片羽、传者虽稀，空谷足音聳然自远。凡在联吟之侣，并片潜德之光，匪惟楮墨流传，足动桑梓恭敬已也。乃者事阅两朝，山空一片，诗人去后旧社狐凭，老树不花，名山僧佔，访遗迹则荆榛莫辨，缅前修则诗卷长留，风雅所遗，无可考也。登临之顷良用尽然，窃念推少陵为诗史庙，或误为十姨。妥静学之忠魂，并且修夫。二女扬清激浊，吾党具有同心。阐幽发微，诸公无嫌好事，愿复僧庵重归社地，就营祠宇。藉妥吟魂，九先生既有专祠，乡先正皆堪附繪。瓣香未坠，夹道仍种以梅花。高士来游，沿溪可寻夫桃洞。庶几五百年基构，重新一统。志揆张未繆，是所幸也，岂不休哉。

代颂玉环县知事江晖午恢阅德政序

今夫白乌青鹿，侈嘉瑞於花封。黍雨棠阴，饰循良於墨绶。贡谏斯极，观化奚由。不知巡方調吏上考，首重廉公。衷古立言，郅治不矜材智，盖必克知宅后所宝，惟贤外物。莫滓其灵

台，蒸民自安於醇朴。莫谓一官百里，风偃草兮难希。须知千古寸心，月当头而可认。若晖午江公之治玉，有足称焉。公为安徽婺源人，薰德考亭嗣休忠烈。烹鲜手妙，制锦才优。上舍以积分而升强台，欲直步而上。初试宁海，政以时成。旋署玉环，民歌来暮水有源而不涸，镜屡照而无疲。所以下车伊始众望綦殷。七二岛枳棘栖鸾方恐羽仪，莫耀三六旬鳧鱼依藻谁知芘赖偏多。凡兹白叟黄童，靡不延颈企踵。思亲慈祥之治，以慰饥渴之怀矣。诚以玉之为邑也，海边一角民杂五方，本台温甌脱之区。待邹鲁承平之治，亲民责重。当府界废彻以来，制治才需。正民邦建设之始，而水旱之频，仍寇氛之充斥，更何论乎！公则智珠在握，慧剑当胸载皓首以盈车，指青天於咫尺。故於兴学育婴，团防警察，劝业禁烟，诸要政，任得其人，事无不举，甫及期月，具见一斑。虽属当官奉职之常，已具挈领提纲之妙。而且搜罗文献志书，备新邑规抚轡。卹囚徒狱市，洗旧时湫隘。微特项山论治介介不欺。居然韓信将兵，多多益办。牖其涯略，尚堪登考绩之书，数厥专长，尤足为临民之法。则见其折狱必平，而巨鱼罔漏也。察吏以恕。而害马必除也。赈饥截米有挹彼注兹之巧，而泽鲜嗷鸿，禦寇设防，本寓兵於农之常。而野无铤鹿，露方严於浑厚霹雳手掩耳不遑。行恺悌以精明。菩提心当前，即是苞苴尽卻不名刘宠一钱禄米自娱，无过陶潜五斗此皆颂之輿人贞珉，卓卓在人耳目者也。慨自时

局横流，官方扫地。攫拏为智，滑阖为能。师心者违，同恃才者絃。物无非肆，为狡狴利是锥刀。公独超然饮玉泉之一勺，我闻如是，颂生佛者千家，宜所居民乐，所去民思丰碑，并揭大吏已识其贤良，上县量移编氓，如失其怙恃也。已某等听谱宓琴，尝来偃室。南金荆玉、喜雅度之近人，春露冬冰更周行之示。我冀即真於下邑，俾得展其长材。忽奉省檄调署瑞安，瓜期已及，飞鳥难留。今则桃李春风，已开邻县蒹葭。秋水空溯，伊人欲彰。似水之头衔，愧乏粲花之笔舌。迴首弦歌，言子谁为武城。继起之贤，畴云尸祝。庚桑足伸，畏垒细民之志。

寿镜吾金先生秩晋一

盖闻五华之玉，登明堂太室而逾尊。九茎之芝，应祥风庆云而始出。由来人瑞，每致天飴，安得书生尽侪仙籙。游昆仑之圃，草木皆香。望蓬莱之峰，文章长价。景行徒切旷代希逢。恭惟镜吾先生，蚤岁游簧，耄年进德。味道腴以养素，託艺苑以栖。神麟趾騶，虞为关雎。鹊巢之应，蚌面盗背。从读书养气而来，洵天上之文星，亦人间号之福曜。兹以二月之望，为先生贤揆之辰。长日如岁，和神当春。长君澣等先期邮书其弟省议会议员篆谋，举觴於东洋里第。亲故驩然请侑，以辞先生。是岁又适重游泮水，祝高折之繁祉，纪典故於儒林，甚盛事也。

然而载道以文，昌黎氏务钩其蕴，敛福以德，洪范篇，特示休徵。苙虽不文，敢忘斯义。今夫户枢流水，惟勤斯无蠹腐之时，璞玉浑金，惟厚斯有贞固之美。本斯为断可得而言。先生为唐节度刘沔后。先世避乱，去卯刀而为金。龙种生本魁梧貂叶，世承忠笏经传旧德。方少翁之籛金箴和同声比子京於蕊榜，岂不翩翩公子，落落名流。乃自太翁雨岩先生以严州教授，改官知府，听鼓江苏。伯兄縵雲先生，京以选拔官郎中，宦游京邸。宦海萍蓬莫捐，顾复家山松菊亦赖栽培。先生勉事门楣，仰承提命，丝麻粟布巨细兼综。奩币酒粢咄嗟可办，岂父书之徒读，复子职之能供已。而兵起洪杨，官归京皖。尽室之播迁，孔亟中流之砥柱难支，先生乃与從兄镜人募民为兵，掘壕设堵，重历寒暑而益励。每亲矢石而奚辞筹唱量沙檀道济之长城不坏，戎兴伏莽郭縣蛮之金穴，犹存苍头奋击之军当之居然劲旅，鱼腹縱横之石见者讶为神奇。二老得由以慰心，诸昆亦因而让善矣。尤可羨者，园开桃李，游仿竹林，养才华於高堂，欢犹联夫同室。王氏兰亭之集少长偕来，韦家花树之宗，弟兄高会。固已聚太和於一室，传佳话於千秋。春草池塘，谢康乐犹嫌梦讖，对床风雨，苏子由共此吟情，而且考九官而作室。异爨俨若同居。按三雅以称觴，连枝居然一本。庭闈之内，食指殆百。煎萁无恐鞶釜无声。善气所周，已足消五行之疵，癘精勤罔間尤能致百体之顺从。此先生得寿之徵，亦平日读书之助也。若

夫岁在甲申人呼庚癸。当沉灶产蛙之日，有枯鱼衔索之悲。先生出高廩之红陈，拯沟中之黔首。满腔恻隐盛德、无难继之虞。众论纷呶成功岂转念而误。竟使人苏涸鲋感，切翳桑由是继率育以陈常学校修而美。参欧亚羞，数典而忘祖氏族谱而制仿隋唐，虽当垂老，居诸犹思兼济。遂令群从子弟尽效片长，攸然者见善若渴之，怀渊然者与物为春之量，宜其图成家庆。岁寒之松柏常青躬迓天庥，阶下之芝兰竞长也。兹者暖风入律，甘雨宜农苍帝锡以余芬，青精臚为嘉饌。摘余额颂。花好月圆。尔眉犁。醴甘穀旨。少君篆方。自省会假归。葛岭常春之藤。钱湖益节之藕。莫不罗为庭实，俪之几筵、跻堂酌酌。则四子衣莱，而王褒之三珠五桂可平分也。撰杖從游，则九孙立玉，而郭李之点颌，披簿难专美也。且也子已有孙，孙复生子。华峰削秀，椒沥分甘。则萧傲之荣不足擅逸少之乐，更有加也。无疆惟休，俾弥尔性，微特三鱣五马，艳夸先世光荣，只此四代一堂，已极天伦乐事。况复满头古雪，已逾杖国之年，一领青衫，尚是传家之物。东国再歌芹藻，谱大乐兮铿锵，南山同詠台莱，羨是翁之鬻铄。苙等凤亲猿鹤，生共粉榆。欣符嘉乐之徵，敢后长恒之祝。数大椿之遐算八千春而八千秋，步珠履之后塵，醉一斗亦醉一石。会见上庠致养修割牲省饌之隆，文雅当民国乞言，备三老五更之宠秩，常共百花而生日，长留二月之春光，猗欲休哉，何其隆也。

夏臣陈先生偕配耿孺人六旬双寿序

粤自康强，逢吉天呈。龙马之图，富寿多男。人效嵩恒之祝，直道依然。三代积善，必得百祥。矧夫花历，春翻初周。甲子丹炉，夜煖同守。庚蝇晒胜，迹於笙台，仙踪可即。数太邱之福，履驂乘皆贤。瞻弧悦之并陈，喜齿发之未老。用祈纯嘏敬，述懿修恭。维夏臣陈先生，玉邑誉髦，颍川望阙。龙种演重华之泽，凤鸣卜五世之昌。清欲饮泉，仲子夙推。巨擘人来惊坐，孟公无愧名流。旧德孔昭伟人，聿起髫龄。绩学立深雪於程门弱岁论交表严霜於管席巽宫。甫入廩饩旋颁九秋分贡，树馨香兰贤典重一官，司占广文清践，选佛场开固，宜碧海尤骧，丹宵鸞振，并汲明王之福，钟撞大道之传。乃桑梓之情，深顿冕轩之愿。冷爻占或跃乾九四而多功关闭国在中坤六三而元吉。此先生之显晦咸宜，有合乎古人之道者也。玉环壤错台温地，濒陆海际，文明之启鑰，尤提倡之需材。水曲迴戎多伏莽。忠干义櫓，众未成城，则团防待举也。水饥火旱，望岁云劳。白粲红陈，指困谁赠，则社仓待给也。行客问津，乘輿莫济。大江叠浪，利涉谁占，则义渡待兴也。山下泉蒙習宜师於鳩鵲，梦中孩弃穀莫遇夫於菟，则兴学育婴诸要政，又亟待其成立也。而先生家本素封人，皆青眼天下，事引为已任。阿堵视若傖来，民可为兵，仿周官沟卹之法。岁有余蓄，权王制，丰嗇之通，断潢绝港，悉成六达之庄。推食解衣居然众人之母，

胡安定造士而特设两斋，程明道积分而遂升上舍，水旱兵戎不为患。生聚教训可兼权犖犖，数大端得先生而始举者。又如是。由是平讼狱修廨署、置路亭、施谷食茶汤、治道桥寺院，百废俱兴，片善必修。鲁连排难无私兼金一掷，杜甫庇寒，有愿广厦千间。义奖仁粟，八仓同被和甘。盖瓦级砖诸佛亦叨庇佑。其慷慨好施、尤为难能而可贵者。然而货殖成书，史氏耻以弃。为取因果，立教佛家恒望报。而施先生发身以财为仁由已证而后任画家传淡处之神功不求名高手布空中之子既宅心之独厚，斯好善而有诚物，与民胞张横渠推之各足光风霁月。周茂叔蔼然可亲。宜其众望。允孚天庥，滋至图成家庆。称单厚於九如躬享修龄，博通人之一快兹者。梅风送暖，榴屿宜春。祝六十华筵进一双蟠实。安车束锦，正公孙待聘之年。华发齐眉，有德曜相庄之雅，淑配耿孺人名门令子，佳耦同庚宝镜常圆。拂拭而贞同金石副笄偕老，委佗而颂并山河。令嗣□□邑庠生，喆孙□□自治究研所毕业。生以家学之代承为乡闾所共式，拜捧觞称庆，芹藻香流，撰杖从游，粉榆治举，三心五噶聚来天上寿星。八变九成谱出人间仙乐。聃耳详盛德，心识前修，侑兹无算之觞，愧乏如椽之笔。揆而尊开海，正阳和二月之天。赋诗而义取南山上，岂弟万年之祝。

金君季逸家传

昔苏长公论，西京人物於贾生、留侯，三致意焉。然而洛阳年少，善用不若善藏。圯上书生，能忍而后能济是。故先时者躁后时者，需柔胜则挠刚胜，则折木鸡养。到游虚桥不事之天。牝马占来行柔顺无疆之地。若我所闻，季逸金君窃有取焉。君家讳秉璠，号曰季逸，邑水洋庄人，唐节度刘沔后也。先世避乱，去卯刀而为金遂氏焉。生成隆淮居然高帝子孙来自裘翩若太原。公子既仪表之特异，亦姿性之非凡。读书则过目十行，步历则罗胸七曜。以父中宪公命出后，其故世父奉直公时已受室，挈就所后母仲宜人居而养之。妇姑膈膊之碁隔院联为一局，母子檀栾之竹，异气俨若同根。君亦事母以孝，母亦鞠以慈节哀而人楣。恐妨君学，终制而游庠序，足慰母心。方谓秋宴苹芩，春官桃李千青云而直上，跻黄阁而无难，而乃璞献已三布登，不再纳货作贡。效登堂戏綵之风，课士分斋正选佛上场之日，是有命焉，非可强也。然斯时君父中宪公，方以明经总乡治。伯兄秉琮仲兄秉理明经，出则宰百里居则长一乡。弟昆羨慕群飞，刘峻则悲分青绶，丈夫爱怜少子触薶，亦愿补黑衣以君先后，其间使欲藉手有为。亦足称豪斯世。乃宦情之早淡，亦乡味之慵。尝洁膳馨羞、重补白华之什。焚膏继晷，新加黄道之仪，欲藏器於清时，乃陶情於酒国。曹参守法日惟饮醇，伯伦屏居时复中圣。当夫胜友偕来，游踪远出。较怀中之深浅

令起从头，競席上之雌戟惟战拇，故处或投辖而不遗，出则吐茵而始归，其胸襟之旷，意气之豪，固已横绝一世矣。夫枕机藉糟，固明哲保身之道。而沉机观变，亦儒生济世之心。君於民生国计，文牒报章，虽尚赋闲，居然留意。金樽尚满，玉山未颓。收人物於夹袋，聚国故为谈资，是以褚褰不言，早备四时之气。苏秦未贵，周知六国之情。一旦天既迫以时机，人复深其责望。君则奋然而起，毅然而行。缙父兄之志，事兵防与学校，交修愍时势之阽危，兴利及卹灾递举。当毫芒之偶露，已指顾之非凡，洎乎民国肇兴，厉行自治，群始被选为第二届省议会议员。寄四民之喉舌，坐商镜水稽山，筹全浙之治安。羞作寒蝉，仗马如革，除海门船捐，亦其卓卓一时者也。寻以县会改组，难其首选，舆论翕然推君，君亦慨然自任。激昂伏义，惟鲁连能卻干，金樽俎折衝，非淮阴孰当一面。积劳成疾遂以怛化，时论为君惜，实为全邑人材惜也。嗟乎！素书安在，进履何人，湘水无情，效沉奚卹，君独超然。以闲养其度，以饮全其真，以博涉濬其性灵，以疎通练其材识，策杖而起，如传黄石之书。辟谷而逃，欲与赤松为伍，方之古昔无忝名流。惟抱负之非常，遂行藏之不繆，若作朝阳鸣凤，一声定远彻云衢。只看伏息鯤鱼，六月已厚培风背。是以小试小效，克除当道之豺狼，一邑一乡，待作触邪之獬豸。

林君嘯秋哀辭

繫惟林子學理殫心，為國之瑞兮，為家之珍志。戛戛而獨造兮，作新邦之偉人。固已瑰瑋絕俗兮，曾何羨乎虞庠之粟，魯泮之芹。奮然東游兮！觀扶桑之日出。蹶躄担簦兮！歷寒暑而弗輟，唯物唯心妙緒紛集。口康德而手佉羅兮！謂強國莫先於學術，歸而講授。春風時雨愿子衿兮！嗣音戒鄉校，而毋毀國粹，不保而自存新，知以養而弗沮。譬宣鋒於遵人兮！南珠崖而北葭渚，君之為學，物索其頤，理鉤其玄。若鑪於大冶兮！顯質性之本。然困而加勉兮！遂挾其奧，而躋其巔，故其為教也，本甘苦於親嘗。憤而后啟兮！語焉必詳，搜肝膈而相語，傾萬斛之琳琅，體驗既真，聲譽隆起暇肆志於典攷，或寄情於山水，有園十畝，有室數椽。羌蒔花而藝果兮，豈徒將樂夫余年。謂教育之與實業兮！若魚貫而蟬職，選美種兮餉農，丈演新法兮！衷時賢既勤樹木，益思樹人。念子弟之狂，簡族學爰創，夫三成咄嗟而辦，巨細必親，曾不彌月。而教有具兮，課有程。余一見而嘆為神勇兮。誰知哲匠之成風，於運斤胡天不諗，雨風交惡，瓦飛昆明，灶沉宋國，墮東浙之文星。針誰指南兮！辰誰拱北，扇自動兮，風籟籟晷不失度兮，日胡落弄活機，於文房兮！墨自磨人，豈人磨墨。播心理於通闡兮！何紛紛之述作。憶昔交君藹若春和，挹君謙度、充我德符親，君能事白。華晨敷子，君能教青鐙味，多自慚形穉，困守窮廬，恨

非长桑君饮子上池水兮！以驱二豎而汤三魔。吁嗟乎人命危矣，天心难问，教育失其母兮。国於何競，巴人一曲楚些九招，盼灵旗之来，萃化元之里兮！鹤渚之郊，毋曰修短有数兮，厥志不朽，与邱山而共高。

陈母李太孺人哀诔

时维孟冬，婺星陨彩，家失典型。人怀寿愴，台雁一方，母仪安在。恭惟节母系出陇西，天畀金质，比洁长溪。惟诗与礼，淑此媿媿。重慈秉节，树范璇闺。敬修四德，如璧如圭。处为令女，出为贤妻。及笄甫届，嫔于颍川。饴兹天庾，侍彼丹铅。宾於王国，裘马翩翩。惟母之敬，琴瑟铿然。蘋繁錡釜，冢妇称贤。率尔叔娣，上事尊嫜。纫箴沃盥，朝夕侍旁。恪遵家法，勤俭为常。粟布米盐，并曰庖湍。服姑之劳，共妇之职。惟母之能，事罔不给。胡不数稔，良人遘厉。一索甫占，二竖踵至。长吉嘔心，针砭莫治。母乃泣然，吁天割臂。九死不辞，一生是冀。玉楼已成，修文召促。八月沉绵，一颺别鵠。撤珥毁簪，嗟夫无禄。惟母之义，盟心幽独。椎胸碎首，誓不独生。奈何未命，辄辘悲肠。遗枢在室，呱泣在床。惟母之慈，忍涕徬徨。勺饮久屏，血液早枯。乃徵乳媪，哺此遗孤。饥饱必讯，燠寒是虞。出入顾复，心与儿俱。且养且教，本身为模。成衣

制履，五夜一鐙。下顾稚子，上念运翁。念翁如何，年衰脾泄。爹户闻声，追踪屏息。匿身厕牖，防彼蹉跌。惟母之孝，足啓来哲。头角甫具，劳薪孔繁。遴尔师友，修尔饗殮。穆醴常设，陶荐不温。惩彼画虎，刻鹄是敦。三益三损，古训所存。惟母之正，诲之谆谆。去谗远佞，非曰寡恩。父书能读，母颜顿开。童军才冠，禄米旋来。贡之天府，为国储材。君龄方茂，君志方遒。思营薄宦，慰母嫠忧。母亦止足，戒母远游。愿广尔德，益演箕裘。惟母之谦，无忝前修。岁在庚申，洪水洊至。野有嗷鸿，场无宿穗。乃诏爱子，出肩赈务。宰肉能平，母心大慰。虽君之公，实母之惠。民邦新造，戎备是饬。嗣君奋然，宣劳军国。随营严江，主持文墨。闻疾星奔，趋承堂北。秋谷未登，风雨交逼。下隰高原，无常丰啬。母闻愀然，力疾而起。命彼家人，毋任多取。纵未全蠲，亦宜分予。惟母之恕，乡邻鼓舞。具兹懿德，宜飨遐年。板舆迎养，莱綵开筵。胡天不谄，厄尔方来。花甲将届，青乌忽催。岂从王母，归侍瑶台。茫愧菲材，旧同梓里。拜母登堂，获交徐孺。闻疾闻丧，衔哀靡已。铭圻无才，束刍至止。呜呼噫嘻，母实女宗。符彼坤德，代成有终。礼官修废，褒赠云隆。旌门表里，用彰母功。母功如何，夫志是从。敬修谠语，僭效书彤。

卷七 诗古迈体

秋夜散口号

长风卷纤云，草露蛩鸣歇。俯仰正寥寥，林梢叶华月。“涤砚吟”，有客藏古歙，受墨饱且酣。临流一拂拭，触手生云烟。下有吞浪鱼，乘之可上天。他日为云雨砚，应先雨砚田。那知头角具，夙好逐弃捐。还吸墨池水，一供喷激权。侧身附青云，掉尾乐深渊。嗟彼笔耕者，何日得逢年。

九日次父执裴明经诗藏韵

名山非诗人谁与共佳日。来游有先生，潇洒脱成迹。对洒聘雄谈，秋风同瑟瑟。胸次既高骞，云天逾空碧。豪情逸兴俱，乾坡为幕席。饮罢松门樽，踏破山头石。忽地春风生，五花吐词笔。欲令孟参军，随行作记室。语下鬼神惊，行门风雨集。清奇劲爽中，一一赴音节。自愧疏慵甚，附骥知难必。客散倚黄花，拈毫罕拊臆。

秋夜步月闻松涛

凉夜知秋秋到早，月色浸庭光皎皎。丛筠古柏影参差，仿佛空波漾苒藻。意欲就此掉扁舟，卧游水国穷洲岛。被发相隋

海上仙，飞渡名山拾瑶草。耳边忽闻澎湃声，不知何处狂澜倒。
仰看天宇正澄清，万壑长松风相捣。

秋晚山行口占

缓步翠微里，衣裳挂薜萝。疏风战丛竹，残日栖寒柯。地
暖叶红晚，山深云白多。数声樵牧唱，迢递出林阿。

四望罗云净，山木叶飞。林空雁影落，霜争蝉声稀。蓝色
入幽径，新寒逼客衣。归来北窗下，络纬声依依。

访梅花洞故址

佛住诗人屋，於今复风年。瓦颓苍鼠出，阶冷野狐眠。吟
响遗流水，荒蹊乱暮烟。空山如许住，我亦爱逃禅。

苦雨行

岁腊向尽三日雨市，市廛寂不闻人语。富家安稳贫家愁，
白眼打门多债主。门开厨冷铤无烟，儿童呼饥声谷暗。老翁抱
病啖糠核，子妇无挥捩絮眠。强呼使应声不出，以哭代言声声
血。云自两禾俱歉收，质衣换米度朝夕。衣尽沿村乞浆粥，十
家才无两家足。况当积雨暗荒村，儿女啼号不可闻。粟秕苗莠
供官尽，芥甘荼苦野无存。县官上岁 宽征额，谁知至今益需索。
破被败？没入官。债主登门尤无策。官租私债两交逼，大儿饥

死少儿瘠。土窗过雨瓦翻风，腹枵愈觉寒威栗。债主闻言泪满衣，空付债券持囊归。忍饥转眼麦便熟，切勿轻身委沟渠。

题林爵铭上舍丙恭凌沧阁读书图

宜尼吧山梁，庄蒙观濠濮。水以镜形理，镜心非水之乐书之乐。古来积轴浩烟海，谁能一斑窥渠禄。林君取精唾弃渣滓束高阁。高阁数椽沧江环一曲。听罢渊明泉，暇即展书请。风亭月榭自天开，观水书眼卓萃。天地一蘧庐沧海渺一粟，滂沛：入寸心？悠然方理足记取。沧浪孺子歌，毋足斯濯纓斯濯。

西湖观荷

世里湖光眼底夸，小舟一叶两入划。夕阳疏柳苍黄，里穿过菱花又藉花。

藕花红褪半成房，碧盖青筒一样长。欲识并头生处所，碧田田里紫衣裳。

林典史墓

吏有清名吏不妨，微员也好报君王。不顺认作逋仙后，许接孤山一瓣香。

逋仙墓

茸茸残碣长苍苔，人去山空鹤声稀。料应载得逋仙去，养在琼宫不放归。

断桥

万道垂杨两岸花，隔城人语任喧哗。千秋毕竟存公论，不许长桥属段家。

秋夜醉吟

秋光如此真萧索，月色晶莹透虚阁。开樽遥望四山青，长风凛凛星欲落。倚槛清吟衫袖薄，座客饮罢觥筹错。醉余拔剑发狂歌，叱咤一声振林壑。更阑客散谁知音，隔冈隐隐啸猿鹤。

病中书闷

床第如桎梏，衣被职狂狱。为缘反为仇，百端争羁束。欲食系余颈，欲行紮余足。天宇自宽闲，病躯何局促。忆昔安如日，乐趣何优渥。花草入平章，山川恣遐瞩。今为在韜??鹰，昔若摩空鹤。苦乐一相形，寸哀倍枵触。力疾骂病魔，捐削诚惨酷。床头利剑在，好去毋荼毒。

游花山

野树迷溪径，闲云锁寺门。梅花消息冷，枫柏自成村。

过林氏废园

二十年前地，高门护巨绅。衣冠如昨日，亭榭倏蒙尘。蝶泣无花树，??迎别主宾。回头问风月，烂漫几经春。

自昔为园日，搬移煞费神。廊高天肯让，心巧世何嗔。沽酒呼时望，囊钱借后人。世情恶衰歇，鉴此早抽身。

小园

小园不种花，春花飞入小。小园不种竹，春笋亭亭立。天地自施生，化机何洋溢。坐对碧琅纤，落英为枕席。泉声松杪来，云气萝窗吸。黄鸟时一声，和风扇八极。旧雨长苍苔，幸乏俗人迹。闭关自吟诗，消此舒长日。（右春）

为园人喜大，我喜我园深。春阳储可久，夏暑远不侵。扶疏园外树，幻作半亩阴。飞柯接檐溜，两两舞幽禽。蝉声落高树，逗出松间琴。主人赤足坐，一卷《南华经》。好风自南来，时雨与之并。世情多炎热，聊以浣烦襟。（右夏）

南飙忽一声，金铁皆响应。红叶打门来，遥天递秋信。金粟何处香，贝阙渺难证。但见玉蟾蜍，耿耿悬明镜。风寒雁渐南，露零菊初孕。佳节记登高，延宾扫三径。金钟抱墙鸣，凄

凄满清听。把酒坐夜阑，百篇书秋兴。（右秋）

冬来万卉摧，竹与松交秀。金谷尽荒凉，我园却依旧。云低笠覆檐，冰结柱承溜。积雪耿寒芒，幽室明於昼。疑在水晶宫，顾影皆麤？？垢。不知红梅开，鼻观香先透。园门扁不开，春光已渐漏。索笑向癯仙，羞作袁安卧。（右冬）

天马山登高

我家家在花山巅，石牛磊落傍云眠。才人览古迹，秋来为敞登高筵。骑牛向天天无边，菊酿芳烈牛流涎。矫首云天一阖辟，天马横空来自天。丹枫黄榭错满鞍，络头羈？？随风烟。藤萝挂石扶空磴，藻叶蘸霜铺锦鞞。还沽山庄一樽酒，呼徒着屐跨其颠。海潮南起欲到前，浊波浩淼万顷连。西北诸峰争蝉联，百盘秀削冠一偏。锦屏璀璨向东悬，樽的辉映失百千。众山奔赴尽如马，此马形势尤高骞。举酒酌马马不饮，对酒看山山增妍。茱萸偏插香可怜，马乎山乎是保缘。我闻穆王有八骏，八荒腾踏蹄欲穿。又闻骐驎服盐车，太行欲上空迢迢。惟尔栖託还尘境，捷足肯争凡马羸。神龙有种缮真性，不受人世箠与鞭。重阳佳节人来往，秋草秋花年复年。眼花耳热众宾散，直欲乘之记费仙。日暮归来牛背望，夕阳山影乱鸟鸢。

白菊

彭泽归来两鬓霜，篱根褪尽旧时黄。秋清月落还看影，夜静风来不碍香。洒使衣裳同一色，宫娥面目浑相忘。西风玉女非无意，不许繁华擅胜场。

不随枫桮醉重阳，留得花开自在香。明月清风参色相，淡烟浓露和明妆。双老眼同秋冷，万缕芳心伴夜凉。不御铅华独风味也应愧煞少年行。众香园里谢花铅，玉立西风剧可怜。夜冷含葩疑斗月，篱疏弄影欲迷烟。修成冰雪三生业，绘出风霜九月天。寄语陶公如爱此，莫邀红友溷清缘。

参罢花中玉版禅，亭亭素影倚秋前。吴妃肯教脂污口，陶令应伤雪满颠。香带晚云空是色，神凝秋水淡无边。一枝濯濯东篱下，不受红???半点。

伯乐啸山林先生景舒以半船楼诗楼诗嘱题久未就夏间又以留别同人诗寄，示因成四律。

前有逋仙后白峰，君家风雅属真宗。百年谁具回澜手，此老难追绝世踪。万丈光芒今李杜，一腔闲放古羲农。岩犹认来游处，万首新诗一倚筇。

尺钞书一尺诗，半船楼上日迟迟。少微星宿中天耿，大法轮回老手持。白眼狂因看世懒，青镫味待课孙知。子平婚嫁今将毕，茗盏炉香正及时。

不知浮利与浮名，劲敌常寻五字城。论鬼却嗤人变相，度

僧时为佛如盲。东方生以诙谐寿，南极星徒岛屿明。事业千秋诗一卷，担头未为布衣轻。

常因瓜葛得躬亲，扑我胸中八斗尘。洛下文章皆后辈，隆中来往尽高人。莫传衣钵空持偈，每到歧旁欲问津。今日花山尽寥落，好来吟响续先民。

夜宿灵岩遇雨

紫金蛇掣吕仙亭，明晦峰峦巧换形。暴雨波翻龙嶂白，早春山拥佛头青。紫阳四字缘崖读，霁双岩带水听，一夜佛灯明不灭。老僧破道写黄庭。

雨余草树碧於油，飒飒西风误作秋。幽涧上临千仞壁，荒蹊难觅五层楼。一双不借云根踏，十二奇峰眼花底收。诗钵钱囊行具足，逢山何惜久勾留。

夕阳返照锦屏东方壑千岸在眼中。虎踞石迷天渐暗，宝珠茶放晚犹红。苾刍饌进离泥笋，汗漫游随印雪鸿。龙井茶，烹龙鼻水，饮余香尚带枯松。

题僧拜石

石不能言，尔反屈膝。不学生公，仆仆何益。

题卓笔峰

泼墨淋漓写万山，圆成卓笔杀人看。世无燕许扛难得，自向长空绘蔚蓝。

题剪刀峰

龙女何年去不回剪刀抛掷旧鸾台。及锋不试飞空布，孤？？千锤百炼来。

能仁寺四眺

两峰空兀一溪屈，万竹移径能仁出。对面千叠万迭来，两朵芙蓉青欲滴。火焰一峰南插天，大镬破缺埋荒烟。相传御火因铸铁，铭志剥落尚记年。铁镬犹存嘉福毁，何似当年付一炬。僧言明主避难来，全浙委输供故主。能仁重建百余年，僧徒星散少庄田。我闻此言长太息，始沧桑有变迁。寺前两树宝珠茶，白者已死红者花。花开花谢山僧老，至今惟有旧袈裟。

游湖

偷得浮生半日闲，闲行领略旧湖山。蓼花红到荷丛里，秋半风光最耐看。

和吴增川韵

诗境贫如注漏??，拈毫煞费短长思。闲成趣后吟方觉，
枯到肠来懒不知。未便题糕轻梦得，敢因识曲诮钟期。寒缸剔
把佳章和，万壑松涛怒起时。

谁挥健笔扫千军，分得余香许共薰。三北战功羞管子，九
秋时兴羨司勋。勉搜俭腹藜和苒，久冷名心水漫云。吟罢自渐
巴里响，不堪大雅兴同群。

石夫人

霞作胭脂雨作油，上苍权当小妆楼。世间石汉无多少，不
是夫人强出头。

空间尊名守寂寥，本来金谷一妖娆。繁华姊妹居何处，争
奈芳心似火烧。

风闻嫁得石将军，何日铜符两地分。不栉真堪将将也，梁
家红玉许同群。体质坚凝信有余，风饕雪虐尚何亏。柔肠男子
应羞死，巾帼须眉反不如。

家国犹须内助贤，都因谈笑起烽烟，诰对岂貌承平宠，第
一贤良在不言。

题林画师渭舫璜小绿天

谷笈笥山山群玉，七贤已渺谁追逐。怀素何人独钟蕉，所居无
竹未免俗。翠云苍雪共成园，幻作林君绿天绿。林君结交多雅

士，逸致芳标本如此。曲罢还鼓湘灵瑟，诗成欲现洛阳纸。种蕉为纸竹箫，揮墨一罢歌大招。仰观造化小儿耳，竹风蕉雨自萧骚。竹凌云蕉蔽日天，欲无功由人力，画师设色巧难言。空碧瑶斋浮一一，却笑休文不解事，为竹弹蕉意。君子无争岂有争，竹心自虚蕉心细。君不见卫风绿竹美猗猗，王刍惹箭辨最微。绿绿通假蕉刍转，此物此志是耶非。我学说文苦不足，会闻海棠聘萼绿。此君权配绿衣娘，君子美人同一局。我为诗君图此情此景古所无。八万四千年后天亦敞愿携此卷，重构宙合以与吾辈相欢呼。

述怀（时年三十有二光绪丁酉也）

溯我生世来，甲子一百九。长我兄有三。姊先我最后。仲叔早辞尘，失我左右手。惟我及伯兄，空山共株守。诸姪务耕樵，衣食粗能有。余日事诗书，聊以糊余口。世途险不知，名场困已久。身无尺寸长，恐同樗栎朽。惟幸堂萱，犹耐风霜受。握管写胸臆，浇愁不用酒。

我父遗我去，倏易八春秋。生前多劳勤非徒筐筭谋。著书百余帙，腋集白狐裘。小心何抑抑，大度何休休。蚤岁负岐嶷，便匪常人侑。家道道际颠沛，代耕觅束修。米监家迫，书册囊中留。暇辄展卷读，继晷焚膏油。名途苦蹭蹬，强仕郡庠游。学老名心淡，家贫活计求。依山树桑竹，呼子词羊牛五鸡二母

彘，十稔千金筹。还收自然利，家堂乔无忧。晚岁学弥进，师仿刘宗周。白发生还健，黄金散不收。垂老尚为仇。教学宗古道，论文鲜污流。大义苟或紊，切齿白双眸。生平敦孝友，岂惟忍诟羞。顺亲自有道，爱弟好无尤。终能驯傲象，同室靖戈矛。教我笃亲谊，助我慎交游。积书课我读，内行董我修，惧我耽怠惰，谆谆日一过凡事豫则立，言犹在耳不。寒窗校遗籍，力学谁与侔。我父不可作，此恨悠悠。

母年七十三，形神已非昔。鞠子之悯斯，宜爱西山日。忆当家不造，迈祖遭奇疾。晨昏乐顺承，诟詈置罔恤。父出课蒙童，无方艰就食。数米析薪炊，膳食未尝缺。门户一身持，岂徒事汲爨前。屋破茆乱飞，风雨无时八。冬冷衾犹单，天晴衣尚湿。晨起课耕樵，一镫终夜织。我父初忧贫，子母权生息。初闻簪脱姜，旋看券焚薛，愿损内顾忧，勉事诗书业。强仕泮水游，亦繁母氏力。感此愈勤苦，手足无休歇。食指日以繁，劳悴遑敢恤。辛苦持反纪纲，稍稍裕充积。止足辄便休，怜贫拯危急。慷慨乡惠邻，惠问通疏戚。教子以义方，爱子母姑息。经营五十年，儿壮母日瘠。愿天假之年，得效涓埃力。

我姊迈不辰，米监苦掣肘，念此同根生，所遭何不偶。归时有庄田，夫愚不能守。索债人打门，割忍膏腴亩。阿翁忧贫死，夫向他乡走。迈姑坐堂前，儿女啼其后。长物室都无，犹有阿翁柩。汲爨兼扶犁，憔悴何能久。抱病望夫归，归时仍空

手。问我且如何，逆来惟顺受。勉力事姑嫜，培使本源厚。危苦生清明，彼愚天或牖。子已渐长成，切勿兮游手。剥复若循环，屯蹇或不久。

三已遗四子，两少颇聪慧。欲令姑主读书，恐乏谋生具。驱之事田园，十叶书香坠。拙母日姑息，智愚两足虑。画虎将类犬，刻鹄尚类鹜。当及幼少时，农闲勤督课。惟是读兼耕，庸有啖饭处。

生男随伤，存者惟二女。长者已五龄，幼者方哺乳。食指日以繁，呱泣杂笑语。恐因肺腑煎，屏人时独处。业在伦理中，此心鸟能委。生女与生男，原不分尔汝。但当谨身修。毋教门户毁。本立道乃生，昔贤无多语。阶下种宜男长，待三春雨。

酒 熟

土瓜作酒一月熟，和以冬米白药??。甑头置水甑底承，芳气胜兰液流玉。年久老薪人 炊，酒香薪香满一屋。今年种兰只一畦，白酒未熟开已齐。干枯入??英人酿。其香尤烈甘如饴。徒知化工本无物，眼前朽腐皆神奇。命妻两甕分浓淡，切勿囿囿轻把盏。浓者力健粗人宜，淡者留为上客啖。我辈固多如水交，忘言对酌不知晚。肺腑巩难酷烈胜，反致红颜成白眼。我不能饮酒力加，开樽一酌眼生花。醉后亦醒醒亦醉，但

见须两颊生微霞。

长至日偶成

数日寒无奈，重衾夜不温。一阳忽已转，觅句趁朝暾。群松激涛响，残菊蘸霜痕。呼僮市村酒，酒浅不盈樽。一酌复一酌，不觉红颜醺。

我兄修阳德，呼儿视荒村。教加一坏土，悯此无依魂。叹彼累累者，岂尽无子孙。良莠不可必，贤愚亦何分。各为其身计，衣食日驰奔。泽以五世斩，人谁百年存。生者不能养，况彼邱与坟。

后元夕一日全丙弟林秀川赏梅月下

十五日正圆，十六月未缺。相将踏月行，空山春欲活。但闻梅花开，提壶人林樾。西风一霎来，满地霏瑶屑。花香月亦香，下此杯中物。薄云来翩翩，笼却当头月。却呼姑射仙，同寻水晶阙。举白共浮君，喜君具仙骨。三反齐竹松，岁寒尤奇崛。时节况方春，百卉谁先发。同君醉一壶，云天逾空阁。佳客出逋仙，主人惭松雪。天女最多情，散花满一窟。酒酣喝云行，娟娟一明月。

对 菊

一年不灌园，菊老蒿欲荒。败叶丛知干，犹放秋来黄。人方尔太懒，我谓人太狂。花自具彼性，人力何可当。灌之日已数，曝之乃易伤。遂其生植理，憔悴夫何妨。正气秉天地傲骨撑风霜。辟彼贫家子，何有乳哺伤。饥饱并致疾，此义可共详。陶潜能达化，所以终徜徉。

六出梅

今年冬暖天未雪，一夜梅花开六出。雪花六出兆丰年，梅花六出却何说。欲索梅花笑，聊为梅花解。梅花瑞与雪花同，平章由我人休骇，雪为二麦瑞，梅为百花魁。徒教脱尽寒酸相，九九寒消春便来。山人颠倒作奇想，名非其名象非象。还对梅花倒一樽，如丸冻日枝头上。

踏雪口占

曾否游仙到玉京，五城楼阁望中明。石丁空作蓉城主，开到人间更可人。

一双不借踏云根，喜我心胸朗十分。最好北风吹不断，银花飞傍发鬓。

灞桥驴背冷萧萧，何似围炉酒一瓢。游罢饮酣还瞎睡，休教诗思溷良宵。

卷八 诗古近体

题天山立马圆

我闻东山跨鲁邦一登泰山小天下。又闻地势西北高，乃知东南诸峰登者所见为尤寡。行当尽收四海广轮入眼来，恨乏穆王八骏马。忽从??里见天山，公能登此真健者。天山之高高罕俦，为天之柱帝之邱。冈峦起伏雉堞见，相传此为古伊州。公当摄篆作少尹胜日常为策马游。据鞍直上意气壮，下视名都广邑皆作芥舟。浮言从西出嘉峪关，入千道路何漫漫。九曲历尽黄河险，三峡经过蜀道难。穷站富站十有六，火川垒馋岩。虫沙绝哉家乡远，到此风尘一洗颜。回部粉粉方构逆，卫青幕府扼衣人，盾鼻挥毫露布成，凯歌声喧履齿折。酬庸不羨好头衔，且喜名山留宦迹。瓜代人来归便归。马前桃花马后雪。两袖携来漠北风，当头誉起关西月。谁欤此志游踪。老迂之笔铁可屈。我披此??尚范然，及闻公语始信。惜公归来何太早，不将须发画凌烟。喜公不恋此五斗。年来时卷已盈编。自恨足迹滞片壤，咬文嚼字年复年。春晚一观龙湫瀑，秋来又坐鉴湖船。安得冰花三丈诗一寸，远海高邱随公快执鞭。

为人题王某天山立马圆

君不见羊公登岘首，投碑东海蕲不朽。又不读屈子离骚篇，

阊风縹马何茫然。丈夫不能肘后相印文围，亦当远海高邱一放目。乃如钻纸之蝇辕下驹，自笑余生太局促。先生摄篆佐伊州，时雨行春月照秋。天下便欲马上治，策马直作天山游。天山山高天欲隘俯视黄河裁如带。據鞍顾盼意气雄，龙媒嘶声彻上界。天山雪花大如席，先生驻马天山立。天山风色冷侵衣，先生盘马天山归。归来关陕摹碑碣，言瞻尔碑定我集。携来好句欲惊人最佳五古与七截。我生未行万里路，欲觅天山披绢素。为问??中倚马人，文章疑得江山助。

送画师解芳荇臣归黔中

黔中山水是家乡 绮岁游情觉热肠。 羈迹横湖将卅载，旋归已带鬓边霜。

身世浮沈九转丹，清平为福不知寒。 巫江峻急钟奇士，枳辣何堪宿凤鸾。

羨君花管夙生香，写翠偏众芳。 赠我满堤春几许，今携何物到家乡。

每因客里动愁春，今趁春归亦快人。 四野暖风两岸柳，扑人到处有芳尘。

欲赠长征一物无，小诗聊学庾肩吾。 怀人天末从今始，行过吴都又蜀都。

次王少尹夔友题所临岳忠武书 两师表柘本七十八韵

古今数伟人，天若植之骨。一去万千年，精灵盎纸笔。出师归表文，至今何耿耿。再碧血裹丹心，都作日星炳。彼此若为缘，时代何后先。汉相与宋将，正气共一团。王公奇伟者，临摹精且与。笔气参柔劲，腕力澈中边。断如渴骥下，续若怒蛇延。言记文正公，运笔作两股。疑是阴阳气，龙起伏成龙虎。起气力舒，虎伏气为鼓。龙向笔端来，蟠踞护军府。武侯志来贼，大节照千古。少保志忠君，班师归旧部。正气谁可奸，师出与师还。师出魏未灭，师已弹。为臣何真忠，忠乃真愚。偏安业已定，文出复奚须。专阃抗君命，奚必归帝都。但尔忠臣心，自怨恐自诬。君召不可诺，致身敢爱吾。武侯既前导，少保循其途。两表具官箴，班师想赤忱。方意敌破竹，何期牌促金。江山剩半壁，寇虏未生擒。驻军拜祠堂。古柏都森森。援笔书二表，和墨血涔涔。恨今五丈原，不逢诸葛公。虽无鱼水契，尽瘁且鞠躬。汉贼不两立，金魏将毋同。上表自撻心，写表空运肘。二圣轅未还，三足鼎何有。亲贤国乃隆，此言真不朽。谁知卖国人，君僚忍两？？。欲为谢阙章，责躬谁引咎。慷慨笔自走，踟蹰首欲搔。如何皇宋运，厄更甚金刀。权懿多故国，费董无同曹。黄天荡方扼，老鹳河又逃。金贼不卒殄，壮士为呻吟。子期不可遇，欲焚伯牙琴。写罢掷笔去，砚铁铿

哀音。忠臣岂鲜济，汉宋运方终。何公丁盛时，宦情偏不浓。
出关人千里，绝塞饱霜风。幕、府挥盾鼻，狭甚短兵攻。未立
天山马，先摧回部锋。伊州赞治理，两捻早回踪。岂学范少伯，
鸟尽早藏弓。归来楮墨亲，遗拓搜凉肃。发篋披大文，振触添
衷曲。文办齐梁诬，笔诛桧喙恶。磨墨拂瑶笺，胸襟一展拓。
临池思古人，壮怀犹未足。正气如可干，盛名亦可托。论古逞
奇情，中心转舳舻。我夜读公诗，长松声谡谡。学歌梁父吟，
山林自在复，还读良马对，危坐心折服。五字登长城，一步一
控惚。山石疑歌韩，繁露等读董。公诗一气呵，我笔千钧重。
诗才堪造凤，笔法更如龙。欲乞书绢素，玩堂壁间供。武侯有
正气，生前相业崇。少保有正气，身后膺荣封。传神得妙笔，
心性假陶镕。养吾浩然气，沛乎塞穹窿。恨乏公才器，驰驱西
复东。能文亦能武，终古几英雄。

洪君谋九陈君迂波避暑常乐窝余偕

画师林君渭舫往访宿焉

挈件寻山趁夕曛，竹林清趣许同分。安排佛地容吾党，收
拾炎威赖此君。夜气凉生浸槛月，吟身闲似出山云。都南香爇
金猊鼎，坐到更阑乐可云。

消夏词

赤帝行天驾火龙，寻凉避暑笑匆匆。人人自惹忙中热，热上心来术也穷。

难录雪窖与冰天，寻得翻嫌冷可怜。争似正襟危坐好，暑寒翻覆两无权。土窗新长碧琅玕，六月能生一味寒。我不爱寒翻有竹，虚心无处不平安。

孤篷短棹系垂杨，荷荡风来水亦香。莫道暑天人易困，苍苍也有好排场。

次训导童柘臣花山访林仲严韵

小筑名山近，梅花共一村。社荒泉谱韵，僧去鸟迎门。何幸高轩过，诗成古意存。寒林知有约，相与证灵根。

腾地宜佳客，闲云共出山。两家沆瀣气，数里竹松间。坛席开千古，文章见一斑。何时重过访，笑黛拥螺湾。

童师柘臣以小泉村近花山易名为消寒因叠前韵

自锡消寒号，溪山别一村。芳馨流古社，春意盎柴门。九老踪堪继，三生约自存。崇词何日建，大冶起梅根。

消息红梅露，村名雅称山。吟诗春十里，庇土厦千间。客是兰亭彦，人谁玉笋班。宗风提倡后，吟响满溪湾。

即景

秋夜凉如水，重衾尚堂寒。草出声唧唧，倚枕不成眠。月色穿窗入，呼儿起读书。一镫红似豆，夜坐乐何如。

中夜不成寐，儿女声嘻嘻。扒窗望山色，参横月落西。

题云阳书院

君不见有唐郑氏作司户，吾台文化开初祖。又不见有宋蒋氏作鉴仓，横湖学社开云阳。兴废已千年，谁令栋宇起荒烟。承先之美开后学，里人叶子此其贤。叶子今年过六秩，云阳土木工始毕。问渠经始在何时，正是乃翁强仕日。前后经营二十年，妙手空空欲补天。千金裘匪一狐腋，上栋下宇岂偶然。不有叶子能孰绳，蒋氏美不有蒋氏。开其先，叶子何以能继起，黜堊丹青一望都。叶子白发已婆娑，级砖盖瓦自嶙峋，蒋公灵爽此焉存。寄语学子顺勉力，勿使房栊生荆棘。但得英少蝉联起浙东，飨祀名山应有日。

咏雪用苏子聚奎堂韵

书斋风定响纤纤，夜冷重闾扃不严。一色看成瑶圃树，千车齐覆太行盐。镫昏室暗明如昼，天曙云低欲近檐。冻墨乍呵诗未就，冰花已上兔毫尖。

勉邀毛颖乱涂鸦，三白欣占麦满年。腊尽忽明千里月，春

迟早放一林花。蕉窗幻入王维画，布被寒深杜老家。万顷银山双不借，寻诗那辨路三叉。

余馆楚门之玉海学堂春幕馆徒双剧未归，凡籁俱寂。有小络？？娘穿窗登榻，清响逼人。明日还集阶下丛蕉上，如是者应日。

山城粒管正嗷嘈，羽舞霓歌奏六么。一串珠玑檐外落，纤纤风格倩依描。

雨丝新展绿天成，油碧房栊贮美人。莫道他乡春寂寞，一伞偎傍属乡乡。

和戴梅枝女士辞馆韵

谁肩圣道济艰危，怒发常冲白接篱。闺阁多才还复古，文章变相但趋时。几人见鬼思涂面，我辈谭经谬作师。尔日颓波如可挽，好诗应共女箴垂。

除 夜

爆竹随风响彻天，梅花香里又残年。文章未卜他时价，诗酒聊盟隔岁缘。壶水暗回春刻漏，镫光寒照旧书编。苦吟且了今冬事，转盼芳菲斗万千。

围炉觅韵愧难二，破级疏棂近冷风。债主到门双眼白，邻守岁一镫红。囊无涓滴难沽酒，文有精神可送穷。昨夜故园晴

雪里，红梅消息露墙东。

引被寻眠却不眠，重将心绪付桃笺。投怀女幼潜新口，插架书多抵近田。鸷鸟多材宁识命，蠹鱼无劫可成仙。呼妻当酒权烹茗，闲对卢头袅碧烟。吟罢更阑思消然，明年事业变从前。诗编待我从头补，岁月随人转瞬添，册战闲多非寡福，一生累少算无钱。来春但乞东皇宠，五色花开到笔颠。

寿临海秦明经某即送榷友左丞 之四川任（时在京中作）

君不见巾峰双帟凌苍苍，黄华仙人游下方。又不见南极一星悬朗朗，光气址冲三台上。三台老人以秦氏，家教渊源在经史。青灯书味饱深宵今日课孙昔教子。一家宝树接三秦。凤毛麟角起振振。有子成名翁已贵，九重宠命况新膺，文朗捧烂，桃源仙子胡麻饭。亲朋酌兕快跻堂，赤城霞彩觞同泛。嗟我回道椿庭空，欲亲遗者瞻德容。 医邛待西至，期头晋祝效华封。

冬至术怀（游闽作）

吹尽葭灰又一年，梅将手版换青毡。宦途底是销金窟，身世防如下濂船。鬓发白添去岁密，头衔小愧几人先。个中早已安排定，搔首何劳人问天。

蓊门烟对系春愁，回道征尘认马头。避热却寻山外寺，浣
烦曾觅酒家楼。藩封爱土空尘牍，宗匠抡才只拔尤。米大官儿
金比贵，栖迟京氏尚经秋。

自掬情绪自敲诗，??线添长我不知。愁思浣从寒雨后，
吟情涔人晚钟时。苔岑同契来佳友，禹策无才负主司。握管中
宵频起坐，夜镫炮后月临池。

八闽粳稻旧知名，旅食人来满一城。宦海锱铢持蚌鹬，蛮
方风雨杂臙腥。谁将积敝厘财赋，聊假新诗答圣明。经国由来
顺远略，汉家桑孔，枉经营。

和陈韵圃见赠韵即以留别

旧雨话今时，匆匆又远离。横湖寒夜月，千里照相思。
岁月销磨易，生平悔读书。赤松如可访，相约共谈虚。
一夜留人雨，榕城恣宴谈。长城聊此筑，争似美中含。
自笑天南北，终年走俗忙。三春晖莫报，含愧祝安康。

无夕大雪

一春风雨最无聊，花林园林两寂寥。为买笼灯烧短烛，笑
看儿女闹元宵。

北风吹雪粲银花，灯市游人定已赊。不若山间风物好，珠
林玉杈望交加。

吟残稚子又催诗，兀坐拈毫得句迟。便欲拨云呼月出，冰天雪地慰相思。

龙山谣（有序）

龙山在新河所北，邑志称镇岩山，是头角嶙峋，俗为龙山。中有仙迹仙床诸胜，族人於此祠祀节度公祠。前有堤，游人足成八景诗载人前谱。余以命名都涉元虚非所以为宗人劝，故效长庆集体，并志之谱云。

少诵宣尼书，喜人尚践迹。我辈况中材，何事叩虚寂。闲云野鹤本无踪，炼汞烧丹徒幻说。惟步亦步趋亦趋，六经四子多层级。人若慕飞仙，铁鞋踏破无从觅；人若志圣贤，可以升堂可入室。作诗为语此中人，莫羨王乔来飞焉。（右仙？？勉践实也）

一床明月一床书，天外飞天仙乐不如。莫道彭？多寿考，长眠短觉复何为。百日习一经，三冬足文史万卷。？书腹笥罗仙人。应笑痴眠死，安居乐业便神仙。同床各梦本如此。我不羨黄梁一炊天下变沧桑，我不服金丹九转更此读书难。福地嫫嬛知不远，榻前休任别家鼯。（有仙床最力学也）

有龙山则灵，无龙山便丑。岂知灵气自天钟。龙乎山两无有。人名亦山名，头角供摹刻。人名山不名，顽石谁任忒。匪曰山川钟毓人人名，足壮山川色。不愿山成龙，但愿人成山。

一篲九成功，不已须臾平地森？岩。（右龙山劝立志也）

朝餐风夕饮露有水蝉，不饮此井从何作。想自世上多贪泉，蝇营狗苟争相赴。特以风露遗，为彼清廉助。饮水尚思源，祖德遥堪溯，顾名当思义，物趣高堪慕。蝸蟾沸羹无几时，天泉一洗清如故（右蝉井，惩贪污也）

邵子先天理，水石居二行。苏子钟山记，水石成一声。二行天所付，一声物所成。阴阳气质互变动，水耶石耶皆分形。吾欲寻水源，罅漏千尺深。吾欲敲石髓，铿铿尽顽冥。谁知一泓擎石出，可以浴德可澡身，真髓真源此其在，千岩万壑皆孙曾。（右流水岩，怀源本也）

元元圣祖五千言，不言白日升青天。何自禅宗剧诮说，上无梯空嗒然。乃知登天难不如登山易，岩腰步步拾级升，直上巍峰旷无际。古人读书譬登山，为人同此上行志。成佛成仙两渺茫，卑迤致功在孝弟。（右梯云石，尚近取也）

词成护以堤，词在堤有主。谁知五十年，彼此异成毁。驹倏务利便，周云弃如矢。邱木受剪伤，牛羊互成市。无以妥先灵，曷贵有孙子。仲冬集畚插，族人欢然来。归阙不日堵，嘉树逐春栽。词乎堤乎两如故，登堂展拜颜为开。乃知创业难，守成亦不易。堂有通津墓始庵，艰难始规复旋成废庞。邱墓可以千年存，愿尔后昆能继志，（右南，言守先也）

迂浦东流清且涟，高高下下多良田。禾黍同膺明德祝，谁

因灌溉思随利。吾邑东档南各竟海，湖夕冲突难当怜。畴使斥卤成膏沃，台中行部来新安。筑闸有六此其一，厥利尽地功争天。时宋嘉定乙卯岁，摹崖有字尚记年。历元而至明正统，吾祖自黄此卜迁沿。流聚族事耕作，歌衢击壤声讙然。篝车用满食用足，奚翅三百困与廛。我行此浦迂兮回，我临此闸拜碑前。千载若无子朱子，安得宗人果腹眠。（右北闸，怀明德也）

和王笱山见赠韵

晴旭出高林，溪山破宿阳。听谁歌水调，于此见元音。人比远峰好，春从别径寻。晓风杨柳岸，韵事未应沉。

新晴迭前韵二首

溜声隔夜断，晨旭漏花阴。远树绿如滴，幽禽会巧弄音。客怀随日朗，诗味逐春寻。坐听山泉落，流觞任醉沉。

天气重三好，朝阳？夕阴。欢成修禊约，耳洗右泉音。野意含山润，花光隔水寻。东风时识面，几日睡沉沉。

悼 亡

溶溶绿阴，交交幽禽。我怀如何，忽忽春深。尘生破镜，月照寒衾。抚枕不寐，大海石沉。

言思子归，我喁子于。朝颜萎风，曾不须臾顺。孤灯莹然，

执手岂虚。莊捷？栩栩，同在华胥。

告余病瘳，过喜疑梦女雏呱然，我亦惊恻，车风恼人，剪窗人缝。闻尔空阑，寸心万孔。

风声雨声，却倚空庭。与子不见，闲悉转撻。缣书断句，酒倒空瓶。子如我知，何以为情。

卷九 诗古近体二百二十二首

和王知事儒？前赠韵

官方士习世谁珍，拔剑哀歌苦带辛。棋局掉翻新国手，浪花淘尽旧文人。行来世路方多棘，淡处交情绝点尘。腰囊萧然归便好，当年无员赋莘宾。

一曲歌骊倍可珍，尝来宦味莫辞辛。山深桂密风招我，秋老林疏月近人。半载诵弦瞻气象，十年燕汴悔风尘。而今幕府需才亟，燕雁纷纷已代宾。

和王箕山浙归被盗韵

桂花香里旧门庭，秋半归来景色新。长物家无诗尚有，吟成一曲一阳春。

钿合金钗一劫亡，非关造物忌多藏。针藤重启世传宝，古画奇书足品量。

闻道绿林知李涉，世无豪客此应然。荒斋四壁心千古，自剔残灯照冷颤？。

窃国无能但窃钩如斯小物复奚尤。赢金那抵传经重，记取菑余展远谋。

和王知事儒？见赠韵

读遍山经海志来，花无迷谷照尘埃。长安市上谁知己，也放葫芦坐一回。

写出溪藤满幅来，广寒人物两无埃。辋川诗句兰亭笔，拥向青？日几回。

重九怀王笱山东游

九日呼朋？共浮，怀人天末思悠悠。海云万里晴遮眼，明月他乡远来秋。坡老诗成徒惜旧，仲宣赋就独登楼。天涯知己人多少，能否麈兵破宿愁。

扶桑东望海云浮，说项攻袁几谬悠。蓟北关山明夕照，江南风角静深。秋言斗蚁劳成垒，总为飞仙惯住楼。个里是非慵去问，生灵今日已无愁。

吴楚乾坤日夜浮，长篙短桨浪悠悠。湖山色变三军令，风鹤声惊两度秋。瀛海好储新国手，衡阳忆否旧家楼。息肩最是南方福，休逐人言一例愁。

补九怀王笱山柬只修

历法襄瀛统，令人惜古秋。囊萸添酒意，采菊到岩幽。忽忆旧来客，偏增远别愁。未知溟海外，故事可曾修。

一樽开竹里，旧迹尚依然。人尽题糕客，风来落帽筵。郊

祁偏我愧，咸籍信皆贤。衣钵夸三叶，中流愧仔肩。

即事用蒲作英题新庵壁问韵

自锄明月补梅花，野逢苍黄免魄斜。九老风流邻已矣，而
余汲水自烹茶。

家山补种万梅花。搓出新条向月斜。待得花开人未老，重
寻旧社奠香茶。

溪桥几度访梅花，地老天荒坐日斜。野迳苍茫人迹少，拾
来松子自烹茶。

两岸疏林映野花，春来蜂蝶扑人斜。回头九老行吟处，雨
地山农但种茶。

旧社荒凉鲜作花，斋鱼粥鼓亦欹斜。闲吟迟日春风韵，剩
有清歌答采茶。

和吴？卿题壁韵

雨余林角漏朝阳，春入深山草木香。扫榻忽哦题壁句，恨
无怀酒共相将。

倒叠前韵

影踪萍水未相将，子重诗成院壁香。一路草花千树叶，最
堪爱惜是春阳。

和徐赞尧橘绿天原韵

脱离尘鞅便飞仙，莫道丹邱竟邈焉。奴隶千头棋一局，橘中风味已无前。

好景江南记一年，风流苏子兴无边。园林自有清闲趣，不在几先在物先。

堆泥种橘已成林，雪地冰天尽绿阴。得此岁寒心似此，沧桑何问去来今。

香疑兰杜碧疑烟，丹实离离望灿然。赤手乾坤凭独造，娲皇炼石只空传。

物物由来具一天，周莲陶菊各称妍。欲收一幅江南景，写作程朱观物篇。

人心见异每思迁，谁似登峰直造巅。此物此心同化后，苍苍别有个中天。

莫向霜林染指先，土宜物性两当然。成天平地功谁敌，悔我买山空费钱。

陈蕙圃就龙王宫结夜课从者数十人过此口占

平泉夜课结深村，震聒苏聋乐趣存。少长书声迢递起，溪风山月不黄昏。

叶简庵墓

山北山南两墓门，简庵姓字至今存。分明同 山灵庇，旧德先畴长子孙。

送梁君佑咸之官云南

一官慷慨走南服，铁轨焱风轮秋辘轳。丈夫所志在四方，百里亦足展骥足。况是民邦初建设，半籍官方半民力。民智未普奚由淪，民生未遂奚由节。政府申今日不遑，可悉痼？在苍赤。小民役役苦输将，谁知国计燃眉急。县今最是亲民官，沟通彼此乃天职。君今占籍在边徼，文明粗启习惯少。人尽由来可见天，张皇补苴徒纷扰。我思伏波征南恋，忠勤自励人无顽。又思武乡平南中，推诚相与疑叛空。英雄用武君用文，胸有积理丝不紊。肝胆许照滇池水，气谊欲薄点苍云。廿年读书兼养气，能以儒家通法意。有时儒法两不用，心境旷毋呈大趣。斧柯在手衣在笥，将禁不遑劳民事。毋虞麇杂多？獠，负气含生天等视。君家叔敬不寻常，毛序一篇大义煌。折腰何辜男儿志，敢矜 肱仕轻铜章。所愿大府针芥拾。酒赋琴歌恣所适。儒吏风流自不凡，且看牛刀试一割。新凉催趲行旌飞，我喜欲狂起捉笔。盘江循吏闻古稀，待君治行书第一。

补梅

地老天荒树不花，溪山春事属谁家。骚翁去后鸿留爪，社

屋颓余藓作葩。夹道两行全待补，迎人万本昔会夸。名流胜境良堪慕，莫遣东风怨物华。

欲呼古艳照新诗，正是风前雨后时。月地锄鸦勤点缀，寒天招鹤共维持。新条看逐芳春长，旧路来寻老衲知。一柄长？一樽酒，胸中早放向阳枝。

花天破缺唤奈何，属土移根学女娲。香国重开新世界，闲身合署老头陀。春风卉草天无际，迟日江山韵共哦。有客过桥来觅句，白云深处冷馨多。

种梅

踏雪寻梅梅未开，入山呼春春已回。春气先从梅根动，十株五株傍山栽。东风飘拂青条出，枝枝叶叶攒琼瑰。瘦岭移苗孤山种，驿使送春满溪洞。雨前培植风前扶，维浮一笑苏香梦。君不见康成种松龙鳞老，子猷种竹山阴道。癯仙不作三友孤，谁与岁寒倾怀抱。我学师雄但种梅，冰天雪地藏灵胎。空山转眼霏香雪，翩翩仙子来瑶台。

后补梅二首

胸中邱壑意中花，那辨诗家与佛家。老树独横三径月，夜灯闲课一经葩。檐前索笑春先到，雪里吟香句自夸。姑射仙人何处是，肯因黯淡陋风华。

种花未得且吟诗，春雪融时月满时。千载广平工写照，一枝齐已费争持。参疗病渴偿余望，待抱寒香问故知。如此园林如此景，冰天雪地几相思。

五月六日大雨寒甚

舆区占星多龃齟，灵均问天天无语。闻从野老问灾？，能识炎凉知风雨。四月已尽天放晴，纱索单衣被士女。一旦风雨相继至，索衾添帛无尔汝。乃知化工本难测，扞烛扣盘两无得。惟是愁风愁雨心，难苦清明鲜差忒。寄声当轴行新政，休改田家旧月今。乾隆几易天文台，伦敦空有望远镜。老农宣圣叹不如，先民还向刍荛询。古今测候多名家，那抵一篇夏小正。

寺前渚水为池戏成数绝

呼徒累石障溪流，一抹波光眼底收。莫怪淤泥淘不尽，工夫所欠在源头。

浅水滩头垒短缸，一泓清籁听淙淙。分明水墨徐熙画，但少浮波鸭一双。

云影天光一鉴储，由来观水胜观书。西风荡漾微波起，雾索闲趣，流向江湖已著忙。

秋 夜

北风一夜作新凉，吹送秋声入纸窗。睡起挑灯闲觅句，助人清兴是寒将蛩。

补重九

云雨阴阳翻覆手，揖让往来两何有。胸中傀磊久难平，呼徒且作古重九。山榘野蔌互登筵，西风吹放黄花鲜。世事纷纷不须论，衔杯乐圣称避贤。

九月十九日客至小饮即柬吴？卿

风雨误重阳，经旬始举觞。溪烟和日暖，树色过霜黄。佳客兼亲旧，清沽佐稻粱。席阑人未醉，萧寺晚生凉。

菊饮娱佳日，可人期不来。刘糕随客署，蒋径为谁开。好句笼纱久，吟身人甕猜。笋与如见贲，商略共吟梅。

技 穷

多艺乃多穷，时俗论如此。我闻初不信，课余讨医理。医理讨未深，吾道已云否。尽日东西行，晚归深山里。暑热渴焦唇，雨寒湿沾履。跬步一不周，怨声腾地起。医人人便活，见者亦云喜。医人人不活，我心胡能已。身心两受役，活人恐死己。读书贵爱身，轻生固所鄙。浊秽恣饥驱，铁石亦销毁。愿

天无病人，闲我花山里。

对 菊

淡白轻红菊几盆，一樽相对倒黄昏。杨妃醉罢西施笑，秋有精神月有痕。

移 花

拾来破盎自移花，泼髹条拥坐衙。白雁叫霜凉月上，一枝一叶尽风华。

萧寺秋深不耐居，风吹落叶满庭除。夜来赖有当阶菊，酒罢离骚一卷书。

灯下尝菊

一繁绕砌尝黄英，金碧迷篱眼底呈。色相由来都是幻，却从花下悟禅因。

灯前月下美人多，雪岭才登诧俗夫。老眼看花花有幸，得糊涂处且糊涂。

和王心垣后凋草堂韵

未尝窥豹见全斑，领取高怀楮墨间。世局无常龙起陆，风

云多幻鸟归山。轴窝愿适居偏好，台省人多虑不关。五尺榔
桃三径月，苍溪溪上踏歌还。

腹有诗书便不平，天生傲骨况随身。辋川诗好居宜画，长
吉吟成字亦岫。犹忆文风开燕粤，谁知烽火动淮秦。归来消受
清闲福，定是羲皇以上人。

浊世衣冠巧换形，是谁遁迹等瞿硎。救时欲抗匡衡疏，避
俗还寻费子亭。垂老光阴非草草，岁寒松柏自青青。河山非旧
人如旧，留与他年作典型。

岁晚天寒气飒疎，忍冬吾亦爱吾庐。风吹雨打二间屋，酒
后茶前一卷书。台乘高标名士号，襄阳欲访卧龙居。居邦宪典
须耆宿，之武休辞壮不如。

辟地

辟地将一弓，种茶得百户。喜随新雨活，行列了可数。春
风催早芽，香雾遍山吐。嫩笋抽齐头，旗枪分三五。邈如碧琅
纷纷玠，长元圃。采集命奚童，清泉活火煮。此地久无废，收成
一朝覩。但觉枝叶腴，忘却栽培苦。货恶弃於地，昔人非虚语。
记取造化工，要待人力补。

开 馆

隔窗杂长蕉和竹，灭却骄阳六月骄。分付馆童勤培护，任他蔽日与千霄。

次韩蕊园题壁句

名士名山两不虚，论诗何幸傍幽居。竭来古社春无恙，一勺清泉一卷书。

洞口春云拨不开，入山何处问寒梅。客来偏有吟诗癖，得句无劳击钵催。

再次韩蕊园韵

夕阳故社久荒虚，九老风流去不居。剩有诗名满东浙，今人犹读古人书。

清湍屈曲两峰开，满目榛芜换老梅。复社补花何日慰，不堪华发暗相催。

题金氏鸿远楼书目

兵燹风霜里，斯文几劫灰。简编当代贵，姓氏后人猜。独

有程书癖，何惭汲古才。犁然纲纪具，著述重三台。

桑梓犹恭敬，传书况有君。旁分渠禄秘，直掩戚黄勋。纪事先提要，衣言在绍闻。楼峰高处望，奕叶演清芬。

不负牛腰富，劬劬手著书。穷搜瓯越界，统接汉唐余。引路资神鹿，开函走蠹鱼。乡邦文献在，买椟岂还珠。

一再勤搜拾，多君劊劊忙。赤霞标并建，桃渚墨余香。孤馆投书远，鸿篇引兴长。何当盥薇露，相与细评量。

中秋仝人醺 饮合乐即席

梵宇秋高夜气清，西风对酒擘红绫。月轮共道今宵满，饮兴都兼野趣呈。揽鬓霜华惊人眼，挥毫拇战幸成名。醉余拂拭吟笺道，洗耳笙琶试一听。

即 景

半轮霜月耿清空，风弄当阶菊影重。林静夜深人不寐卧听泉响落丁东。

对 菊

破寺何人共冷毡，香香色色动人怜。梦醒欲借江郎笔，绘出风霜九月天。

祝 菊

萧萧种菊两三行，花未开时天已霜。为语众香摇落尽，好将晚节励芬芳。

护 菊

懒乞春阴护海棠，嫌渠有色却无香。东篱傲骨真堪惜，移向朝阳又洞房。

矮鸡冠

是本雄而冠，乃如雌者伏。一鸣恐惊人，篱根自咿喔。

红凤仙

种菊三两盆，婢学夫人长。黄花犹未开，纷纷列仪仗。

五十有二初度自述

笑向空林倒一杯，百年强半付书堆。闲中天地增空阔，老去文章怕剪裁。春意早从梅萼动，樽前犹对菊花开。渊明秫酿今初熟，记取阳春为发醅。

灯前拂拭旧头颅，古剑何堪复濯磨。对酒忽憎年老大，读书自悔计蹉跎。身如病叶惊秋早，愁似残丝触绪多。且向妻儿自慰藉，砚田硃瘠尚无波。

和金谔仙冬青书屋韵

重向名山醉六经，日新从此叶盘铭。参元历劫才堪白，大阮闲居眼自青。愧我襟怀徒落落，羡君物表自亭亭。欲携数剧苔生曲，坐卧浑忘物我形。

新开精舍着吟身，珠水旗峰两绝尘。野屋最宜常绿树，岁寒谁是后凋人。一空依傍存真相，重整书编付手民。文献台中关绝续，不须回首恨嬴秦。

自题忍冬书屋

打头矮屋及肩墙，岁晚犹闻草木香。避俗却寻牛背稳，(舍后有石牛头角，严然山所由名也)，惊寒不觉雁声忙。闲中日月

长於岁，老去头颅半已霜。一领羊裘丝五织，南荣小坐纳朝阳。

闭门深雪不知寒，睡起东窗日半竿。松竹梅花新眷属，诗书翰墨旧盘桓。尝来世味频年淡，识透人情百虑宽。斩棘牵萝居便好，赢他桃李满城看。

冰天雪地足吟赏，满目青林满纸诗。人户冻云偏耐冷，凌寒小草不知时。开檐看雪天花乱，呵冻裁笺夜漏迟。得句俄惊春满屋，门前万绿正差池。

敢从松雪侈家风，一曲冬青恨未终。晚节谁同松比劲，幽居何必栋斯隆。石盘夜月追踪近，古洞寒香人趣同。林壑未深人未远，不妨避世学墙东。(圆中兼 植冬青)

看 雪

侔色揣称赋雪难，评花手段试今番。庭前一夜寒威紧，都放千枝白牡丹。

戊午元旦

腊向残更尽，春从曙色回。远山含雨润，晴雪舞风来。儿女喧新岁，诗文佐旧醅。一冬寒已极，尚有岭头梅。

新春书怀

弹指年光半百过，春风又到旧吟窝。莫嗟镜里须眉白，自觉年来感慨多。世网渐随时政密，国防多赖近邦和。书生事业如云薄，拟买青山荷绿蓑。

元月五日郑颂国叶作民见过谈诗

大雅久不作，学者类俳优。谁知三日篇，绘尽东西周。世衰音乃激，理足韵自流。虽尔妇孺口，皆有君国忧。王迹熄板荡，继起在春秋。作诗何等事，乃以字句求。比兴失古义，不如樵者讴。两君得诗趣，谒我花山头。谈吐出风雅，文采谢雕镂。思探幽险出，欲作心肝呕。我见心为喜，诗教从可修。积习辟釭烜，原理探温柔。为道古人诗，诸美难尽收。试看善歌人，绕梁三日留。庖丁中肯綮，恢恢刃可游。此中具三昧，传神罕与侔。涉笔一粗浅，便如风马牛。鼓掌恣笑谑，妙理纷相投。仰见天际云，舒卷何夷犹。吾道只如此，难与俗人谋。

寻 梅

冰雪积一冬，山居索情味。把酒日寻诗，寒云撩短袖。鼻观忽闻香，蹊踪穷荟蔚。佳人在空谷，罗襦自掩蔽。但觉溪山

深，护此兰麝细。忽观罗浮仙，孤标迈尘世。如吹邹子律，春风满天地。闻声尚相思，识面良不易。对此倾杯罍，诗肠自鼓吹。仙子笑不言，溪壑增妩媚。浮誉失真机，俗语伤高致。涉笔易唐突，藏拙胜献艺。空山乘兴来，何必兴尽去。归读古人诗，欢讪如儿戏。遽然一梦醒，顿失罗浮处。

梅 花

生傍花山五十年，品香赋色愧前贤。逋仙去后知音少，青帝归来得意先。但觉清幽满林越，难将好句对婵娟。东风识面知无偶，痴立拈毫一惘然。

紫紫红红待艳阳，偏从冰雪显昂藏。一枝岭上惊先靚，千里江南忆故乡。岂尔心肠甘冷落，本来根气不寻常。广寒宫里前身是，尘世何堪与品量。

呼春示中儿

冻云在天龙在沼，春风未来寒未了。林间把酒日呼春，好音先报黄鹂鸟。昨夜羲和初整驭，飞廉不来滕六去。扶桑推出火琉璃，山河大地成和煦。我家小园新种花，阳光蒸动生槎牙。个中机括人谁识，纷纷歌哭杂咨嗟。岂知炎凉徒世态，如蚁慕

羶蝇逐秽。驷然大气转洪钧，嘘枯吹生一警欬。君不见朱门华屋成邱墟，昨日绮罗今卖珠。又不见断齏画粥者，转瞬驷马腾高车。方信阳春真有脚，麾之不去留不著。记取无私造化心，毋过屠门恣啖嚼。

早春题新庵壁

古洞梅花故国春，一枝墙角见精神。樵苏剪伐开因晚，留与东风作主人。

山行口占

小雨酿寒罢，轻衫试暖风。禽声林上下，流水石西东。路熟归偏晚，吟慳悟易空。回头数行迹，十里野花红。

不尽溪山胜，幽探恣浅深。轻风翻麦浪，宿雨长松针。山写徐熙画，泉招叔夜琴。我行殊自得，无复问知音。

赏菊题壁

吹到金风菊已胎，东篱觞咏日千回。世间谁是陶彭泽，也对黄色自发醅。

雪里桃花

戊午岁冬暖腊月桃花盛开。二十日忽下雪，平地深一尺，与花相映，惊为创见。戏成四律。

苍髯皓鬓拥华妆，十八新娘八十郎。大好风流开创局，偏从冰雪漏春阳。红颜薄命劳湔洗，玉屑银沙护色香。造化也从新历本，一翻旧样应民邦。

秣华先向冷中开，尚友贞松与老梅。万顷琼瑶凭点缀，一般蜂蝶谢倾摧。无言也抱冬心操，不速偏逢寒地材。摩诘芭蕉非涉幻，画图写出不须猜。

欲乞还丹驻少年，冰天雪地炼红铅。淡中设色春无价，绝处逢生冷可怜。轻薄浪遭时议久，天韶独占物华先。阴阳愆伏徒剿说，妙极能栽火里莲。

不因寒色灭南枝，最是园林得意时。天为东皇传粉本，人从北地采胭脂。赀贫聊比红炉炭，养女无劳白传诗。吟格倘标何水部，官梅臭味岂差池。

带叶梅

嫌将疏傲冠群芳，点染风华更大方。无意却抛霜露外，后凋应在竹松行。倘教人画春情盎，何怪题诗酒力狂。到底花魁无俗格，莫持旧例去平章。

有花无叶不精神，天为癯仙巧写真。住稳青山留本色，认来明月误前身。暗香浮动春风活，老树婆娑生意新。寒极尚劳仙鹤守，穷酸从此少人嗔。

叶自成阴蕊自香，广平赋笔费商量。贫无贬节方成傲，清若求名易惹狂。千古谁知花面目，一枝聊见雪心肠。罗浮仙向瑶台下，碧幢青幢步步张。

久伴孤山处士孤，别标品格炫夫夫。一樽醲醲香浮蚁，九斛牟尼绮结苏。墙角横枝添妩媚，水边疎影转模糊。经年未识东皇面，老学妖娆认得无。

想为当年聘海棠，还丹偷服鬓无霜。清樽约去和烟醉，好句吟来带叶香。高士卧看衫影薄，美人眉带黛痕长。一枝春入江南咏，纸价应教贵洛阳。

元日大雪

玉龙戏彩作新春，鳞甲飘扬万斛银。卧起忽惊风透胆，行来疑有月随身。喜占宜麦符三白，腊底至今已 下雪三次 盘合消寒荐五辛。书瑞书褫由史笔，何如实验在农人。

腊月南风正月雪，不堪元日已侵寻。(俗谚有云，十二月南风，正月雪。今果然)闲中布景天真巧，老去逢春感倍深。酒力多从寒气减，吟情未逐冷云沉。一村爆竹天花坠，稳趁新年乐

事临。

山行口占

雨过僧房静，闲行引兴长。半林松露湿，一路菌花香。雅
管参春课，晨钟罢上方。出山何所事，弥勒笑人忙。

雨 足

凝寒作冬燥，土膏冻不驰。苜蓿未肯长，菜萎麦欲死。一
朝春雨足，三农交慰喜。对此沟浍盈，不觉宿疾起。枯根复怒
生，新苗看蔚尔。三日霖未收，蔬韭满城市。登山试一望，平
畴绿如洗。从知造化心，好生无已已。寒燠自循环，菀枯无偏
倚。膏泽下崇朝，瞬息千万里，会无向隅者，天下共衣被。杞
人徒忧天，难与观妙理。

卧 雨

卧雨荒斋苦昼长，鹧鸪声里日昏黄。山疑写墨天如笠，灶
欲沉蛙水土上墙。栖亩粮多供鼠雀，下冈路滑顿牛羊。围炉引
被寻消遣，愁见山乡似水乡。

孤 雁

疑是空群鹤，高飞过楚江。洞庭秋水碧，顾影自成双。

和临海赵友竹六十自述韵

对影吟哦晤六旬，郢中一曲和何人。小阳春到月圆后，道是先生览揆辰。

得交鲍叔已称奇，谁道生儿又白眉。纸券邮书来陆续，天涯争不惜光仪。

风光州里漾明湖，招引文星入画图。写照有诗知己足，偶从光电显形躯。

本来色色即空空，着相难教识解融。镜里鬓眉湖上路，迥然一笑悟元同。

怕向临安话劫灰，河山故国久低徊。饶君携有生花笔，湖尾湖头日往来。

柬叶生作民即用岁暮书怀见寄韵

溪桥判诀易轻年，冷落晨钟与夕烟。壁上旧题诗未褪，齐头少立思常牵。羨君生具凌云翮，顾我身同退院禅。台峤人来梅未落，山灵珍重约难愆。

衡文校艺岁千回，一睹奇尤眼一开。沙里拣金偏遇石，鸡群失鹤便无才。锥囊宜脱毛生颖，鍛灶重扬叔夜灰。头角峥嵘少年事，异同何处判岑苔。

萧斋日拥破毡寒，燕去鸿来岁已阑。得鹿郑人空有梦，无鱼冯铗为谁弹。惊心世局横流水，回首光阴下坂丸。文誉如君知日起，每闻佳讯辄凭栏。

莫因择术漫踌躇，学剑由来逊学书。道在颜会贫亦乐，澜翻潘陆古堪渔。真龙潜海徒踞卷跼，食骥登程恣展舒。宝气烛天光射斗，盛时知遇未应疏。

林君子毅以瑞香见赠赋此

高士迈奇节，不因尘秽生。蕴蓄迥凡俗，爱护敢或轻。森然匡庐种，太紫储玉京。风雪偶见虐，根株萎不成。林子风雅流，种花心最精。未冬先荐盖，防湿慎瓶罍。遂今一树花，滋为数本荣。腊底持见赠，春态益盎盈。叶作葳蕤绿，花争玫瑰呈。阳和真有脚，散馥满房楹。案头日夕尝，高烛烧短檠。一萝遽然觉，疑在芙蓉城。

补次章一山太史己未冬日回海游故里韵

济蹇同撑逆水舟，风涛如此且回头。陶家松竹荒应在，汉代衣冠渺若流。气吐长虹怜故国，帆开寒雨下皇州。少陵自有忧时泪，不为居闲洒不休。

蓟门烽火几翻红，莫把崎岖诉碧翁。(庚子之变先生时已留京)万劫难磨名士气，九秋忽断大王风。上林赋就春难挽，重译材储使可通，莫道身如失巢燕，啣泥未忍玉梁空。(光绪季会上书 年先生言事)

十年踪迹等参辰，回首京尘识史臣。远海烟波闲国手，广寒明月认前身。世殊何碍渊源合，居近况兼文字亲。殉国一龔光氏族，(来时原注明鼎革时 章氏有秀才出家者) 得君良不愧先民。台山东畔海西涯，古洞旌忠说归家。解识匡时多远志，归来知己有梅花。客星不掩春陵榻，(先生与徐总统为故交) 天汉虚迥博望槎。我亦闭门弹古调，那堪世局尽如麻。

春 阴

阿谁辛苦惜垂丝，章上通明乞护持。过雨江山犹似梦，养花时节最相宜。贫家扫叶添薪急，老眼临窗作楷迟。莫道春光黯淡甚，出墙红杏称题诗。

春 晴

东风搁雨放新晴，矫首林端曙色明。旖旎柳边飞落絮，间关花底语流莺。重棉初解人添健，美酒宜沽客乍迎。吩咐祝鸠休唤雨，连朝有约作山行。

假馆棣花书院院为林氏祠学时竹坡

林君修葺方成故书此贺之

丹铅一席傍崇祠，黜陟重新乐可知。乔木新迁村带郭，鸿泥旧爪友兼师。(陈师穆甫昔会 林君凤笙馆此)好山雨过青排闼，明月宵深白照池。闲读壁间箴诫语，家风诗礼见规为。

春 寒

荒祠怯冷拥重衾，灯炷更阑梦未成。似剪东风吹不断，深宵一片读书声。

品字莲

六月炎风入山屋，骄阳欺花花馥馥。瓦盆炼出一枝莲，琼胎涌水现台阁。天上五城十二楼，芙蓉仙人居者尤。倒卷乾坤

入盆盎，婴儿姹女生并头。白云作质红云衬，众香万宝一囊收。
包藏什袞辟暑溽，长盖青筒掇苍玉。粉面佳人绕绿衣，太真醉
舞霓裳曲。芳香乍启通鼻观。水光荡漾添姿态。靓如静女俟城
隅，悄若神妃鸣玉佩。风前雨后自亭亭，烟火人间少此形。三
十六相巧变现，分明我佛示真灵。花山道人本火居，火里栽莲
当读书。得莲一柄花千瓣，梅檀散香满太虚。空山无人花自笑，
对此灵台生众妙。物物同斯造化机，唯圣践形斯为肖。我闻濂
溪有周氏，会把荷花比君子。云天月地共追陪，太极真机悟从
此。

前 题

两年种荷成三盆，夏来开出花一柄。自来美者本无两，王
嫱西子谁与竞。青筒擎雨张高盖，胎出新花惊乍见。粉香乍如
玉剖业，仿佛美人露半面。芬芬籍籍日铺张，重重叠叠数难遍。
我闻天上五城十二楼，对此如人芙蓉观。檀心久久透奇香，世
间兰麝无足羨。风前自作迴风舞，潘妃洛妃难步武。月明雨过
影亭亭，又似蓬莱观太真。世间奇物拟谁似，濂溪说是花君子。
人爱君子貌，我爱君子心，人心未必如其貌，相见肝胆可共陈。
此花此心恣芳烈，众香国里推第一。不将妩媚汨性真，薰德善
良从可识。竟日看花花如故，正气不受秋风妬。明年多种千瓣

莲，愿与君子共朝暮。

和陈襄臣五十四岁自述韵 (是年大水民 食恐慌异常)

马齿虚叨长一春，论交早识太邱陈。诗成各有千秋业，力竭偏怜百辈贫。告休屡画驰电急，写怀无意人年新。空拳久怕谈时局，肝胆如君可照人。

时难年荒不算春，阡咽城邑少红陈。啼饥忍视秦人瘠，济困谁鲁困贫。国有流亡棋再劫，歌成变征调翻新。上书同甫工筹画，可是林林待命人。

题叶孝子骊山庐墓图

骊山山下白云飞，孝子思亲对落晖。楸梧萧萧鸟夜啼，返哺不得乌心凄，乌心凄凄 母心喜。喜得佳儿伴蒿里。早年丧夫母所悲，谁抚孤成由母氏。添棉恤纬感焦劳，况闻盛德鸣人耳。孝子家住鸿溪边，扶柩衰经来翩翩。暑寒屡易志不改，儿心恋母母安然。秋雨一灯寒 泣，春来鹃花同洒血。夕阳朝日对荒莹，书师妙有传神笔。迄今已阅两庚子，后起闻风继前轨。从知叶氏世多贤，能开厥先斯为美。

辛酉新岁感事

五十六年驹过隙，春来白发又争新。偶翻黄历心偏怯，欲炼丹砂道未真。书卷仅存生命脉，灾荒又损国精神。流民载野谁堪问，但把新诗吁帝宸。

麦苗短短薯丝空，莫向东皇乞化功。历劫方知丰岁乐，言哀不让古人工。李桃枉自争春色，禾黍何堪问故宫。牢落余生重悲感，吟髭 断夜灯红。

对 花

闽地多茶花，异种纷然出。购得数株来，花开白如雪。晚岁厌孤冷，对此增萧瑟。忽有年家子，识我嗜花癖。嫁接一枝来，条长叶密密。未冬已蓓蕾，渐绽猩唇赤。岁底繁艳陈，爱此胜拱璧。一树六角红，山阿破岑寂。

古 意

青青岭上松，落落涧中石。彼此两不谋，山阿抱高洁。卷地北风起，墨云催雨急。浊浪拍长空，面目疑丧失。风雨一朝止，曦阳换霜雪。桃李已不芳，百卉随摧折。彼耸孤姿秀，此励磊 节。世宙长清平，忠佞何由识。

白云在天空，条忽成苍狗。世情多变纪，所见谁能久。荆棘卧铜驼，不必千年后。厦成燕雀贺，台荒麋鹿走。当日东陵侯，今为种瓜叟。人知恶衰歇，恤躬宜顾后。非誉两非真，所信在自守。

巢许生中天，高隐乃蹈道。世局际多难，苍黄方颠倒。士苟志匡时，乾坤须手造。於陵李尽蟠，首阳蕨易老。伯夷仲子流，闻道苦不早。人生期有用，忍逐蓬蒿槁。

五陵游冶子，裘马千黄金。丈夫不炫耀，乃与舆隶伦。谁知苧萝女，终日耽荆裙。光美乃自见，人吴空妃宾。举世尚皮相，谁能得其真。楚楚蜉蝣羽，生使凡目惊。

贵贱与大小，由来鲜笃论。人各羨所无，偶得称奇胜。太和日鼓荡，万汇相奔竞。鸛鷓安一枝，凤鸟击千仞。物情适所适，齐物物乃定。公侯与隶牧，饥来一饱仅。千钟岂为荣，一饭庸何病。

即 景

尽长少长教吟诗，酷暑薰蒸老不支。欲觅清凉新世界，芭蕉叶响雨来时。太阳如火水如汤，农妇农夫获稻忙。岂我爱凉人爱热，盘餐都带汗珠香。一觉酣眠一扇风，江亭水榭烫心胸。晚来却傍 榻坐，看放墙边月月红。

题陈夏臣桐阴试剑图

相见尝恨晚，披图识乃公。闲情新月下，豪气壮年中。秋
动横腰水，清生满耳风。王郎休斫地，从此已英雄。

宝剑篇会读，登台力不单。风来桐叶响，秋入剑光寒。观
国侷吴札，论交薄燕丹。楼兰方有事，休作画图看。

不寐

辗转匡床梦不成，索居心事太孤清。西风落叶萧萧里，听
彻山城鹅鸭更。

京邸惊秋十四年，难搔短发问青天。筒中也有骄人处，诗
卷新添枕上篇。

秋水芙蓉图题卷

一幅生绡一片秋，碧筒红意尚勾留。画师巧为开生面，游
女迟来识并头，凉露跳珠香欲活，空波照影艳无俦。坡仙丈八
塘边句，吟向西风韵更幽。

怕随仙子去朝真，摇落清秋绝点尘。禅到悟时空有色，笔
从淡处妙传神。帝城应悔司香远，宝镜争看及第新。莫道采莲
船已去，荒江奇艳尚惊人。

再题秋水芙蓉图

伊谁涉笔写芳莲，花映波心水映天。想自濂溪论定后，尘埃飞不到毫巅。

不住山乡住水乡，溯洄葭露尽苍苍。灵均一去谁知己，褪尽丛红尚觉香。

病起闲步（辛酉九月）

病起忘憔悴，临流识旧颜。骨余前度瘦，发又几丛斑。得酒疑尝乐，吟诗当养闲。笑看金样蝶，飞上半房山。

起卧连三月，辛酸亦饱尝。知医偏误我，却老岂无方。隐几魔神大，登楼足力匡。幸存吾舌在，刀匕辨微茫。

莫道经衰病，从今老上头。金刚须百炼，尊养喜双收。缓步添吟兴，抛书了怨愁。胸怀空阔处，往事付悠悠。

弥月舟车步，尊生道反轻。身如熨斗赤，火转药炉青。阶冷蜗呈篆，堂虚鸟说经。忙来花社友，几度访林垌。

岁朝

岁序重更合有诗，勉支瘦骨写新词。寒深方觉春来暖，晴久翻兼雨到迟。宿疾喜随春气减，穷愁惟有夜灯知。世间万事

花花甚，独向空山寄遁思。

春日书怀

拥书又过一年春，淡饭粗衣称老身。家人山深忘岁月，人经病久损精神。种松未作龙鳞长，对镜惊看鹤发新。回首昔年京汴事，风前几拂马头尘。

南北崎岖枉着劳，十年僵卧失朋寮。陈书莫发苏秦篋，起舞空操祖逖刀。涉世甘为龟曳尾，谋生拙拟燕营巢。五陵裘马翩翩是，揽鬓何堪已二毛。

且向东风日掩关，千秋事业托名山。文求投俗聪明误，诗未成家骨力孱。展卷眼光犹卓犖，上楼足力已蹒跚。从今努力耽文史，世局纷纭付等闲。

高卧山南学守株，韶华虽到却如无。风前乔木欣欣长，雨过流莺恰恰呼。对酒忽嫌心冷落，佳谁书不厌目模糊。缥緜十叶知谁荷，手泽春来待执觚。

杏花

数日不涉园，杏林红意驰。万蕊簇风前，色色露霞绮。山人雅好梅，胸次绝猥鄙。林麓郁孤清，对此亦心喜。阳和次第

回，千枝红旖旎。如行山阴道，应接无暇晷。我但贵所稀，人还艳所美。春色压江南，长途亘十里。遂今沿街卖，鬓边饰娼妓。不言蹊径成，何独桃与李。谁知色身幻，娇宠曾有几。新雨卸残妆，茵溷惟所止。嗟彼在势者，乘时乌能已。

山 行

一夜东风收宿雨，策杖行山日三五。丈夫当有志四方，安能毕生守处所。君不见夷吾一出江左安，岂徒东山有赌墅。又不见真氏大学衍义成，奚止西山羨高举。尚友古人不可得，戏呼松石作尔汝。朝日一编松阴阴，暮日一编石楚楚。十年一领破羊裘，踏破空山无俦侣。

闲 眺

雨齐凭高望，村涯尚积阴。山容因石瘦，林影隔烟深。炊火知朝暮，溪流自古今。近承贤宰意，疏刷免淫霖。

过林少秋果园

买园才一年，种树盈五亩。阳春相鼓荡，生意满林数。勾

萌甲者拆，枝叶相纷纭。共有林居想，君擅造化手。百年计树人，树树曾何有。巍巍夫子墙，桃李成阴久。暇日豫安排，菟裘待老守。吹嘘大地春，直接陶朱后。我来行畴间，心胸吐尘垢。欲得数弓园，相随作农叟。

馆归（时有足疾）

晴日归家山，强步二三里。旧病去若失，胜赏来未已。松柏郁古秀，李桃炫新美。彼此自怡悦，好恶任殊指。东风吹花开，蜂蝶逐香起。不待蹊径成，纷纷委逝水。造化何为者，颠倒逞奇技。谁能谢世荣，岁寒免摧毁。篝灯书所见，冥然契至理。

风雨中观诸生尝右军帖口号

（时壬戌七月二十日）

风雨撼荒祠，屋破头欲打。董生帷已撤，颜氏瓢亦冷。纷纷鸟投詹，哀鸣声若梗。我亦因感动，绕庄增怅惘。诸生正骤然，得意遂忘象。赖有兰亭书，来共群人赏。虎卧与龙跳，颠倒生奇想。风驰雨骤中，心目益旷莽。丈夫贵自豪，意气薄云上。不能一善名，徒为万劫烫。感此怀古人，篝灯自晃晃。乌

衣巷久墟，兰亭遗片壤。剩有永和记，初写已无两。持语后来秀，盛名不可强。

水月汉

一秋萧飒风兼雨，浙民十九成疮痍。馆徒尚敞中秋筵，不须赏月还闵水。三日淫霖溜如注，城乡男女居无处。处处摇船入市廛，蛙产灶瓢猿失树。前月长官批示来，赈饥买米米成堆。米方出口水上岸，熟区转瞬成奇灾。低田禾败谁收拾，高田禾头白而瘠。糠秕萸稗度将空，一年枉费三农力。登山一望白漫漫，沧海桑田不可识。矧尔未雨风先至，屋破墙穿难缕计。一朝遇雨更何堪，泛宅浮家藏无地。侃侃有屋怒飙竞，赧赧有谷洪波浸。帆船十艘一尾空，更从何处求身命。浩歌未已月正圆，愿圆无缺傍欢筵。月缺复圆人共喜，圆将复缺休皇然。圆圆缺缺寻常事，主宰分明总在天。我闻风水应潮潮应月，嫦娥对此应羞出。岂为民间风雨愁，故放圆光开具阙。月满潮高水自高，月亏潮落水亦落。民间莫便叹斯饥，登场庸有过冬谷。

赏 秋

无限秋光好，楼高得月先。水天同一色，风露冷无边。菊

瘦撑诗骨，樽空动酒涎。忽闻邻笛起，一雁语寥天。

盗 警

倾筐倒送一堆书，白壁黄金总不如。最是关心梁上客，犹
劳夜火照幽居。

博洽我方惭李涉，惟知豪客已知音。相逢不必相回避，世
上於今尽绿林。

老少年

人间何处有还丹，如此风霜历练难。少壮辛勤忘老大，绮
霞那不驻仙颜。

一片娇红一色秋，如君晚景足优游。人人都道红颜好，争
得红颜到白头。

诞日自述

行年五十七，未老已先衰。目似重云翳，霜从短鬓催。驻
颜大药少，得句好怀开。甲子母劳问，生辰记岭梅。

小儿不解语，识字复何年。呼对青灯下，愁添白发边。易
成猿失树，难共鹤谋田。笔砚吾家物，随兄及早研。

感 事

太息年来学术非，中华文物日衰微。也知弩末难穿缟，不道涓流竟溃堤。身世浑如巢幕燕，功名生等触藩羝。床头宝剑蒙尘久，不逐时豪舞晓鸡。

不 寐

漏尽浑无睡，寒声满枕边。月高 吠影，风急鸟投檐。瘦体爬搔惯，愁肠辗转牵。思量月日事，夜柝罢街前。

枕上怀林啸山伯岳

不寐怀诗叟，中宵索句忙。移灯常就榻，泼墨当焚香。娱老书千卷，传家锦一囊。半船楼上夜，回首已苍茫。

寒假别诸生

一枝鹤借又三年，领队呼群遍海天。胜友远联瓯越地，文坛重启竹松边。闲中风味花为课，老去生涯砚作田。岁历催成离索苦，风流云散总堪怜。

云山风物雨无差，莫道梅花胜棣花。一水一桥才出郭，半

乡半邑易忘家。晨钟雁市人初集，晚课牛山日未斜。唱到骊歌
从侣少，空遗泉籁起平沙。

判襁临歧感慨多，青年岁月漫蹉跎。文能造福非关命，道
不求真易着魔。爱国无多惟所学，回天在我信匪佗。兵争南北
纷纷是，何日中原许止戈。

即 景

斋头昨夜春风动，尽日追寻却渺然。微雨一天庭草绿，眼
前春色已无边。

癸亥重馆花山

重寻佛屋拨春云，咫尺溪流数道分。新出里闾 吠客，乍
晴风日鸟呼群。登堂僧侣晨星没，尧砌泉声夜枕闻。如豆一灯
人未睡，自翻筐篋检遗文。

毳毼头颅又上坛，十年仍拥片毡寒。如鸡断尾为牺恠，学
燕将雏补垒难。秀起小生推上席，出泥新笋称加餐。佛灯也有
重来议，一面梅花三面兰。

前 题

山泉数道晚奔腾，重扫经房封夜灯。满枕溪声半床月，院空林静剩雏僧。

孙三记昔曾来学，能读花山几首诗。尘世苍茫浑如梦，相逢我已白头时。

春日偶成

经年病足怕行游，春去春来恨不休。且向石盘高处坐，溪光山色望中收。

雨过山光绕郭青，逢时卉木尽伶俜。禽声也解林泉乐，故弄珠喉教我听。

凡籁何如天籁工，雨余空穴忽来风。噌吰一作万山响，误说禅林已晚钟。

杏桃能得几年红，学醉妆娇引蝶蜂。争似一般山踯躅，岩凹石罅尽春风。

枕 上

寺当山阙水当窗，山静人稀息吠庞。一夜东风吹水动，耳边清籁听淙淙。

首夏新晴

荒斋偃仰类羈囚，争得明曦破螟愁。乍暖乍寒天四月，疑晴疑雨日三秋。高松旭丽烟岚净，野爨香清饼饵浮，春去莫嗟人老大，索居心事尚夷犹。

溜声听断便登楼，草树连天绿似油。赴壑溪流争奋迅，出林禽响自钩辀。木棉裘卸身增健，金缕歌残恨未休。如此余春良可惜，吟情霁景况相投。

温岭东南被灾竹枝词

癸亥六月廿五夜，潮势排山倒海来。八荡居民存者少，田庐顷刻已成灰。

长山山下潮犹涌，撮屿山前尸乱横。鸡犬猪牛同积叠，可怜生命一朝轻。

几家人缚茅蓬死，几个儿随襁负漂。死里求生求不得，风高月黑手空招。

东奔西突势如雷，浪说潮声逐鬼来。千万生灵同日尽，恨无强弩射潮回。

家家骨肉乱漂离，父在东兮子在西。收尸身同窟葬，既无棺敛更无衣。

遗骸积潦臭难堪，到处池塘水似盐。败栋析薪瓜作食，欲炊无水更熬煎。

南始余霄北蔡洋，潮通二十几村庄。灾情况又风兼雨，已偏山乡与水乡。

仓箱已逐洪波去，衣被都随汤卤亡。留得几人仍旧死，天寒风雪苦虽当。

语 蕉

石罅种蕉不肯长，秋雨三日才上墙。炎歊毒雾卷不尽，得此斋阁生微凉。我与蕉语蕉且听，世途莽莽尘沙亘。与君愿作忘形交，挹取清芬助幽兴。蕉闻余言若点首，明月上窗风入牖。清凉世界此间存，呼起山妻出斗酒。池莲已谢菊未开，披襟相对且衔杯。樽前如见录衣女，轻裾长袖舞徘徊。

秋日馆中书怀(时连被风灾水灾， 东南海啸、漂没尤甚)

重携笔砚到僧寮，瓦破垣颓百不聊。佛殿灯昏饥鼠出，村居人散乱鸦噪。心因历劫情怀淡，诗到成家格调高。馆课尚虚吟兴发，商量述作继风骚。

旧游三五共昏朝，抚景成吟意自豪。时雨犹滋多病菊，
暖风新展半枯蕉。闲中袜履行山湿，愁到苍黎内火烧。水
后田庐谁可问，东南南百里付漂摇。

馆徒未集爨烟销，薪米纷拏仰代庖。村妇笑声猩出谷，先
生行止燕休巢。荒庵积秽难容佛，野树经风欲问樵。山径微茫
行蹭蹬，寻诗懒过旧溪桥。

雨过花山暑不娇，安排铛钵话良宵。形容渐逐年光减意气
还因坎坷消。州载生涯随逝水，满腔牢落涨秋潮。楼头粒管翩
然起，月黑云深未寂寥。

秋日花山怀古

溪烟步尽洞云幽，仄径颓垣想旧游。佛屋几更前度社，泉
声犹作数人讴。孤山有幸栖逋叟，地主何人识伯修。韵事销沉
花寂寞，斜阳荒草自成秋。

莫从杖履接名贤，术落天空思邈然。国弊中原犹斗蚁，寒
深高树但闻蝉。君臣义想方王外，林壑踪追绮夏前。太息斯人
不可作，小桥流水自年年。

空留诗卷在人间，正始风流迥莫攀。疥壁苍蝇休乱雅，登
坛功狗许趋班。樵归野唱连云动，林螟聋僧放牧还。闲我溪头
自来往，晨烟夕露访禅关。

学禅月远公咏用山谷韵

饮陶渊明有美酒，送陆道士过虎溪。持戒何如忘戒好，回头往事尽如泥。

后中秋五夕即景

沽酒呼朋待月来，中秋已过尚卸杯。宾罗瓿越缘非浅，地近溪山胜可推。珠露浓滋闲草树，金飙净扫旧云埃。可怜南北干戈动，话到中原半劫灰。

山 行

萧斋新雨后，缓步迎朝阳。地僻人烟少，秋深竹露凉。折枝林吠犬，量谷石成羊。引我登临兴，遥天雁一行。

幽寻心不尽，下陌度阡忙。人语谷声应，僧庵树里藏。仰天如写笠，听水欲成章。不觉午钟动，归来百感忘。

祝 菊

风雨蠹园菊，苗条转眼差。秋深扶不起，灌溉尚尔加。养兹今日本，待见来年花。我今为花祝，毋从风雨嗟。成毁各有数，所尝匪荣华。惟此生生意，凡卉无敢华。但得根柢固，及

春自萌芽。滋以花山泉，培以清溪沙。傲霜君所长，生意正无涯。饱饫冰雪气，岁寒何疵瑕。贞元转天地，红紫纷猗那。此君独恬逸，不以早达夸。含此芳烈性，谢彼桃李葩。骄阳作炎暑，睥睨出篱芭。

络 纬

绿衣女侍紫衣娘，切切凄凄伴夜凉。莫道精蓝寥落甚，秋来尚有好排场。

一声流转一声沉，贫妇缫丝坐夜深。倚枕寻眠眠不得，萧然秋意满园林。

次王箕山过访不遇韵

枉却高轩过，僧房掩艾萧。人题凤字去，谁与话良宵。

怀林仲岩

廿年前此共栖迟，泣鬼惊人笔一枝。觅句每因新雨后，论文曾共夜灯时。烟云半榻宵如昼，风骨双清道可师。剩有方山游迹在，深崖绝壁遍题诗。

和王笱山泉溪四咏

戴 山

重整词坛鼓与旗，三唐以下久无诗。石屏一集泔泔在，风雨名山忆往时。

戚小将军庙

狼筈军前血已殷，谩言忠孝两全难，而今香火平泉里，戈甲旌旗夜不寒。

披云山

为镇浊泥因铸铁，披云山下见曾经。新安箸述宗名理，风角何书许乞灵。

二女井

一般同有君亲感，巾幗鬢眉詎不齐。指点凤山山下井，崇碑亭障护香泥。

梅雪吟

雪里寻梅甘冷淡，梅开见雪更精神。雪花飞舞梅花笑，不是寒深那得春。

梅雪判事

选色微香久惹尘，开门梅雪又争春。我今怕下平章笔，雪与梅花两可人。

梅雪又判

诗人浪下平章笔，梅雪支吾直到今。色色香香成底事，一般同有岁寒心。

卷十 诗古近体

甲子开馆

雨雨风风伴索居，花朝五日起行庐。冷云三径争迎面，晴旭一轮初上除。旧种李桃齐放叶，闲糊窗壁乱堆书。算来甲子从今换，老傍溪山可奈余。

知非伯玉十年迟，尚抗颜行作导师。到眼文章花样变，回头岁月隙驹驰。寒深布被孤镫夜，风度书声晓枕时。苦乐此中谁共证，临流莫恼鬓边丝。

花山春霁读许盥孚重阳两律即和原韵柬沧社同人

老去情怀百事非，强携杯酒对春晖。寒深小院花初放，雨过遥山蕨乍肥。故国宫墙丛棘满，昔年师友晓星稀。樽前听谱钧天曲，流水高山识指归。

花山松石郁峥嵘，独步林垆趁午晴。草浅耕牛初放牧，林曦时鸟乱呼名。身因离索吟无赖，溪为奔流响不平。千里海天时极目，商量谁订为鸥盟。

闵雨

一雨十日草木皆死，农夫咨嗟天如充耳。匪天耳充人失岁功。造物好生岂乐尔穷。尔惰尔游何有岁丰。东邻有妇牟麦盈

仓，西邻有子苜蓿盈箱。时若不失年胡不穰。

新 晴

雨脚乍收云气散，羲和驭日出早旦。开门如见洞里天，目
朗眉扬心花灿。出林禽鸟亦知时，格砾一声上高枝。枝头自炫
羽毛美，不知树底来鹰师。嗟尔鹰鸇同气类，休因巧拙恣 害。
薰风暖日任飞鸣，一杯来伴山人醉。

自题见猎集

旧作成唾弃，偏逢见猎时。聊因三日雨，补录十年诗。镫
火吟怀畅，茶瓯苦趣知。推敲浑不解，留作覆瓿资。

三百风人旨，千年已阒然。邯郸空学步，骚雅自经天。恨
处元明后，不生魏晋先。葑菲如欲采，蛙蚓满阶前。

闻 雷

大雷山头云翻墨，雷声殷殷动岩谷。山人午睡正懵腾，贯
耳彷彿如破竹。匡床跃然起而坐，密雨敲窗听簌簌。炎敲顿歇
几席清，败蕉病菊都如沐。古人闻雷知所畏，今我闻雷足所欲。
恐惧修省在平时，岂待阿香时迫促。但此暑热逼人來，得雨清
凉满斋屋。雷动雨随草木苏，雷收雨散溪涧涸。记取当头霹雳

声，奚啻钧天闻广乐。

喜 雨

十日骄阳菊不鲜，忽闻急雨催雷鞭。东篱西落一时起，如病得药无后先。东南去岁遭淹没，斥卤栽禾禾畏日。根枯叶萎望泽殷，一朝得雨喜何极。人力所至偏且薄，东阡灌溉西阡涸。曾不崇朝偏天下，余润尚能及草木。山人爱菊如爱稻，终日抱甕愁易老。高田禾黍已芄芄，始信菊苗今不槁。

萤 光

宵行愁月黑，流星忽如雨。谁知萤火虫，万点散郊墅。闪烁出林，庚横映田水。令我心目炫，怪似青磷聚。耀耀所歌，明夷易斯取。居晦贵能明，理岂殊微钜。荒蹊野径间，照人无尔汝。俨向杖藜翁，分光抒行旅。惟尔好冥游，大雅少称许。阴阳各互用，处幽乃其所。朽腐多神奇，何事求全毁。杜陵太谿刻，余地无相处。岂知横渠言，万物皆吾与。熹兹一隙明，至道容可话。凉风入襟袂，依依若俦侣。相送尽一程，到门免艰阻。回首认归途，溪山森宝炬。

大雨早起

溜声才尔尚倾盆，一阵凉飈褪墨云。秋老却添红意思，金
铎开上孔家坟。

破石崩崖势似雷，僧寮夜静雨风摧。推窗莫怪滩声急，无
数黄龙出峡来。

雨过行秋

吹到凉飈褪墨云，水边山际见秋纹。几家晚爨烟初动，一
杵疎钟响乍闻。溪路泥深犹着屐，峰头霞绚欲成醺。萧萧柳色
斜阳外，引起行人兴几分。

闻 变

传闻风鹤起萧墙，杀气秋来正混茫。室有干戈儿女哭，人
皆兄弟海天长。触蛮战起蜗牛角，鸡鹜粮争文物邦。到底河山
成粉碎，从军子弟莫惊慌。

淮蔡骄横战斗成，谁云裴李少长城。军容未必真无敌，士
气如何久不平。收拾杯铛浇礪魄，分明弓箭等棋枰。从今一派
长江水，北去南来只耀兵。

护 花

天晚尘沙刮地来，篱间秋色易倾摧。雨旸慎下盆中水，枯落休谈劫后灰。夜静犹怜随月影，寒轻敢信傲霜才。愁中不待金苞启，日向西风立几回。

飞来钟

山县何来万石钟，曾恁传记说奇踪。飞空欲学剑冲斗，入水不随梭化龙。百八杵余春梦觉，两三朝事市谈供。疑经靖难宫悬改，爰傍忠魂避逆锋。

闻道双习等莫干，一归泥淖一依滩。九州到此开城邑，万里来应惜羽翰。奋迅风云金耀治，主张晨暮职当官。不鸣鸣便惊人也，休与蒲牢比类看。

二色凤仙重开

花中雏凤女中仙，炼得还丹返少年。别有菁华回造化，肯因风雨失婵娟。几番狼籍天难问，一样玲珑月再圆。闲倚阑干数红紫，风流真不减从前。

不用秋风怨落花，返魂香里灿流霞。忽惊羿后回蟾窟，终见王媵返汉家。月下风前看不足，锋唇翠袖认无差。一樽为订三生约，莫遣繁华转眼赊。

前 题

秋老山空鬓欲苍，幸凭羽客伴僧房。无端风雨添萧索，入化丹青付浑茫。几日重看新粉面，一樽相对旧霓裳。得君根气深如许，那信园林晚不芳。

紫紫红红满压枝，再相逢处最相思。织来锦费天孙巧，梦觉春生江管迟。色色空空空色色，离离合合合离离。荒畦抱甕勤防护，道是秋园得意时。

补题金柏铭留楼

高曾创制到今留，乔木苍苍长素秋。锡以嘉名宜叠韵，助兹逸趣在清讴。百年基构关先泽，几度氛祲却郁攸。人自好闲天惜物，为劳呵护待登楼。

隔岁逋诗走足催，遥仪居止忽心开。春风棠棣枝分长，秋雨梧桐梦乍回。花气下廉常馥郁，月痕到槛几徘徊。琳琅四壁诗千首，老怕登坛敢论才。

种 柳

空山春雨足，随路多栽柳。邻童负锺前，学子随我后。溪岸极高深，易生蹉跌咎。杖策既无功，栏槛尚恐朽。青青夹道生，功成一举手。根结土弥坚，叶密枝无丑。人行绿阳中，一

步一迴首。会待楼阁成，相送人户牖。有客听莺来，双柑共斗酒。东风弄长条，金梭抛左右。能织天然锦，匪直声求友。九老多种梅，生使清芬受。但慰岁寒心，青阳何所有，愿得窃窈娘，伴此清癯叟。万本羞雷同，垂垂被冈阜。我读必简诗，清芬常在口。同作江南春，化工何可否。

意 中

商量复社补寒葩，楼阁空空鬓已华。林下好藏溪屈曲，竹边应露石礧礧。属山辟圃添佳植，累石成桥隔俗讹。赖有中行贤起后，闲闲装点免纷拏。

翠微乞地缀幽亭，镌壁题铭道性灵。以外稍留花位置，於中兼树石模型。冬来对酒海梢白，春到吟诗柳眼青。桃李门前看已满，墙阴著录口口口。

歇绝风流五百年，待看后启景前贤。文章江槛精灵在，道义新安统系连。莫道遗珠空买椟，须知获粟在耕田。卅年栖止花山畔，慰藉区区此数椽。

自笑生平作计迂，从今满志尚踟躇。安排文酒联师友，整顿山林长果蔬。土瘠应教民好义，地闲雅合屋藏书。他年绝壑深林外，也有陶唐与有虞。

题凝翠楼诗

冷冬夜半检遗诗，体格岑高偶得之。自是荆钗裙布女，不因脂泽始生姿。

怕餐蔬笋学枯禅，开出骚坛自在天。陶写性真随处好，低昂差比玉台篇。

曾因摹拟陋隋梁，妙解清词宋与唐。赖有纵横一枝笔，裁红刻翠也无妨。

周旋瓠北与梅村，近世船山亦所尊。老去更无工拙计，珠玑沙砾任评论。

和裴牧斋六十自寿韵

夫妻双起复双眠，笑说流年六十前。少日居游成梦幻，中年哀乐託诗篇。点经晓露研朱锭，课读春风破冷毡。颜作绮霞头尚黑，羨君火里善栽莲。

安居美食足长年，心不求全福自全。辟谷无方惟淡泊，种花有诀荷传宣。乘龙婿至人皆雅，挽鹿车同爱不迁。晨起一竿河畔坐，期颐便至也由天。

乐天池上已成篇，花木诗书两有缘。诞日休嫌迟古佛，醉时有意学飞仙。耕渔放牧生涯富，松竹寒梅益友全。人世沧桑慵去问，高吟以外只清眠。

尽日花边与竹边，凭他直撞与横穿。发书人入山阴道，近岸家如上水船。秋老登盘饶橘柚，客来把钓有鱼鲜。心多乐意身多寿，何假昌阳服引年。

乱书堆里祝生辰，生悔王家误作宾。眼易重花三日别，诗能写照十分真。一家咸籍谁同调，二仲羊求许结邻。马齿终叨十日长，最难学得是清贫。

和郑生辉南过新庵见寄韵

泉溪西畔石牛东，琴筑当年兴未穷。故社重新梅乍放，(是冬余募修故社已成数楹。)清川无恙月方中。(时十一月至五夜也)尽多野趣收林壑，不碍精蓝妒雨风。剥复何常真宰在，喝来那不乐融融。

黄钟瓦釜久争鸣，厌世嗣宗眼怕青。老去空余皮骨在，闲中羞乞简编灵。江河日下风谁挽，桃李春深露不零。何只旧游离索感，山人还惜发星星。

叠和前韵

吾学川流折必东，溪山穷处赏无穷。香通梅信春何限，统接松山乐在中。(社学绍紫阳者实述得郭松山之传)别派忽传诗弟子，骚坛偏仗佛门风。(九老以来诗社皆假设僧寮，)昌期五

百从今转，儒墨将无水乳融。

敢矜道大叩斯鸣，潦倒词章供杀青。千载横渠通鼻息，(余有正蒙浅註。)一编江槛见精灵。(潘伯修先生文，最所服膺。)霓裳旧部随云散，杞梓新栽待雨零。昨夜斗牛光气动，东南从此兆文星。

三叠前韵

燕飞西去伯劳东，谁共昌黎赋送穷。眼底枯荣抛世外，老来事业在盘中。雨余梅长青青干，春到人披霭霭风。静夜朗吟新岁韵，闲愁俗虑尽消融。

络绎篇章号善鸣，高怀常对一镫青。酒拚醉罢杯无算，诗到豪时笔有灵。求学每愁佳友少，钞书犹惜故编零。长风破浪男儿志，休逐桐江向客星。

除 夜

过了今冬廿九夜，已成六十二年人。一生所幸在藏拙，万事何烦太认真。历尽炎凉知世态，种来瓜豆信前因。曙鸡听唱晨光动，童孺争来贺岁新。

和陈德升听山楼隐居韵

意气元龙百尽楼，此心却为古担忧。静参时事天难曙，慨谘心期水共悠。绕砌竹阴宜负夏，出林桐叶易惊秋。桃花旧种红如许，已是立都前度刘。

和湖北陈汉丞继平见赠韵

君自乙酉选拔，嗣登乡科，寻应经济特科，试以内阁。中书用因荒乱奔走闽浙。丁卯夏持刺谒余，余喜其谈论甚豪，且能诗亦工书法。

谁怜粉碎旧山河，劫后衣冠狼藉多。世变方来庸有幸，文人结习总难磨。相逢歧路天难问，欲俟清时老奈何。衣钵能传君可庆，不堪世界尽风波。

风尘识面动钦迟，等是鸛鷄借一枝。厌乱凭谁培国脉，养兵到处竭民脂。孤怀落落谁携手，俗眼纷纷只相皮。一幅珠玑一杯酒，湖天万里证新知。

次郑生辉南秋兴韵

雨过凉飙生，林壑动秋意。蕉桐心早枯，余滴迸如泪。胡然悲秋士，感时失真契。炎凉自世情，淡泊存至味。愿言师泉明，吟诗养道气。

次郑生辉南天马写望韵

君从天马来，我自居牛岭，可望不可即，云烟隔深迥。开
函见君诗，仿佛接声影。能探造化藏，取用良无尽。冈月与山
风，近趣收清静。佳哉赤壁游，中流放孤艇，末学事幽险，绝
凿逞奇警。谁知吟咏道，微妙由神领。登高始自卑，终当涉巅
顶。吾子果好游，超然司诗境。

和毛震伯冬日游花山展谒九老祠韵

高轩一过便裁诗，展读春生九老祠。遥想梅花得知已，溪
头多放一枝枝。

楼傍僧居山面楼，商量啸侣命同俦。谁知时难年荒并，心
事悠悠两阅秋。

临溪疏影自横斜，上客清吟雨不讹。坛坫主盟知有属，愿
君无负岁寒花。

游踪江槛尽相如，避寇西来吊故墟。名士名山终有待，岂
容长隔水云居。

先严梅隐公自定年谱 长男乾沐手补录

丙寅 清同治五年 公一岁 十月廿六日生於耕云别墅

丁卯 六年 二岁

戊辰 七年 三岁

己巳 八年 四岁

庚午 九年 五岁 从石牧公住城过目成诵

辛未 十年 六岁

壬申 十一年 七岁

癸酉 十二年 八岁

甲戌 十三年 九岁 受业诸葛哲生夫子

乙亥 清光绪元年 十岁 从石牧公馆箬横疔作

丙子 二年 十一岁 从石牧公馆石门

丁丑 三年 十二岁 仍

戊寅 四年 十三岁 受业叶彬士夫子

己卯 五年 十四岁 受业江竹宾夫子

庚辰 六年 十五岁 仍

辛巳 七年 十六岁 受业陈子冶夫子於继善寺

壬午 八年 十七岁 梦吞丹篆

癸未 九年 十八岁 问业张璿卿夫子

甲申 十年 十九岁 是夏病暑几不起

乙酉 十一年 二十岁 受业张璿卿夫子
丙戌 十二年 二十一岁 受室林氏
丁亥 十三年 二十二岁 受业梁岑朋夫子
戊子 十四年 二十三岁 仍
己丑 十五年 二十四岁 受业陈子冶夫子於鹤鸣书院凡

四年

庚寅 十六年 二十五岁 居父忧
辛卯 十七年 二十六岁 仍
壬辰 十八年 二十七岁 受文宗陈颐知入邑痒
癸巳 十九年 二十八岁 应省试
甲午 二十年 二十九岁 馆花山
乙未 二十一年 三十岁 仍
丙申 二十二年 三十一岁 仍
丁酉 二十三年 三十二岁 长女梅儿生
戊戌 二十四年 三十三岁 应省试
己亥 二十五年 三十四岁 仍馆花山，著四书经世绪言
庚子 二十六年 三十五岁 长男乾生，问业郑若愚先生

得医学 七篇，序义初稿成

辛丑 二十七年 三十六岁 与林仲严等结社花山，秋，
应省试被荐

壬寅 二十八年 三十七岁 仍馆花山，是秋迁馆鹤渚

癸卯 二十九年 三十八岁 中式浙江乡试

甲辰 三十年 三十九岁 应礼部试于河南不第 论语序

义成

乙巳 三十一年 四十岁 司教邑官学堂

丙午 三十二年 四十一岁 司教玉环玉海学堂

丁未 三十三年 四十二岁 以浙藩保荐入都考职以盐课

大使游 闽一月而归遂不复出

戊申 三十四年 四十三岁 重修本宗谱牒成

己酉 清宣统元年 四十四岁 司教邑中学堂

庚戌 二年 四十五岁 丧妻 是岁十月居母忧

辛亥 三年 四十六岁 居母忧

壬子 民国元年 四十七岁 继娶蒋氏 七篇序义再稿成

癸丑 二年 四十八岁 长邑鹤鸣校 主孔庙祭

甲寅 三年 四十九岁 仍 建鹤鸣教室十楹

乙卯 四年 五十岁 还馆花山

丙辰 五年 五十一岁 仍 著易象管窥未完稿

丁巳 六年 五十二岁 仍 诗古义后案成

戊午 七年 五十三岁 仍 张子正蒙浅注成

己未 八年 五十四岁 仍

庚申 九年 五十五岁 次子瑞鹤生 是秋迁馆棣花书院

辛酉 十年 五十六岁 仍 著尚书管见未竟

壬戌 十一年 五十七岁 仍 著周易二读随笔未完稿
癸亥 十二年 五十八岁 还馆花山 三男瑞禾生
甲子 十三年 五十九岁 仍 自编诗稿见猎集
乙丑 十四年 六十岁 募建九老祠
丙寅 十五年 六十一岁 四男瑞虎生 编纂玉环县志
丁卯 十六年 六十二岁 九老祠落成 纂花山志成
戊辰 十七年 六十三岁 家居养疴 著原生篇
己巳 十八年 六十四岁 是岁七月八日卒於耕云别墅